

カネソウ

EXJoint

建築用エキスパンションジョイント

施工要領書

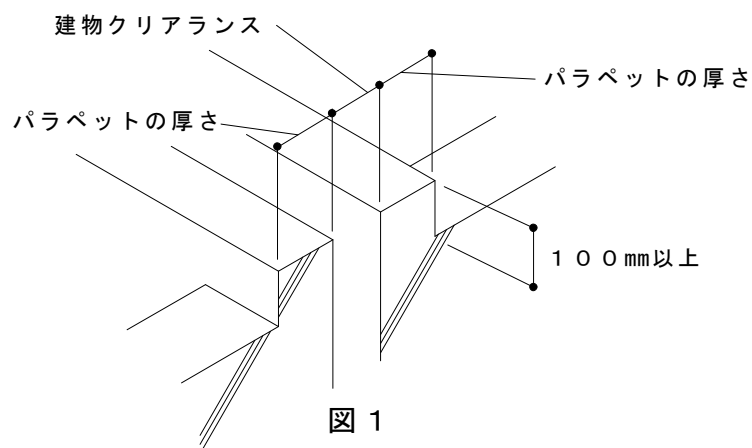
目次

タ イ プ	製 品 符 号	ペ ー ジ
① 屋根－屋根	SX (AX) 11	11-1～5
② 屋根－外壁	SX (AX) 12	12-1～6
③ 外壁－外壁(先付)	SX (AX) 22	22-1～6
④ 外壁－外壁(後付)	SX (AX) 22A	22A-1～7
	SX (AX) 22AE	22AE-1～7
⑤ 外壁－外壁コーナー(先付)	SX (AX) 23	23-1～6
⑥ 外壁－外壁コーナー(後付)	SX (AX) 23A	23A-1～8
	SX (AX) 23AE	23AE-1～7
⑦ 天井－天井	SX (AX) 44	44-1～7
⑧ 天井－内壁	SX (AX) 45	45-1～6
⑨ 内壁－内壁	SX (AX) 55	55-1～6
⑩ 内壁－内壁コーナー	SX (AX) 45 (B)	45 (B)-1～3
⑪ 床－床	SX (AX) 66	66-1～5
⑫ 床－内壁	SX (AX) 56A	56A-1～5

屋根－屋根用 S X (A X) 1 1

下地仕上げ（パラペット仕上げには、次の点に注意してください。）

1. E X P. J 取付部のパラペット高さは、カバーと他の金物等の干渉と地震可動時パラペットとの干渉をなくすため図 1 のように 1 0 0 mm 以上の段差を確保してください。
2. 建物のクリアランスは、変位量にあわせて仕上げてください。それぞれの規定値よりも狭い場合には変形性能が確保できなくなる場合があります。



取付準備

製品は使用場所別に手配書の部番に合わせて梱包出荷されます。取付前に部品ユニットがすべて揃っていることを確認してください。

取付は次の順序で行ってください。

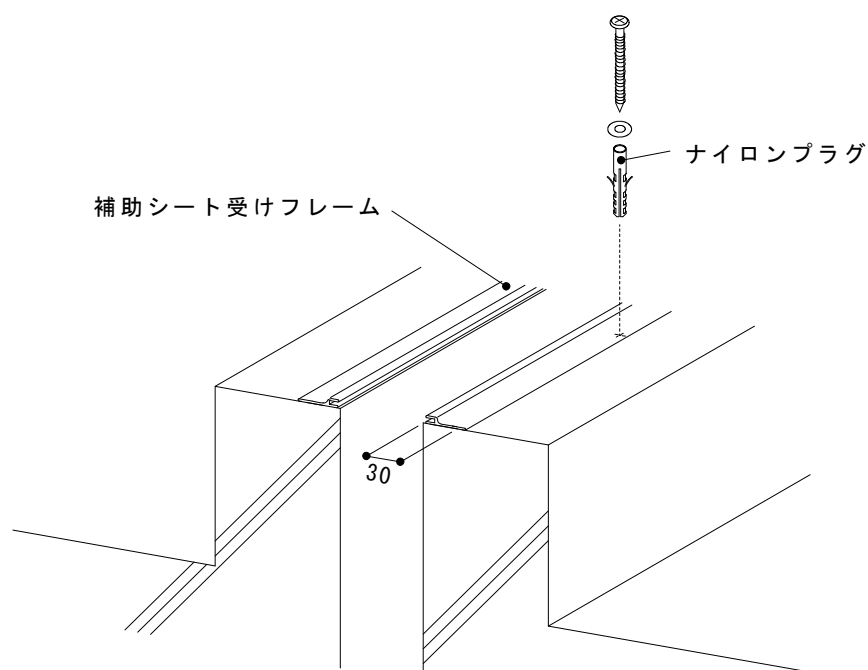
1. 補助シート受けフレームの取付

パラペット、クリアランスによって図 2 のように内側から 3 5 mm の位置に補助シート受けフレームを取付ます。取付に先立ちフレームの穴位置に従って躯体に、 $\phi 6$ 、深さ 4 0 mm の下穴をあけます。次に付属のナイロンプラグを下穴に挿入し、固定ねじで止めます。

（固定ねじは、事前に平ワッシャをセットしておきます。）

注）規格品については、パラペット厚が 1 2 0 mm を除く全機種に補助シート受けフレームは取付けます。

注）規格品以外は、施工図に基づいて補助シート受けフレームの取付を行って下さい。



2. パラペット用フレームの取付

パラペット用フレームの穴位置に従って躯体に、 $\phi 8$ 、深さ60mmの下穴をパラペットの外側から65mmの位置にあけます。次に付属のナイロンプラグを下穴に挿入し、固定ねじで止めます。（固定ねじは、事前に平ワッシャをセットしておきます。）この時フレームの長手方向の端部はパラペット端部に合わせます。（図3、4）また、補助シートの取付位置については、1で述べた補助シート受けフレームに取付るタイプを図3にその他の直接パラペットフレームに取付るタイプは図4にそれぞれ示します。補助シートの長さについては、図3、4に示すように200mm程度垂れ下がるようにして下さい。この部分は、外壁用補助シートと接着することになります。フレームには、止水テープ（ブチルゴム付きアルミテープ）を図4のように張りつけて下さい。

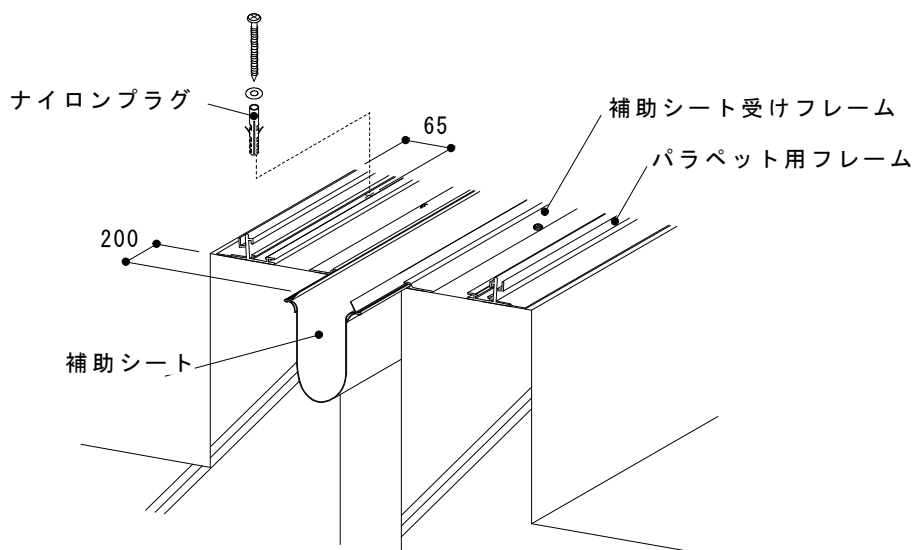


図 3

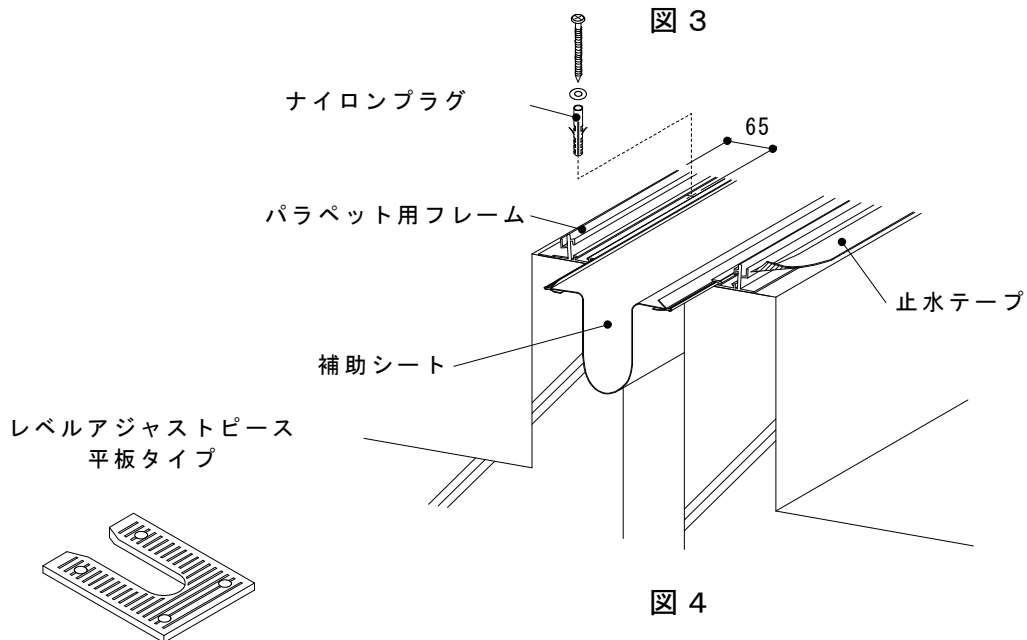


図 4

図 5

注1) フレームユニットの固定用穴は、風速60m/Sの風にも耐えられるように設計時に計算され数量が決められていますので、必ず全て固定して下さい。

注2) フレームユニットのレベル出しには、付属のレベルアジャストピース（図5）を御利用下さい。調整範囲は10mm程度です。ピースを5枚以上使用すると10mm以上の調整が可能ですが5.0×50の固定ねじでは所定の固定力が確保できないため50mm以上のねじを使用して下さい。

注3) パラペット用フレームのジョイントは、図6のように接続金具を差し込んでねじで締め付けて固定して下さい。

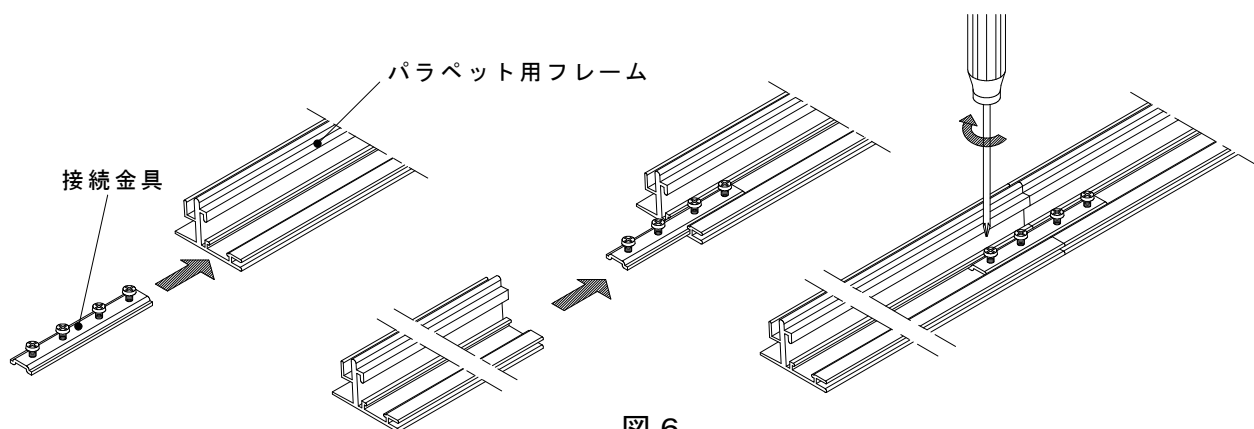


図 6

3. ホルダーユニット及び止水板の取付

パラペット用フレームに対して止水板とホルダーユニットを取付ます。フレームの端部に合わせて止水板を取付、次にホルダーユニットを取付ます。止水板は、ホルダーピッチ決めにもなっているので交互に図7のように取付ていきます。ホルダーの取付方については、図8に示します。ホルダー取付金具を下に押しパラペット用フレームの溝部に引っかかるようにして取付て下さい。次に、取付たホルダーの位置を左右均等に割り付て下さい。この際ホルダーユニットのホルダー受けがパラペットの端から端の中心部になるように取り付けて下さい。

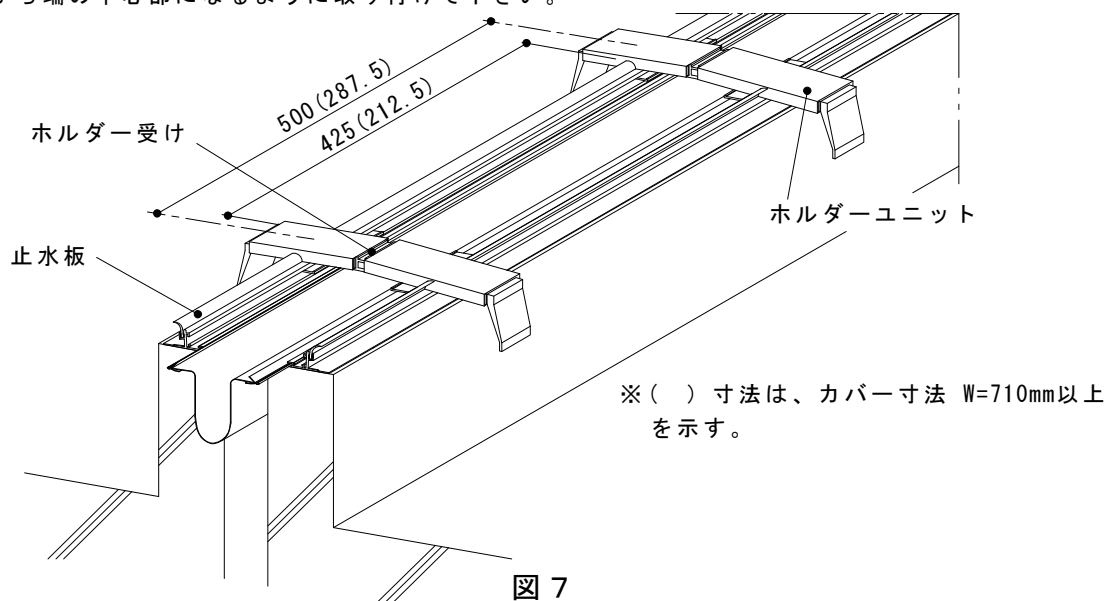


図 7

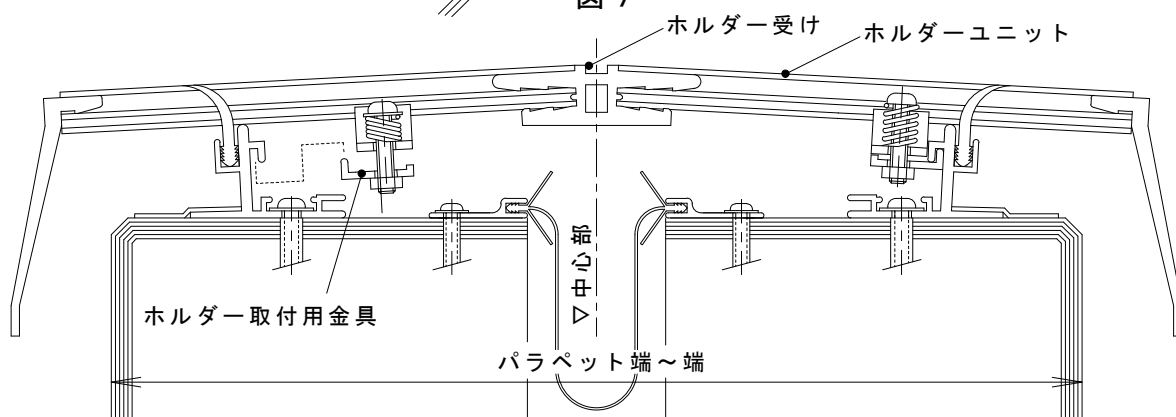


図 8

4. カバーの取付

カバーの取付は、両端の小口カバーの付いたものから取付ていきます。この時、既に取付たホルダーユニットに図9のようにカバーを嵌合させます。

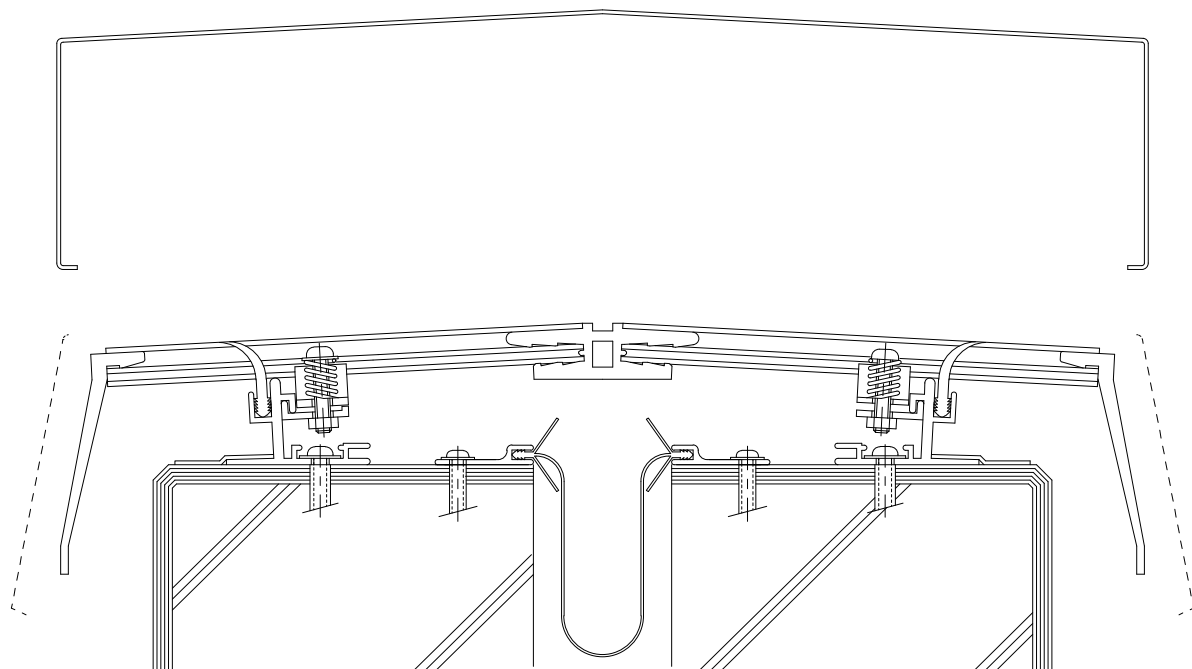


図 9

※カバー接続部の取付は、次のように行います。

カバー接続部は、コーキング不要のジョイナーを取付ます。取付方については、図10に示すように片側のカバーの先にジョイナーを嵌合させておき、そのままホルダーに嵌合させます。そしてもう一方のカバーを先に嵌合させたカバーに対してジョイント目地を取りジョイナーの上より嵌合させます。

注) 屋根用のカバーの接続部は図14に示すように、6mmの目地を必要とします。この目地幅は屋根における温度変化によって、カバーが熱膨張した場合の影響を避けるために必ず設定してください。

※ () 寸法はカバー寸法W710mm以上で
カバー長さが3000mmの場合です。

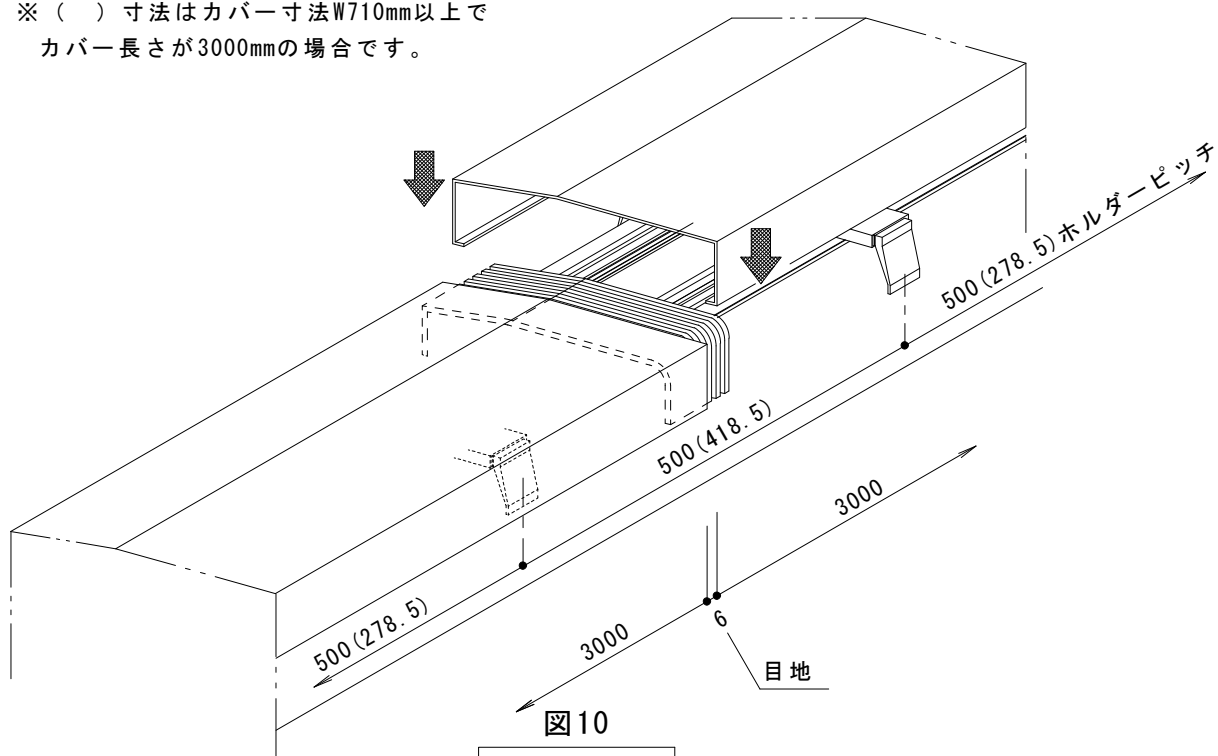
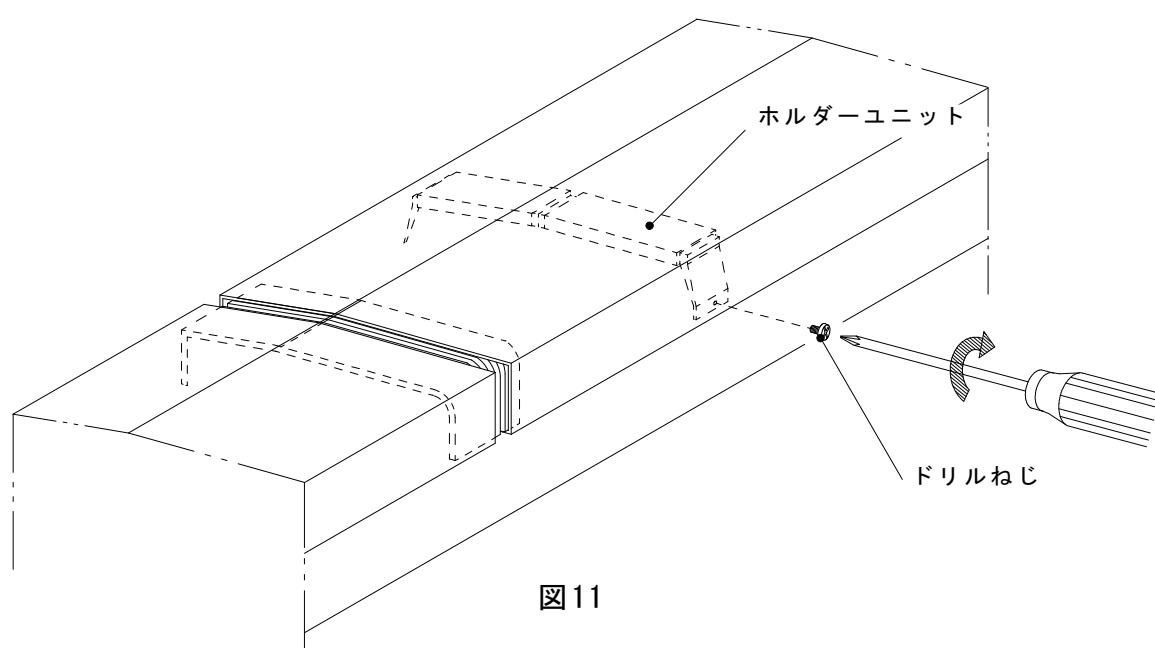
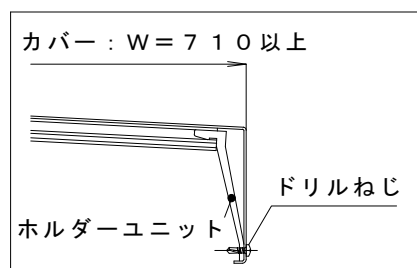


図10

5. カバーのねじ止め

カバー寸法 $W=710\text{mm}$ 以上の場合、図11のようにカバーとホルダーユニットに $\phi 3.6$ の下穴をあけカバーにドリルねじで固定します。



屋根－外壁用 S X (A X) 1 2

下地仕上げ（パラペット仕上げには、次の点に注意してください。）

1. E X P. J 取付部のパラペット高さは、カバーと他の金物等の干渉と地震可動時パラペットとの干渉をなくすため図 1 のように 1 0 0 mm 以上の段差を確保してください。
2. 建物のクリアランスは、変位量にあわせて仕上げてください。それぞれの規定値よりも狭い場合には変形性能が確保できなくなる場合があります。

取付準備

製品は使用場所別に手配書の部番に合わせて梱包出荷されます。取付前に部品ユニットがすべて揃っていることを確認してください。

取付は次の順序で行ってください。

1. レベル墨打ち

外壁フレームユニットを取付るためのレベル墨を打ちます。レベル墨の位置（A，B 寸法）は、図 2 及び表 1 を参照して下さい。

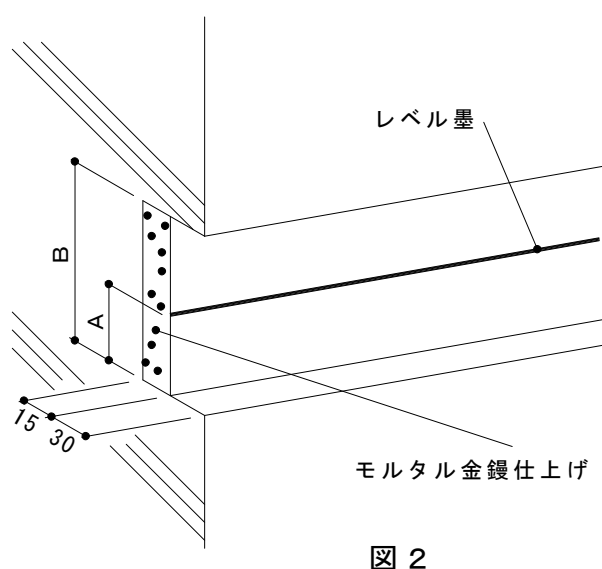
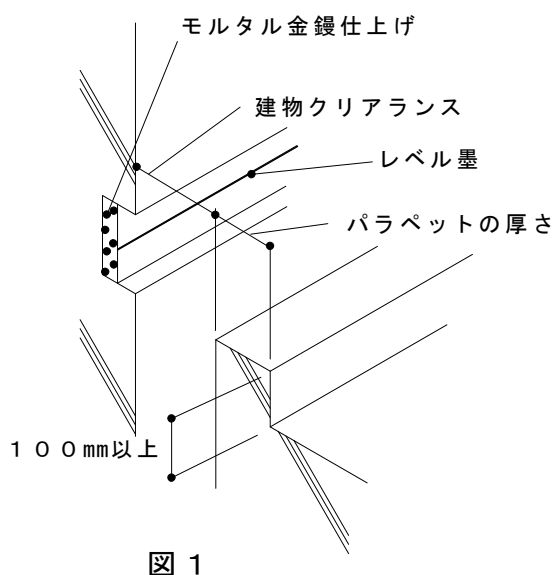


表 1. A，B 寸法表

呼 称		A 寸 法				B 寸 法			
		1 2 0	1 5 0	1 8 0	2 0 0	1 2 0	1 5 0	1 8 0	2 0 0
SX12	— 50F	25	27	29	30	80	82	83	84
SX12	— 100F	28	30	31	32	83	85	86	87
SX(AX)12	— 50G	25	27	29	30	80	82	83	84
	— 100G	28	30	31	32	83	85	86	87
	— 150G	31	32	34	35	86	89	89	90
	— 200G	34	35	36	37	89	90	92	93
SX12	— 300G	39	40	42	43	94	95	97	98

2. 壁側フレームユニットの取付

壁側フレームユニットに穴あけられた穴をレベル墨に合わせφ6、深さ40mmの下穴をあけます。付属のナイロンプラグを下穴に挿入し、固定ねじで壁側フレームユニットを固定します。取付下地の不揃いはレベルアジャストピース（付属品）を利用して調節します。図3、4を参照してください。
※フレームユニットの長さは12-6 図13のようにジョイント材（ジョイナー）を設置する為に160mmスキマを設けられるようにあらかじめ出荷時より短めに切断されている為、ユニット一体の切断をお願いします。

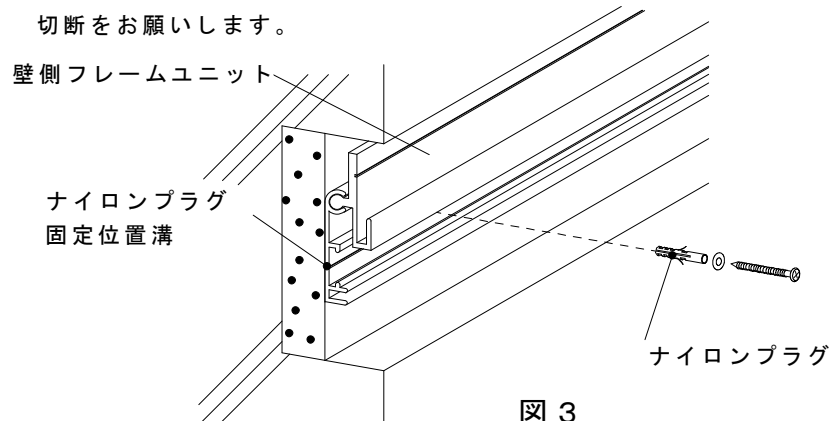


図 3

レベルアジャストピース
平板タイプ

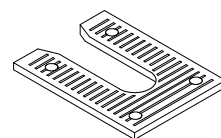


図 4

注) 壁側フレームユニットのジョイントは、図5のように接続金具を差し込んでねじで締め付けて固定してください。

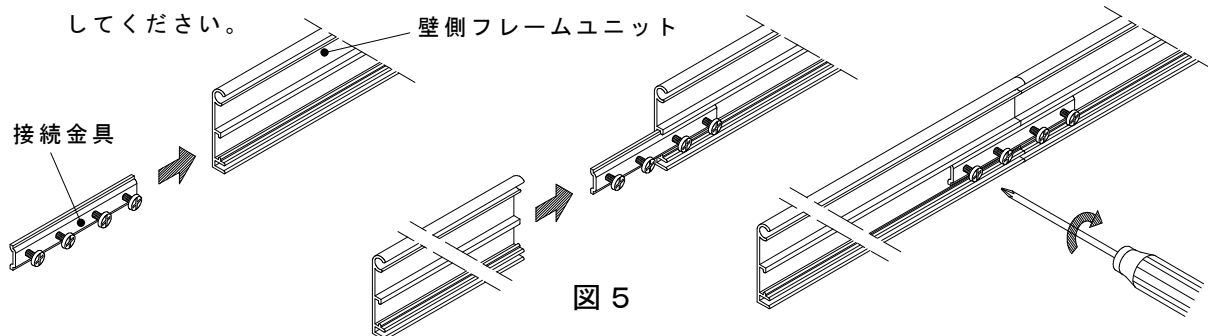


図 5

3. 補助シート受けフレームの取付

パラペット、クリアランスによって図6のように内側から35mmの位置に補助シート受けフレームを取付ます。取付に先立ちフレームの穴位置に従って躯体に、φ6、深さ40mmの下穴をあけます。次に付属のナイロンプラグを下穴に挿入し、固定ねじで止めます。
(固定ねじは、事前に平ワッシャをセットしておきます。)

注) 規格品については、パラペット厚が120mmを除く全機種に補助シート受けフレームは取付けます。パラペット厚が小さい場合は補助シート受けフレームを取付けするスペースがないためパラペットフレームに直接付けます。

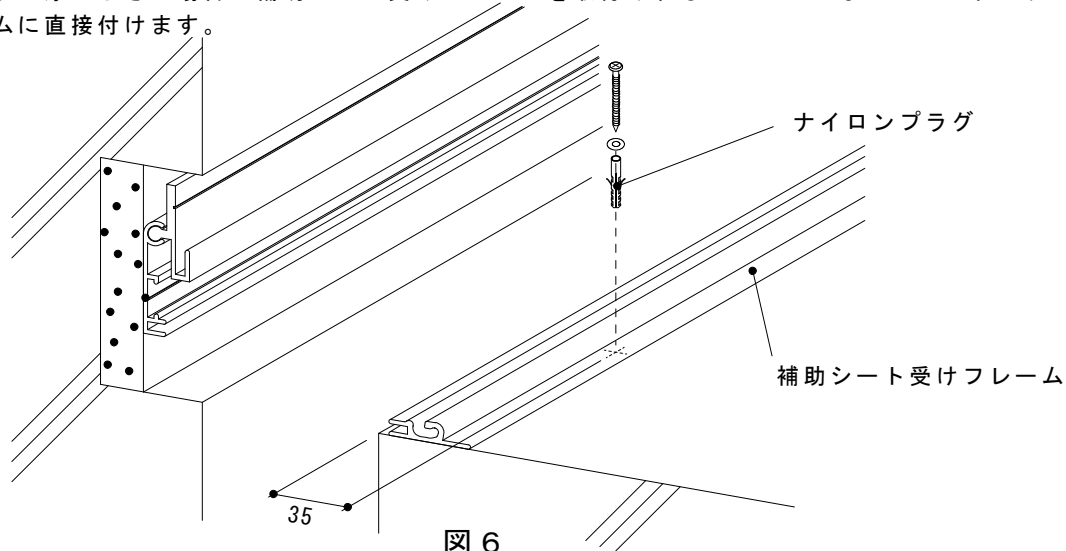


図 6

4. パラペット用フレームの取付

パラペット用フレームの穴位置に従って躯体に、 $\phi 8$ 、深さ60mmの下穴をパラペットの外側から65mmの位置にあけます。次に付属のナイロンプラグを下穴に挿入し、固定ねじで止めます。（固定ねじは、事前に平ワッシャをセットしておきます。）この時フレームの長手方向の端部はパラペット端部に合わせます。（図7、8）また、補助シートの取付位置については、3で述べた補助シート受けフレームに取付るタイプを図7にその他の直接パラペットフレームに取付るタイプは図8にそれぞれ示します。補助シートの長さについては、22A-7 図16、17に示すように200mm程度垂れ下がるようにして下さい。この部分は、外壁用補助シートと接着することになります。フレームには、止水テープ（ブチルゴム付きアルミテープ）を図のように張りつけて下さい。

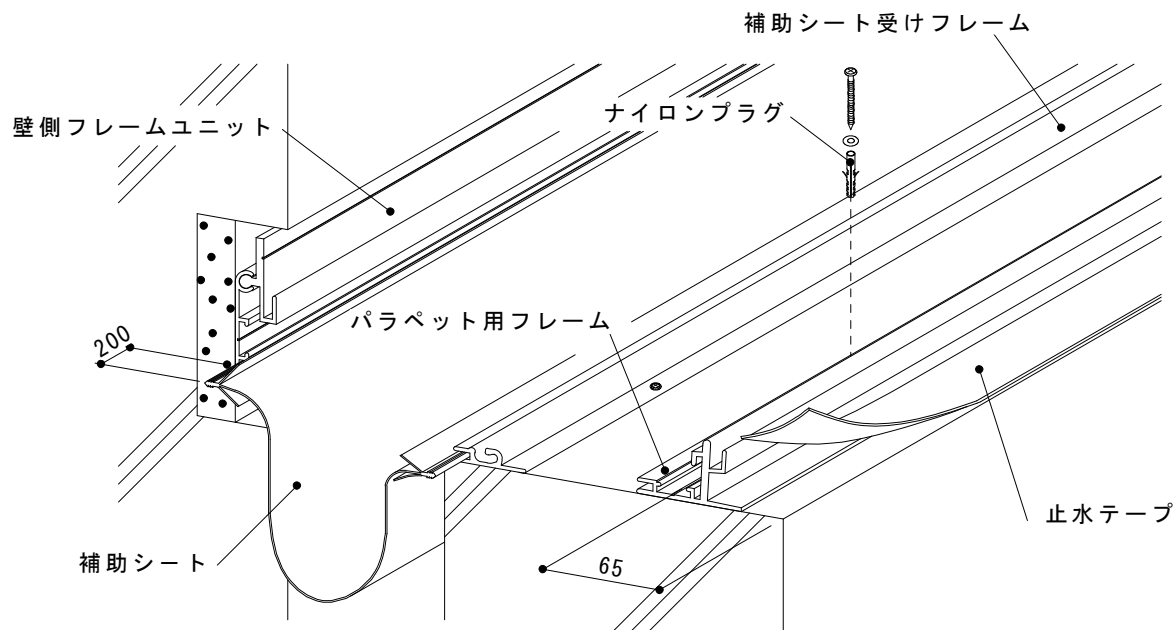


図 7

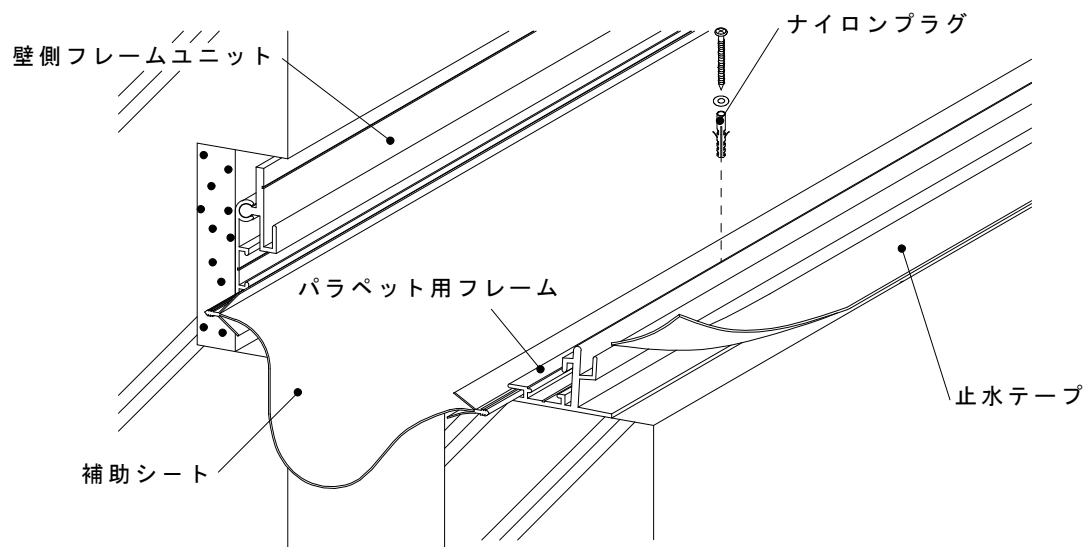


図 8

注1) フレームユニットの固定用穴は、風速60m/Sの風にも耐えられるように設計時に計算され数量が決められていますので、必ず全て固定してください。

注2) フレームユニットのレベル出しには、付属のレベルアジャストピース（図4）を御利用下さい。調整範囲は10mm程度です。ピースを5枚以上使用すると10mm以上の調整が可能ですが5.0×50の固定ねじでは所定の固定力が確保できないため50mm以上のねじを使用してください。

5. ホルダーユニット及び止水板の取付

パラペット用フレームに対して止水板とホルダーユニットを取付ます。フレームの端部に合わせて止水板を取付、次にホルダーユニットを取付ます。止水板は、ホルダーピッチ決めにもなっているので交互に図9のように取付ていきます。ホルダーの取付方については、図10に示します。ホルダー取付金具を下に押しパラペット用フレームの溝部に引っかかるようにして取付て下さい。

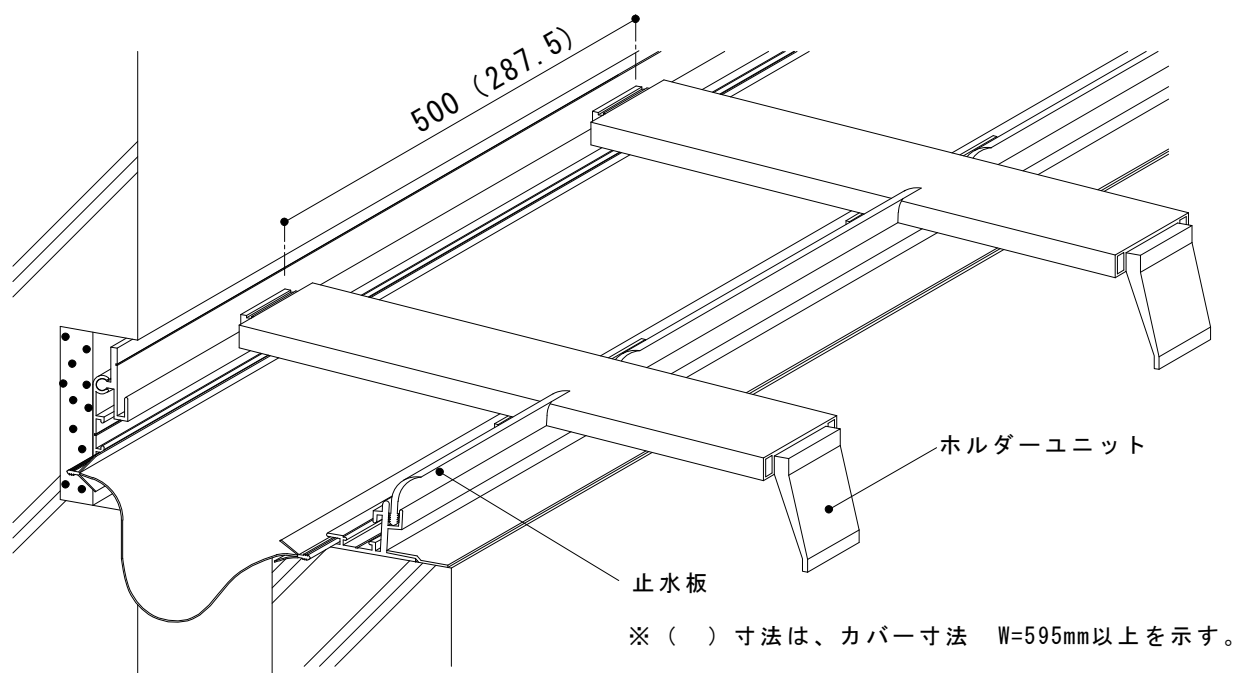


図 9

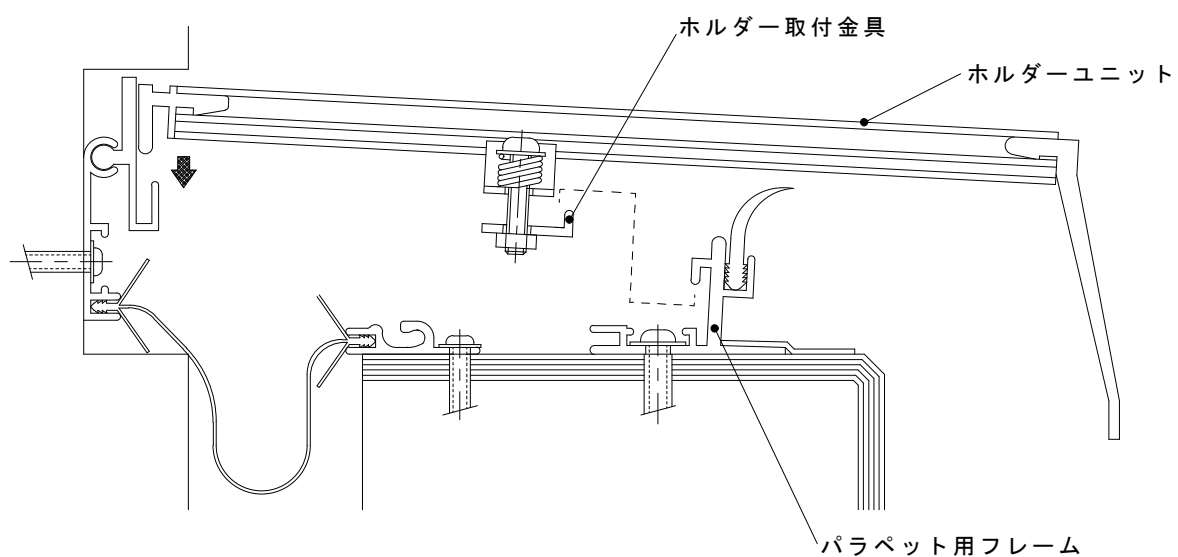


図10

6. カバーの取付

カバーの取付は、図11に示すように先程取付たホルダーと図中Aのように納まるようにして壁側フレームユニットに固定してください。（両端の小口カバーの付いたものから取付て下さい。）

（ ） 寸法はカバーW595mm以上を示します。

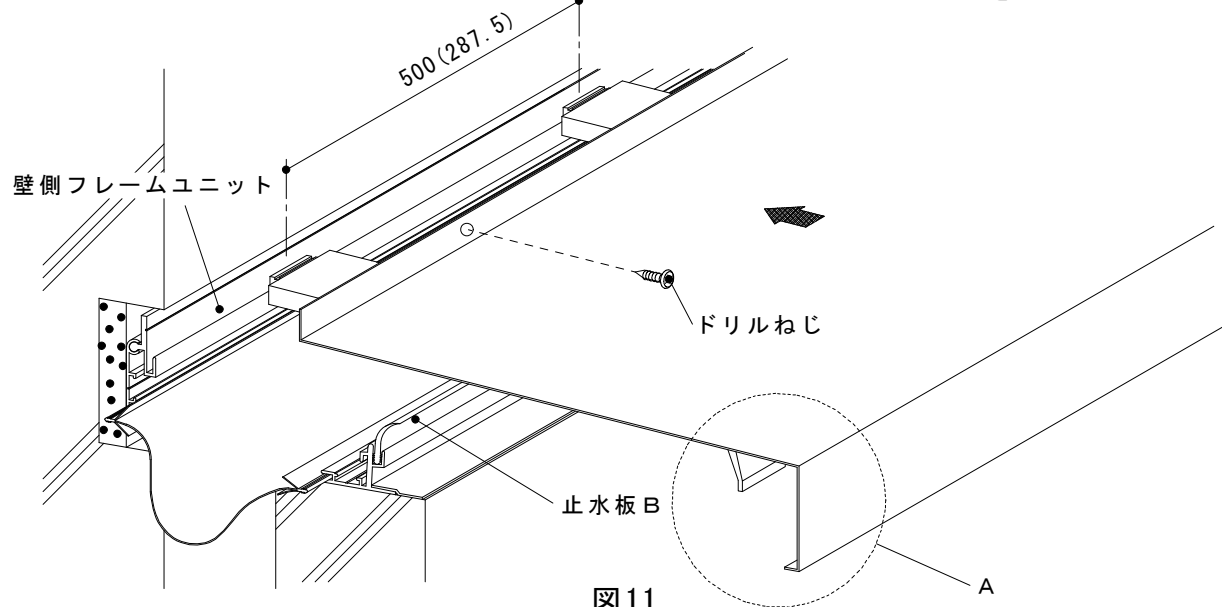
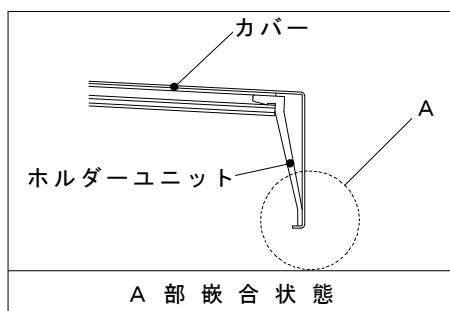


図11



ホルダー上をスライドさせながら壁側フレームユニットに付き当てるようにしてカバーをあて、ドリルねじで固定して下さい。この時、図中A部のホルダーとカバーの嵌合状態を確認して下さい。

7. カバーのねじ止め

カバー寸法W = 595mm以上の場合は 図12のようにカバーとホルダーユニットにφ3.6の下穴をあけ、カバーにドリルねじで固定します。

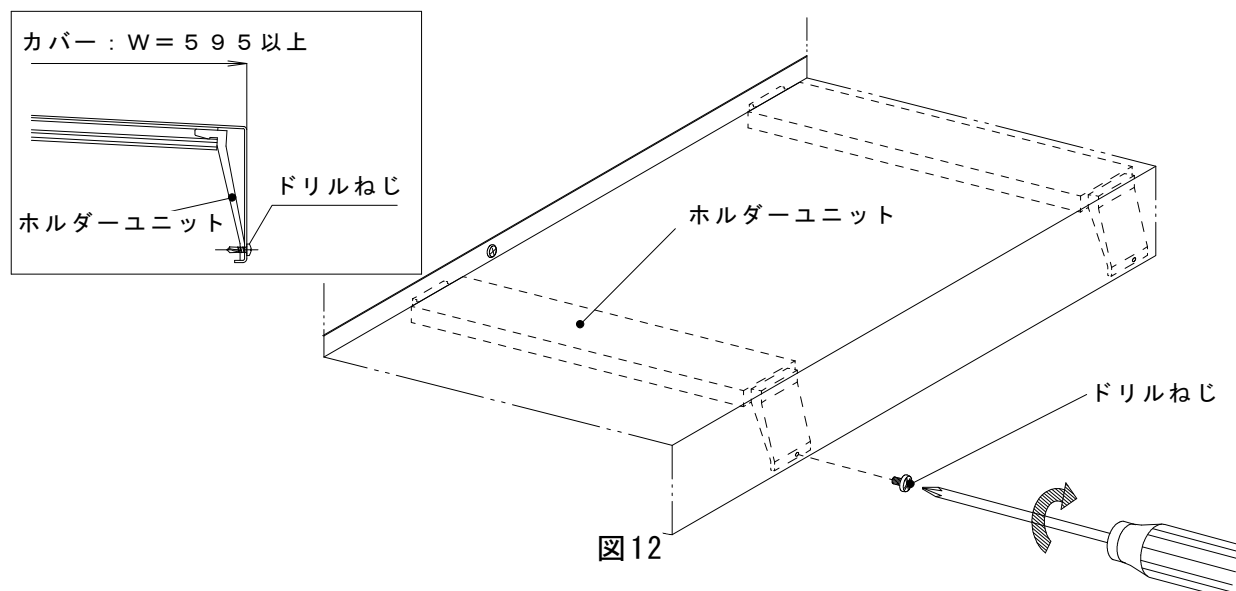


図12

※カバー接続部の取付は、次のように行います。

カバー接続部は、コーキング不要のジョイナーを取付ます。（図13）取付方については、壁側フレームユニットの嵌込み溝にジョイナーの腕（フラットバー）を引っ掛けるようにし止水板にのせる状態で設置して下さい。ジョイナーのセットを行ってからカバーの固定を行うことに注意して下さい。

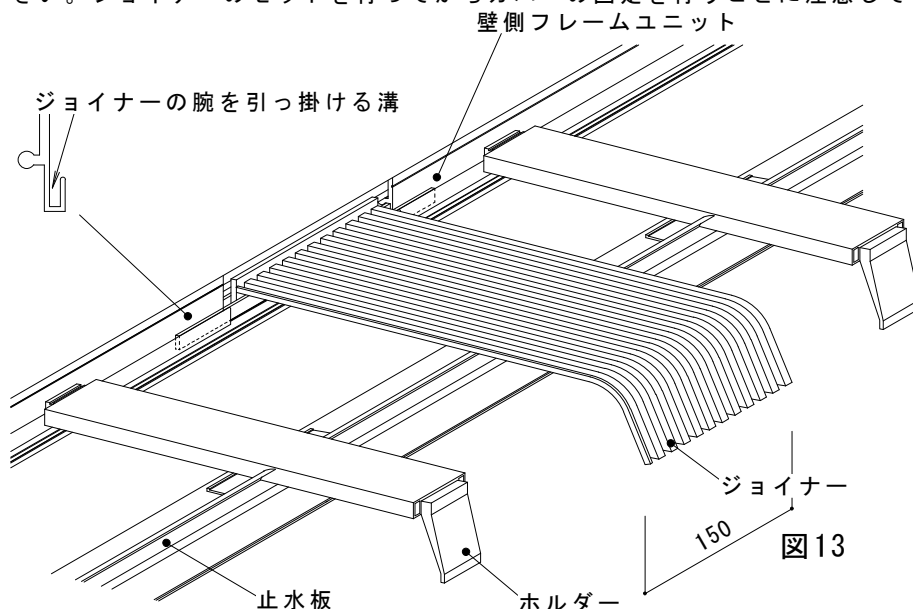


図13

注）屋根用のカバーの接続部は図14に示すように、6mmの目地を必要とします。この目地幅は屋根における温度変化によって、カバーが熱膨張した場合の影響を避けるために必ず設定してください。

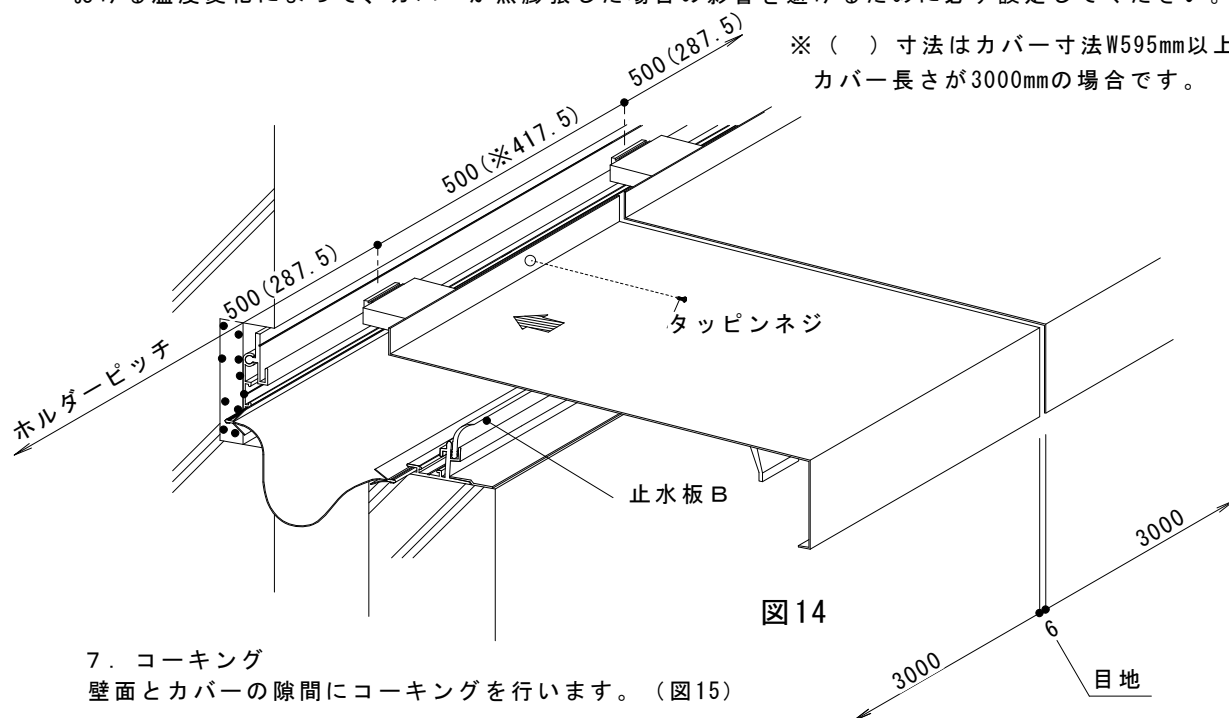


図14

7. コーキング

壁面とカバーの隙間にコーキングを行います。（図15）

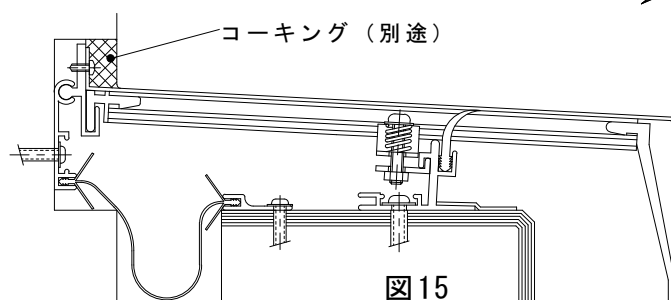


図15

外壁－外壁用S X（A X）2 2

下地仕上げ（パラペット仕上げには、次の点に注意してください。）

1. 建物のクリアランスは、変位量にあわせて仕上げてください。（図1）それぞれの規定値よりも狭い場合には変形性能が確保できなくなる場合があります。

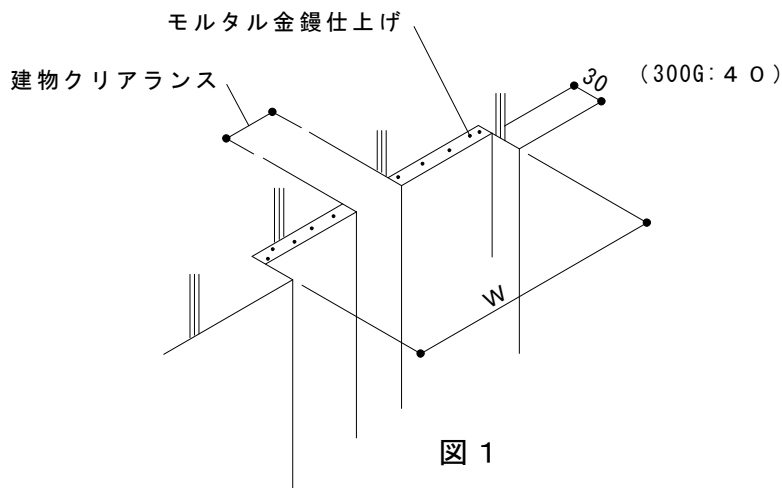


図 1

取付準備

製品は使用場所別に手配書の部番に合わせて梱包出荷されます。取付前に部品ユニットがすべて揃っていることを確認してください。

取付は次の順序で行ってください。

1. レベル墨打ち

外壁フレームユニットを取付るためのレベル墨を打ちます。レベル墨の位置（A寸法）は、図2及び表1を参照して下さい。

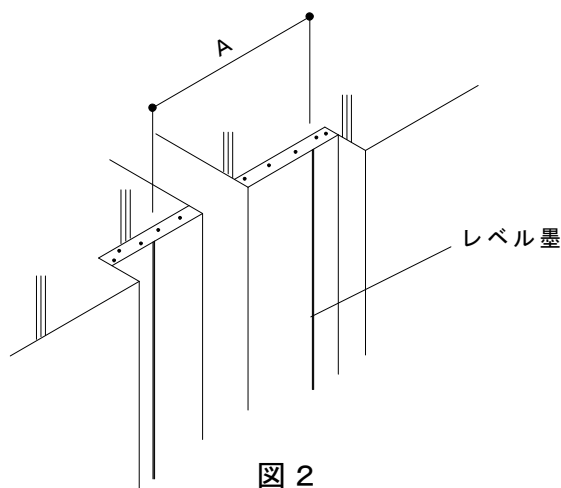


図 2

表 1. A寸法表

呼 称	A 寸法
SX22 — 50F	224
SX22 — 100F	375
SX (AX) 22 — 50G	149
— 100G	224
— 150G	300
— 200G	375
— 300G	555

2. 外壁フレームユニットの取付

外壁フレームユニットに従って躯体に、 $\phi 6$ 、深さ40mmの下穴をあけます。次に付属のナイロンラグを下穴に挿入し、固定ねじで止めます。（図3）

（固定ねじは、事前に平ワッシャをセットしておきます。）

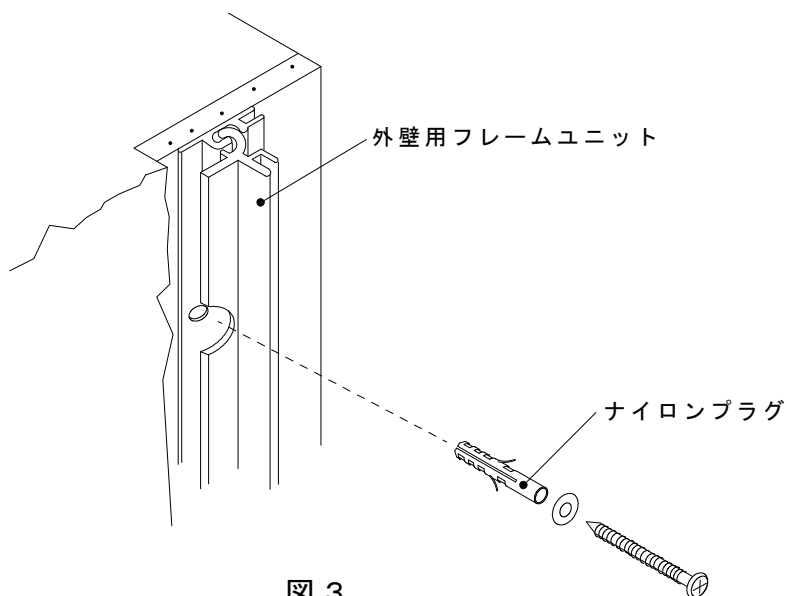


図 3

レベルアジャストピース
平板タイプ

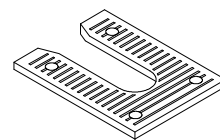


図 4

注1) フレームユニットの固定用穴は、風速60m/Sの風にも耐えられるように設計時に計算され数量が決められていますので、必ず全て固定してください。

注2) フレームユニットのレベル出しには、付属のレベルアジャストピース（図4）を御利用下さい。調整範囲は10mm程度です。ピースを5枚以上使用すると10mm以上の調整が可能ですが5.0×50の固定ねじでは所定の固定力が確保できないため50mm以上のねじを使用してください。

3. 補助シートの取付

外壁用フレームユニットのA部に補助シートを差し込みます。（図5）

注) 直線距離が長い場合、先に補助シートを垂らしてからA部に差し込むとよじれの原因となり、施工後外れてしまう場合があります。補助シートは、ロールのまま上から順に左右対象に差し込んで下さい。

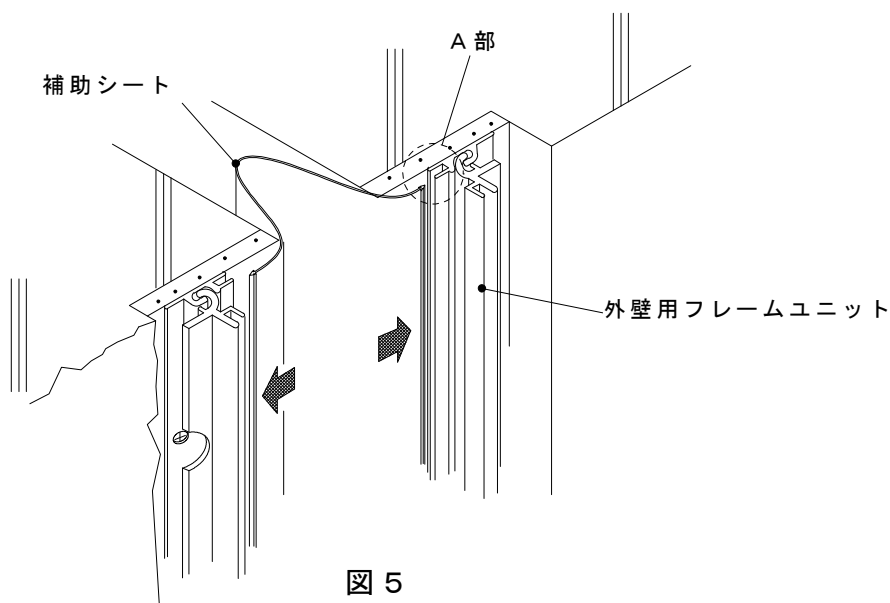


図 5

4-1. ホルダーの取付

ホルダーは左右非対象の部品です。フレームユニットの取付には、図6のA部を完全に打ち込み固定します。このとき、必ずすべてのホルダーのA部が同じ側になるように取付ます。ホルダーの取付ピッチは500mmです。

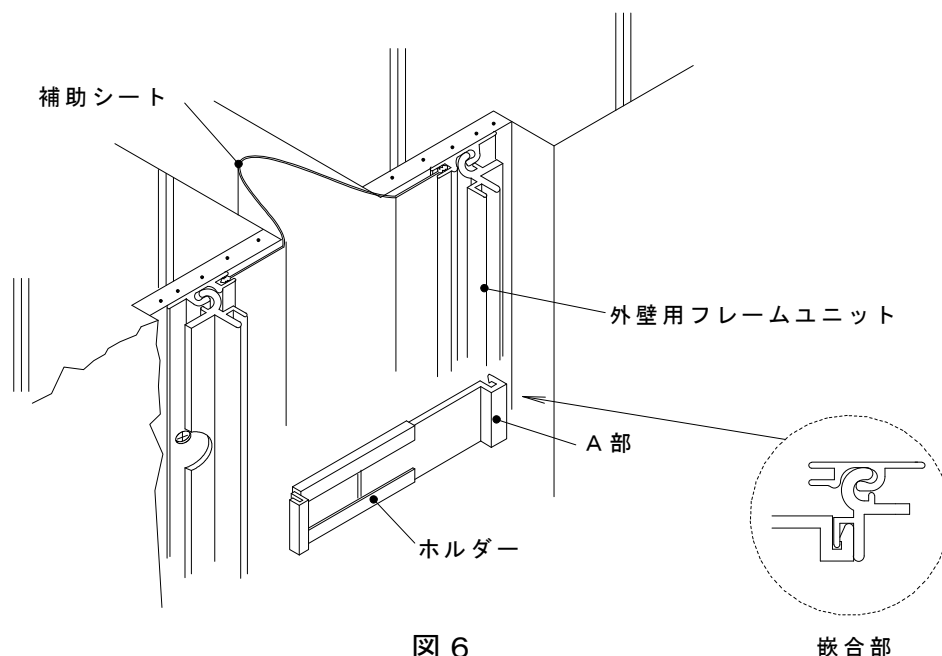


図6

4-2. インカバー、ホルダーの取付

※300G（クリアランス300）の場合

インカバーと一体になったホルダーユニットのフレームユニットへの取付は、図7のA部（両側）を完全に打ち込みます。必ず両側を打ち込んでください。

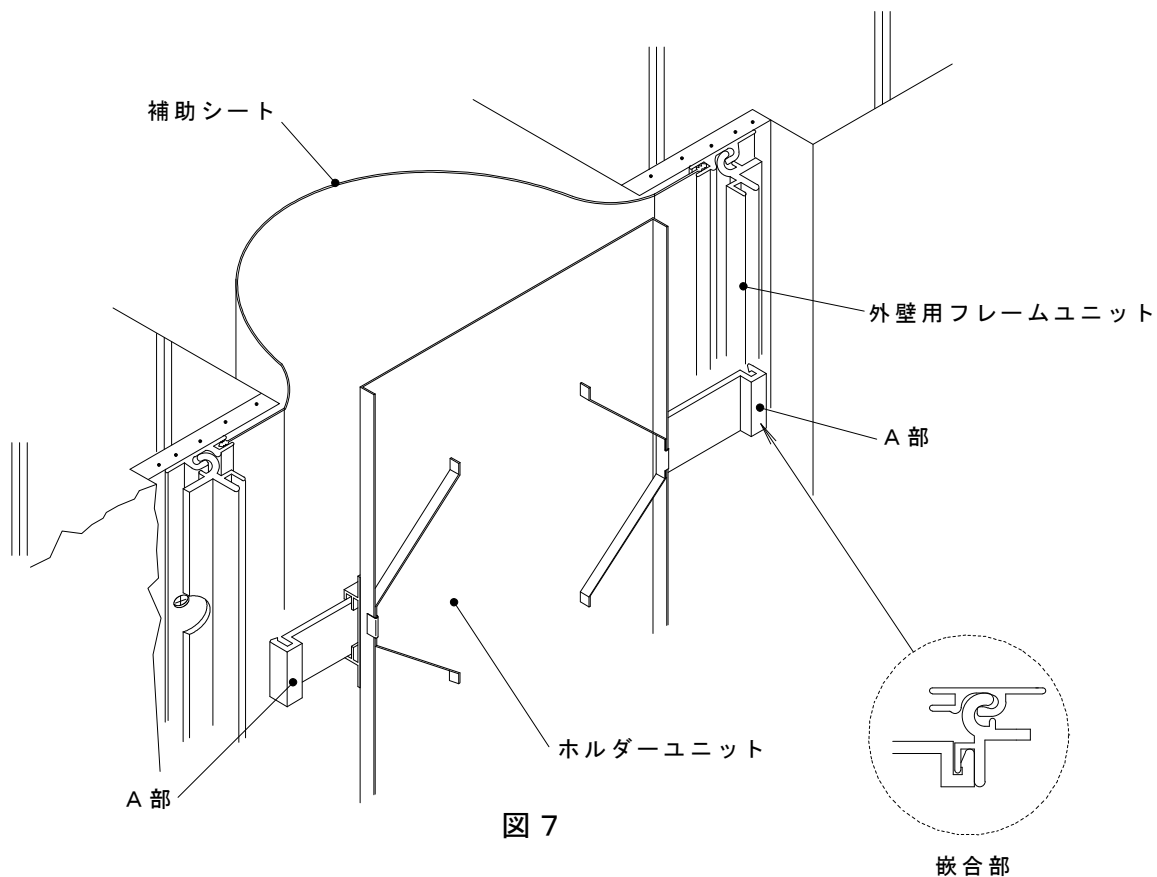


図7

5-1. カバーの取付

カバーは図8のようにインカバーとアウトカバーがあります。まずインカバーをB部に取付ます。

(カバーはジョイントの付いたほうが上です。) SX (ステンレス製) カバーには、取付穴が工場加工されていますので、その穴を基準にしてドリルねじで固定します。AX (アルミ製) カバーは、現場にてカバーをフレームにあてφ3.6下穴加工 (@500mm) を行ってドリルねじで固定します。続いてアウトカバーをインカバーと同じ要領で取付ます。

注) カバーの取付はホルダーのA部をアウトカバー、ホルダーのB部をインカバーとなるように取付て下さい。逆になるとカバーに隙間のできる原因となります。

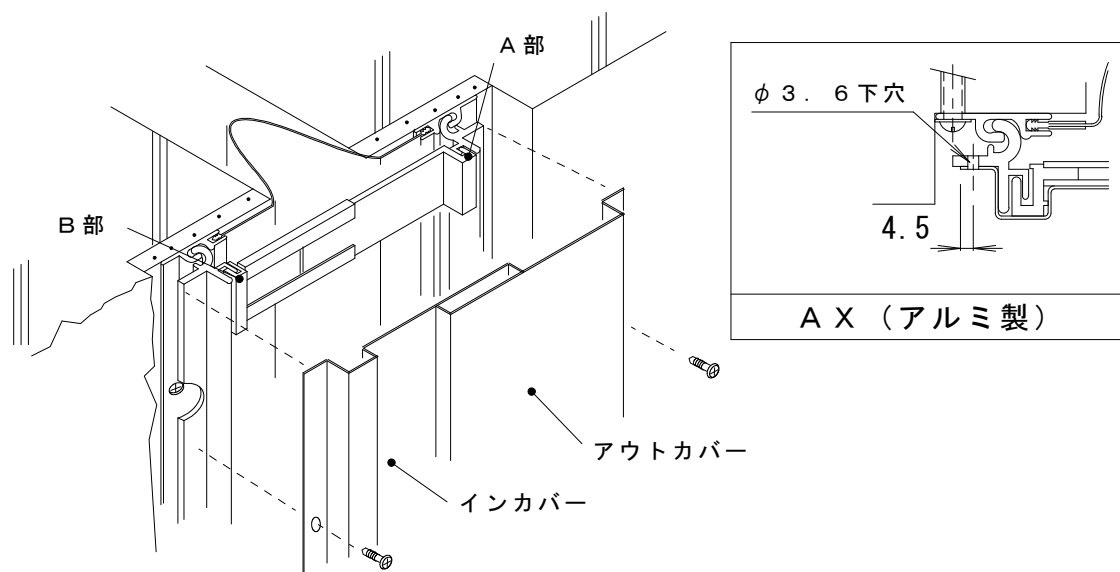


図 8

5-2. カバーの取付

※300G (クリアランス300) の場合

アウトカバーを図9に示すように取付ます。カバーには取付穴が工場加工されていますので、その穴を基準にしてドリルねじで固定します。

注) アウトカバーは、図9に示すように①方向からはめ次に②方向へ引っ張るように取付ます。板バネの力によりカバーのズレを防ぎます。

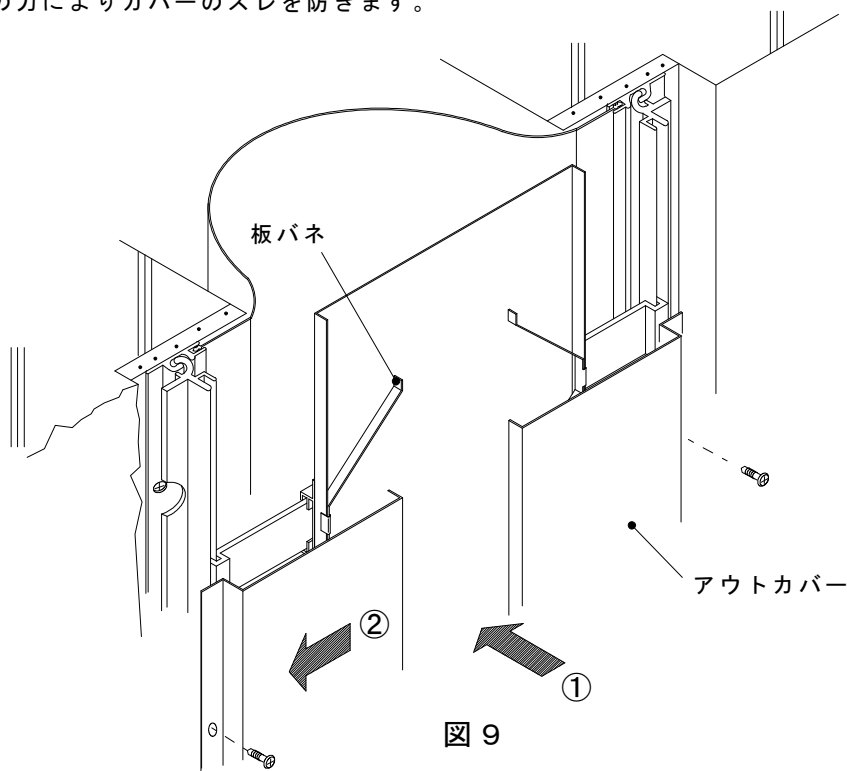
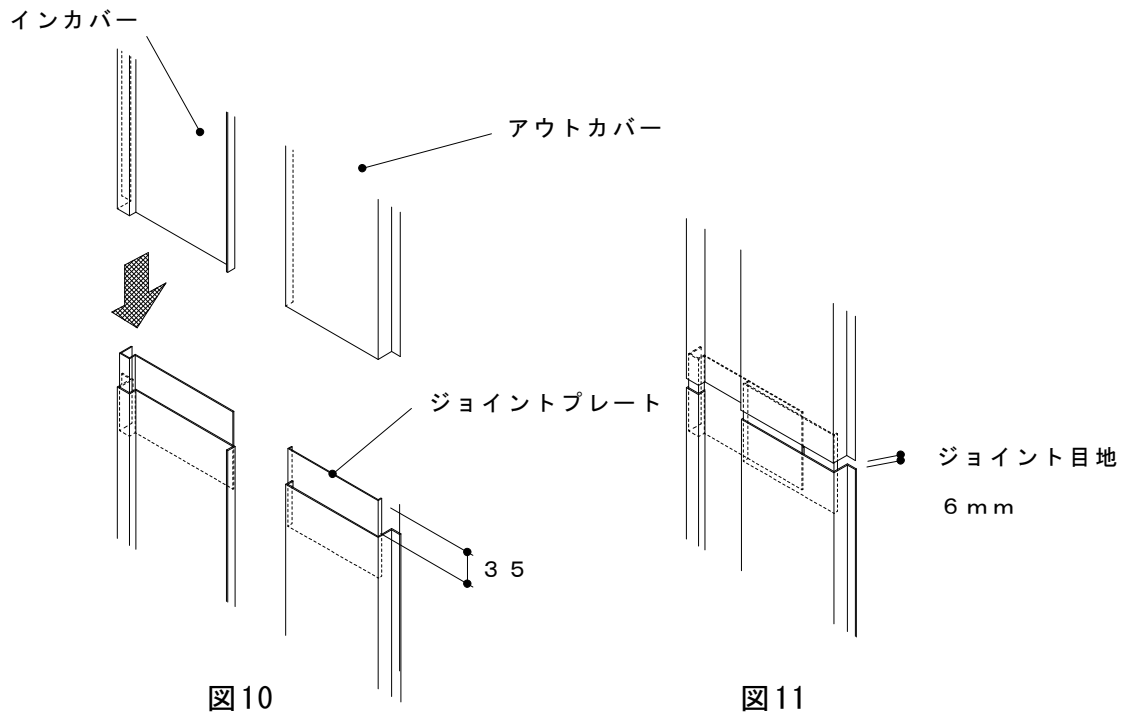


図 9

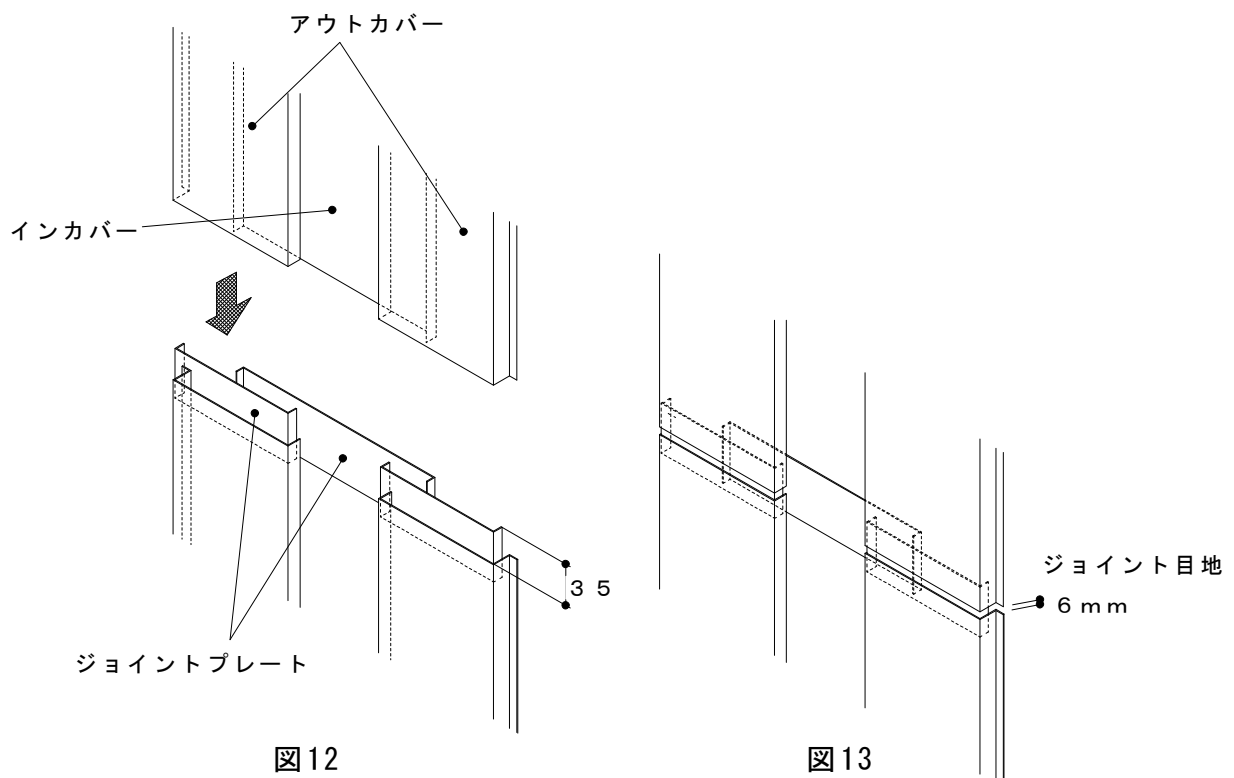
6. カバー接続部の納まり

インカバー、アウトカバーともに接続部には、ジョイントプレートが付いています。（図10、12）カバー接続部は、ジョイントプレートの上にカバーをかぶせながら取付ていくことにより、通りがでる構造となっています。

注）外壁用のカバーの接続部は図11、13に示すように、6mmの目地を必要とします。この目地幅は外壁における温度変化によって、カバーが熱膨張した場合の影響を避けるために必ず設定してください。



※300G（クリアランス300G）の場合



7. コーキング

壁面とカバーの隙間にコーキングを行います。（図14）

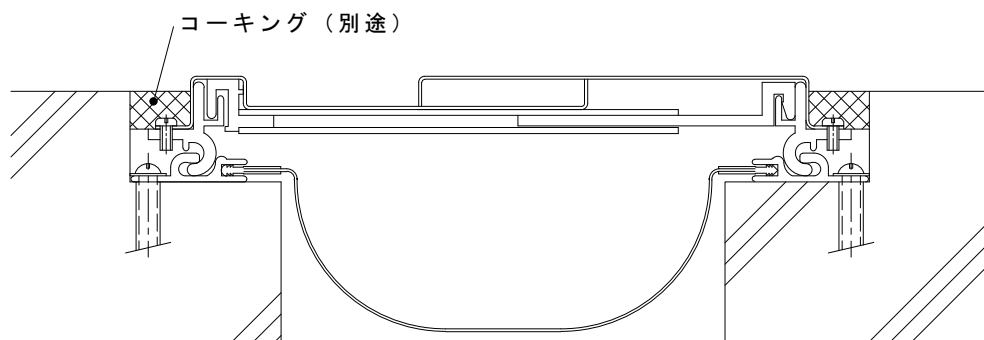


図14

8. カバー端部の納まり及び補助シートの処理

カバー上端を取付る前に補助シートの処理をします。この部分は11, 12タイプの補助シートと接続させる必要があります。既に11, 12タイプを取付の際に補助シートを200mm程垂れ下がるように延長しました。この延長部分を図15のように折り曲げて22タイプの補助シートと接着します。（接着剤は、別途です。）

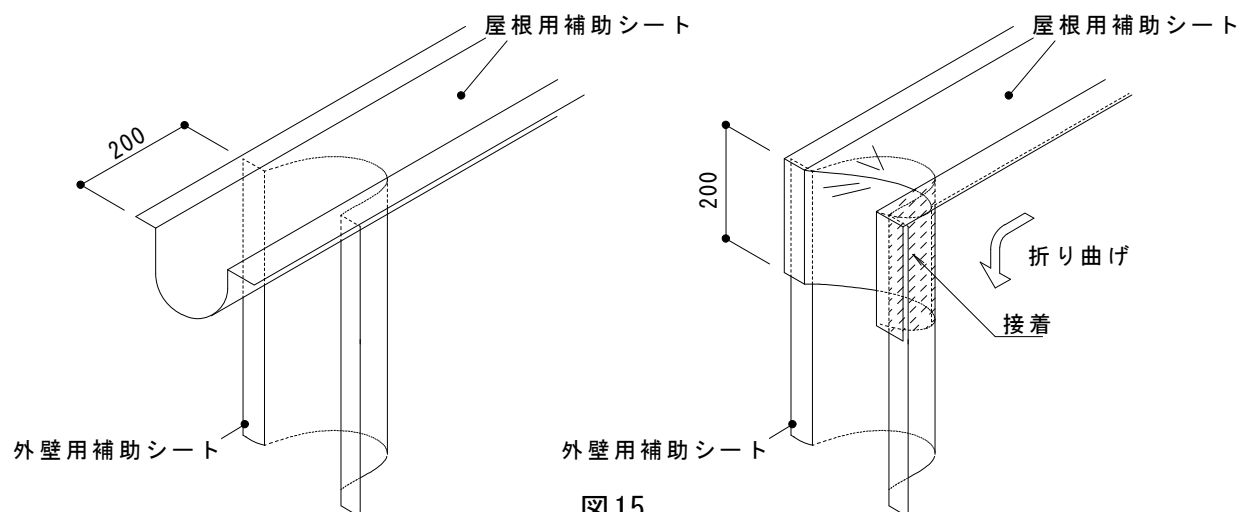


図15

※補助シートの処理が終わったらカバーを取付ます。最終納まりは図16のように11, 12タイプの小口カバーに挿入された形になります。

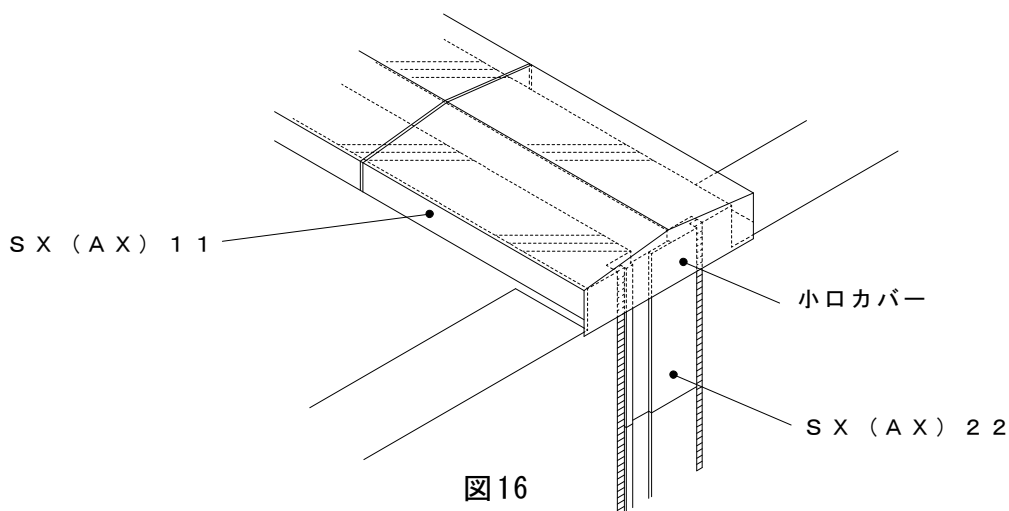


図16

外壁－外壁用 S X (A X) 2 2 A

下地仕上げ（パラペット仕上げには、次の点に注意してください。）

1. 建物のクリアランスは、変位量にあわせて仕上げてください。（図 1）それぞれの規定値よりも狭い場合には変形性能が確保できなくなる場合があります。

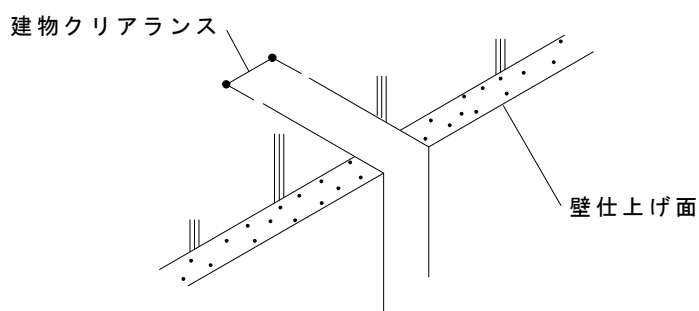


図 1

取付準備

製品は使用場所別に手配書の部番に合わせて梱包出荷されます。取付前に部品ユニットがすべて揃っていることを確認してください。

取付は次の順序で行ってください。

1. レベル墨打ち

外壁フレームユニットを取付るためのレベル墨を打ちます。レベル墨の位置（A 寸法）は、図 2 及び表 1 を参照して下さい。

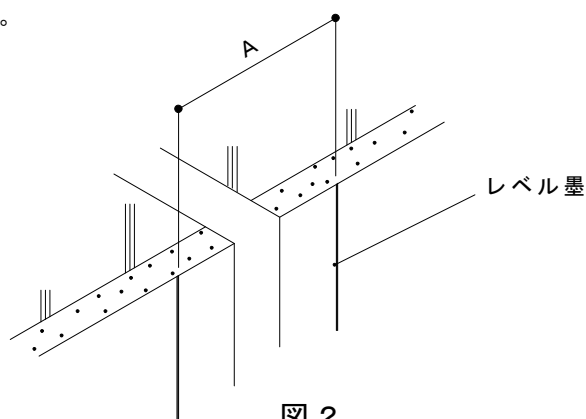


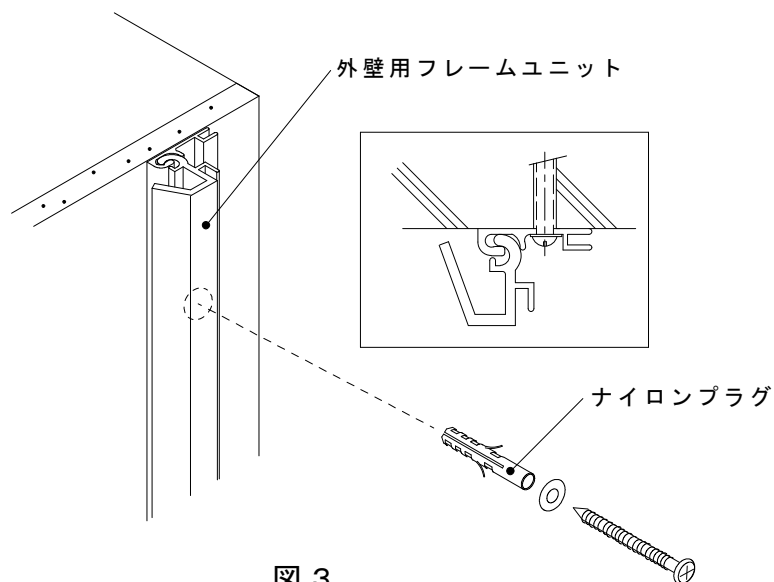
図 2

表 1. A 寸法表

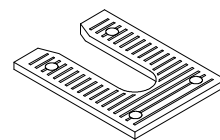
呼 称	A 寸法
SX22A — 50F	165
SX22A — 100F	316
SX (AX) 22A— 50G	117
— 100G	165
— 150G	241
— 200G	316
— 300G	496

2. 外壁フレームユニットの取付

外壁フレームユニットに従って躯体に、 $\phi 6$ 、深さ40mmの下穴をあけます。次に付属のナイロンプラグを下穴に挿入し、固定ねじで止めます。（図3）
（固定ねじは、事前に平ワッシャをセットしておきます。）



レベルアジャストピース
平板タイプ

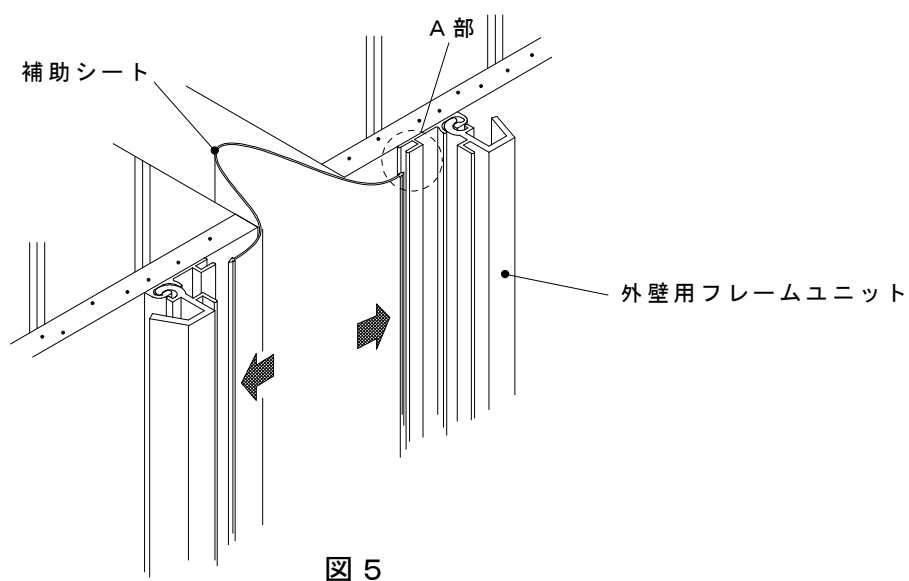


- 注1) フレームユニットの固定用穴は、風速60m/Sの風にも耐えられるように設計時に計算され数量が決められていますので、必ず全て固定してください。
- 注2) フレームユニットのレベル出しには、付属のレベルアジャストピース（図4）を御利用下さい。調整範囲は10mm程度です。ピースを5枚以上使用すると10mm以上の調整が可能ですが5.0×50の固定ねじでは所定の固定力が確保できないため50mm以上のねじを使用してください。

3. 補助シートの取付

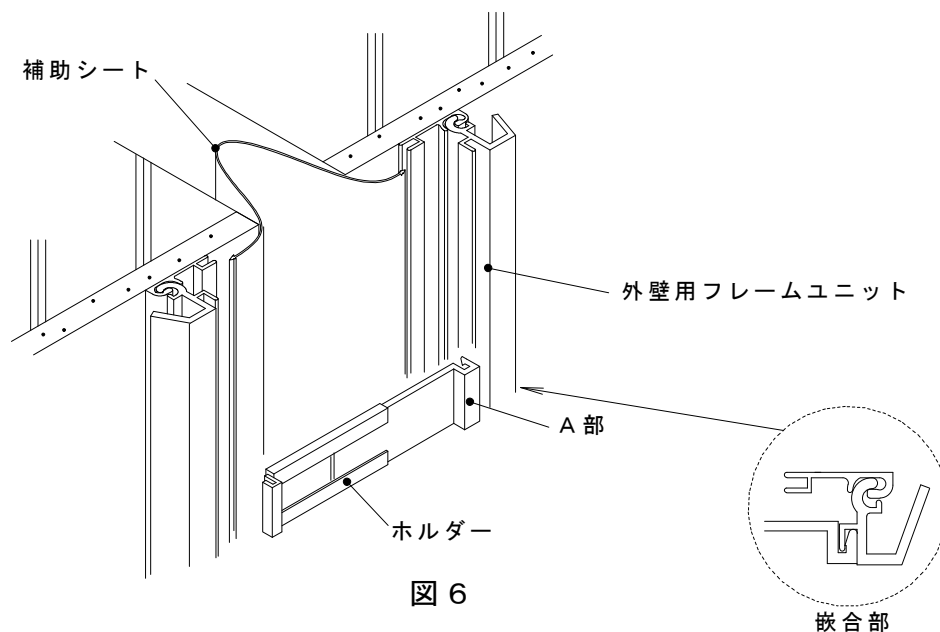
外壁用フレームユニットのA部に補助シートを差し込みます。（図5）

- 注) 直線距離が長い場合、先に補助シートを垂らしてからA部に差し込むとよじれの原因となり、施工後外れてしまう場合があります。補助シートは、ロールのまま上から順に左右対象に差し込んで下さい。



4-1. ホルダーの取付

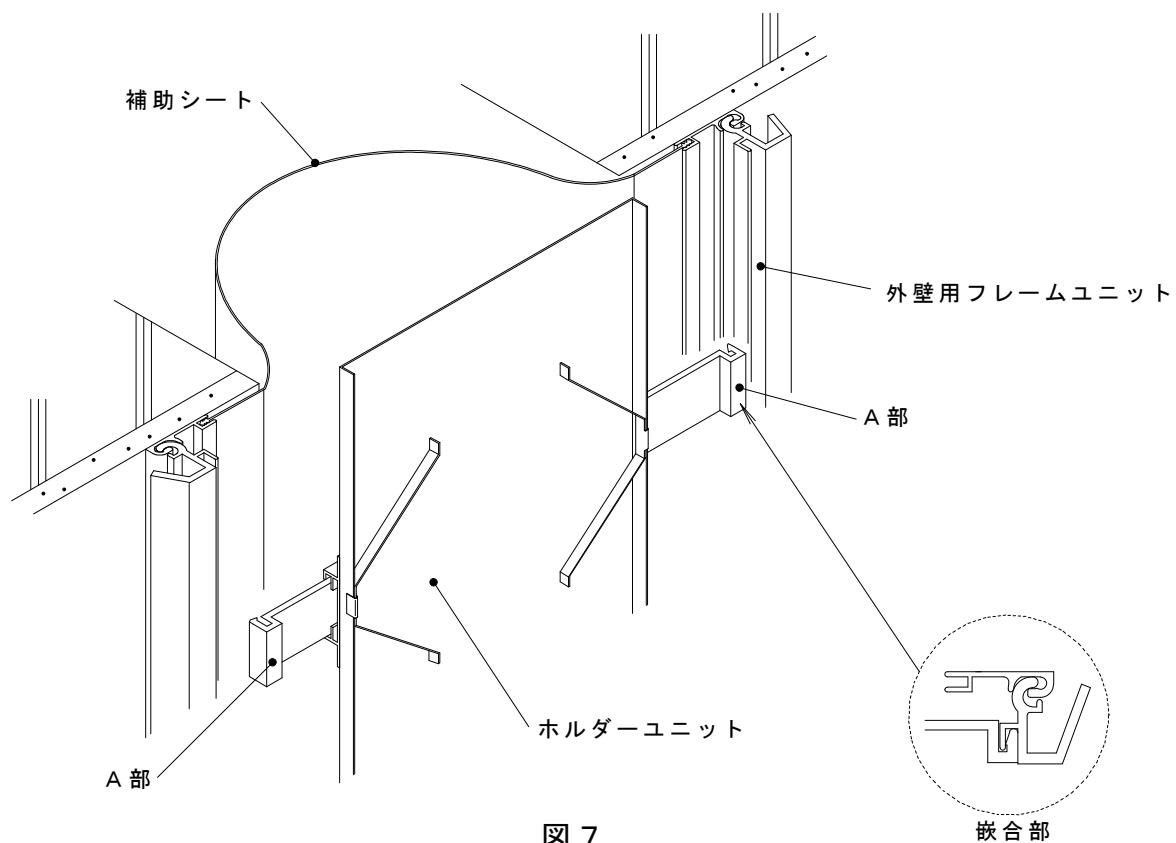
ホルダーは左右非対象の部品です。フレームユニットの取付には、図6のA部を完全に打ち込み固定します。このとき、必ずすべてのホルダーのA部が同じ側になるように取付ます。
ホルダーの取付ピッチは500mmです。



4-2. インカバー、ホルダーの取付

※300G（クリアランス300）の場合

インカバーと一体になったホルダーユニットのフレームユニットへの取付は、図7のA部（両側）を完全に打ち込みます。必ず両側を打ち込んでください。



5-1. カバーの取付

カバーは図8のようにインカバーとアウトカバーがあります。まずインカバーをB部に取付ます。

(カバーはジョイントの付いたほうが上です。) S X (ステンレス製) カバーには、取付穴が工場加工されていますので、その穴を基準にしてドリルねじで固定します。A X (アルミ製) カバーは、現場にてカバーをフレームにあてφ3.6下穴加工 (@500mm) を行ってドリルねじで固定します。続いてアウトカバーをインカバーと同じ要領で取付ます。

注) カバーの取付はホルダーのA部をアウトカバー、ホルダーのB部をインカバーとなるように取付て下さい。逆になるとカバーに隙間のできる原因となります。

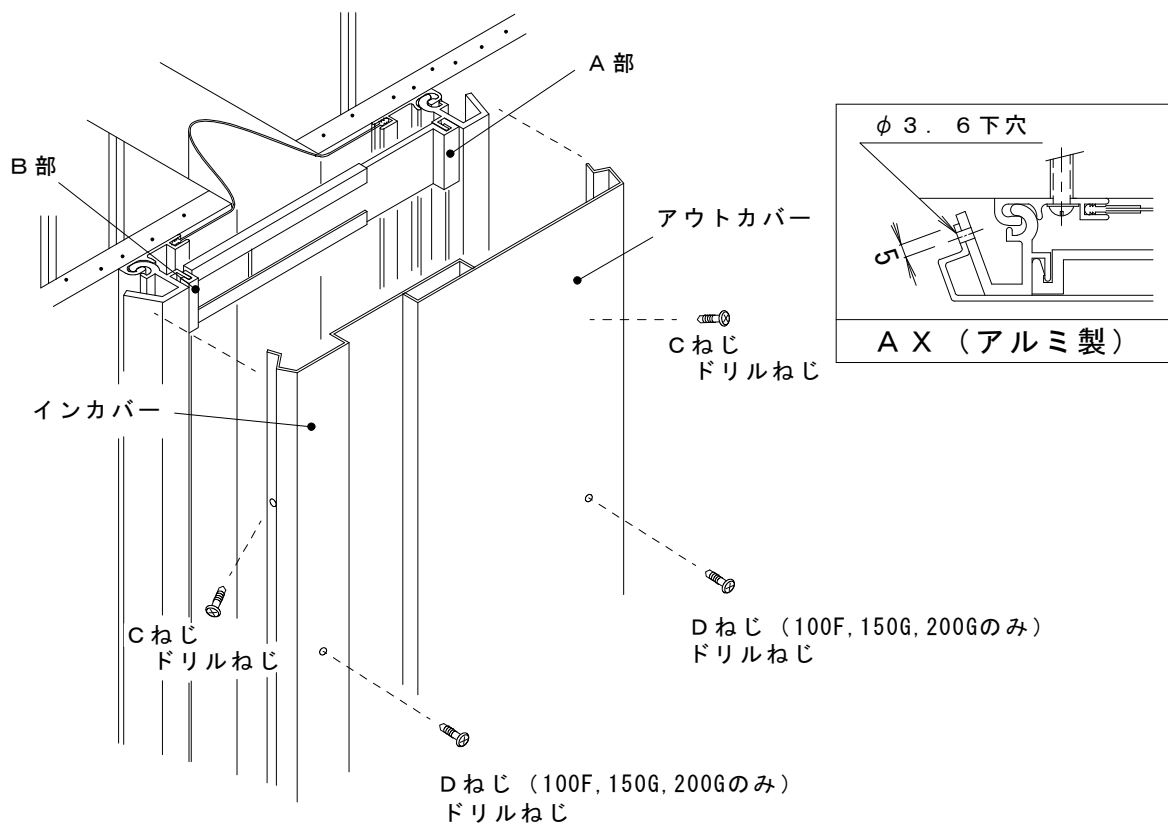


図 8

※ねじ止めについて

S X・A X 22A-100F, 150G, 200Gについては、Cねじに加えDねじも固定して下さい。S X (ステンレス製) カバーには、Dねじ取付穴が工場加工されていますので、その穴を基準にしてドリルねじで固定します。A X (アルミ製) カバーは、現場にてφ3.6下穴加工 (4ヶ所/3m) を行いドリルねじで固定して下さい。(図9)

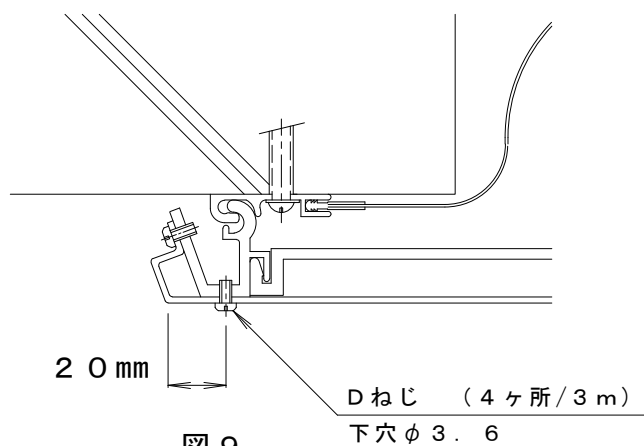


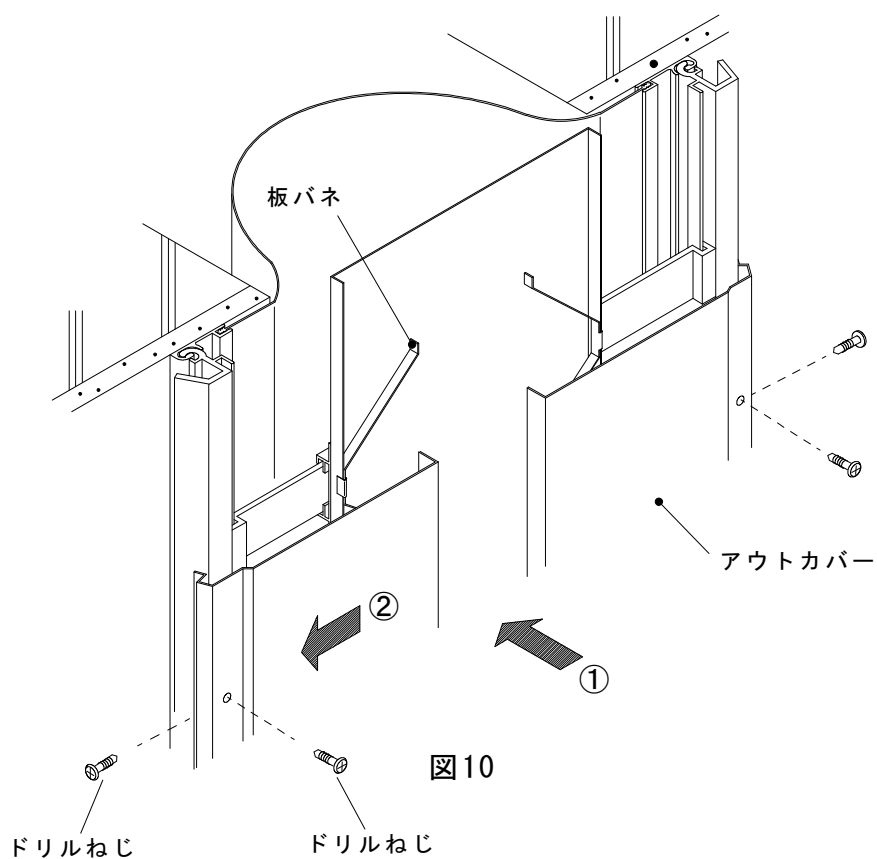
図 9

5-2. カバーの取付

※300G（クリアランス300）の場合

アウトカバーを図10に示すように取付ます。カバーには取付穴が工場加工されていますので、その穴を基準にして各々ねじで固定します（4ヶ所）。

注）アウトカバーは、図10に示すように①方向からはめ次に②方向へ引っ張るように取付ます。板バネの力によりカバーのズレを防ぎます。



6. カバー接続部の納まり

インカバー、アウトカバーともに接続部には、ジョイントプレートが付いています。（図11,13）カバー接続部は、ジョイントプレートの上にカバーをかぶせながら取付ていくことにより、通りがでる構造となっています。

注）外壁用のカバーの接続部は図12,14に示すように、6mmの目地を必要とします。この目地幅は外壁における温度変化によって、カバーが熱膨張した場合の影響を避けるために必ず設定してください。

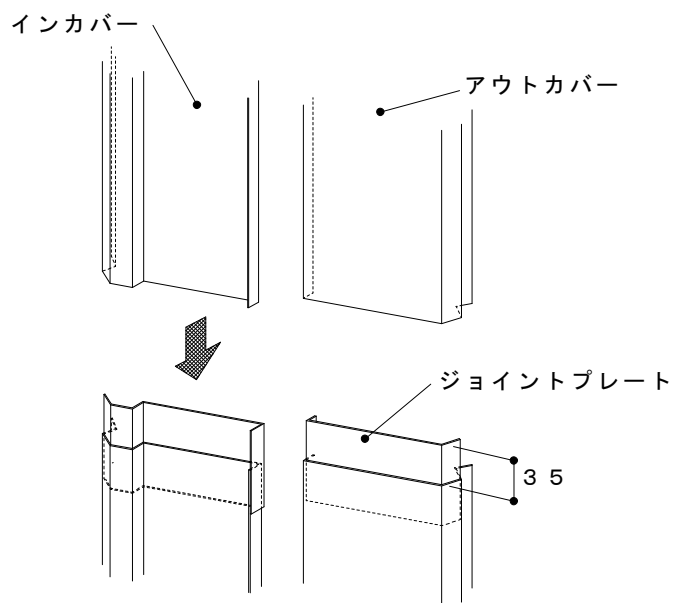


図11

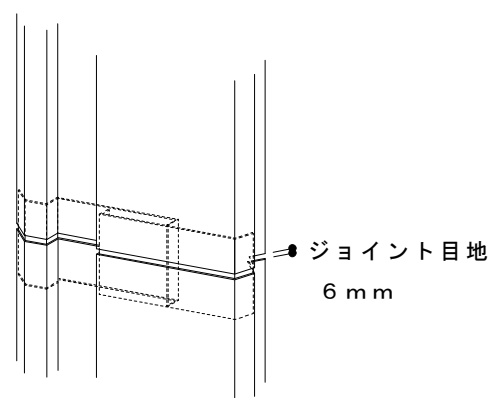


図12

※S X 2 2 A - 3 0 0 G（クリアランス300G）の場合

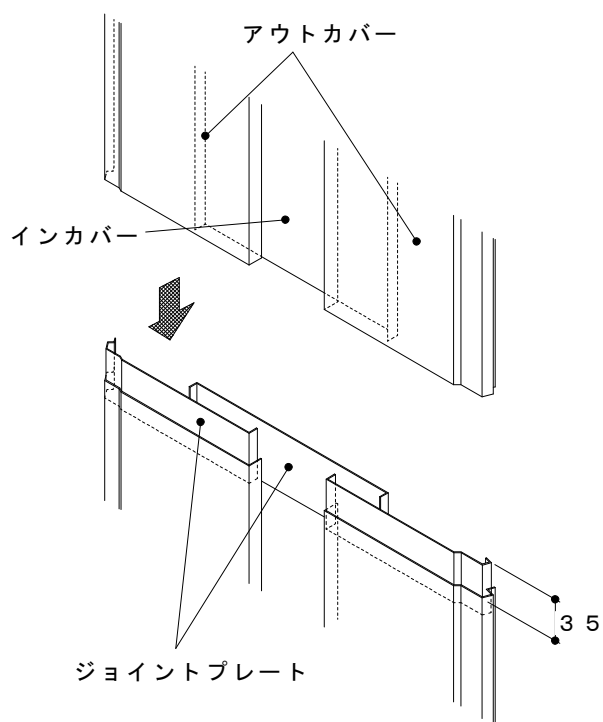


図13

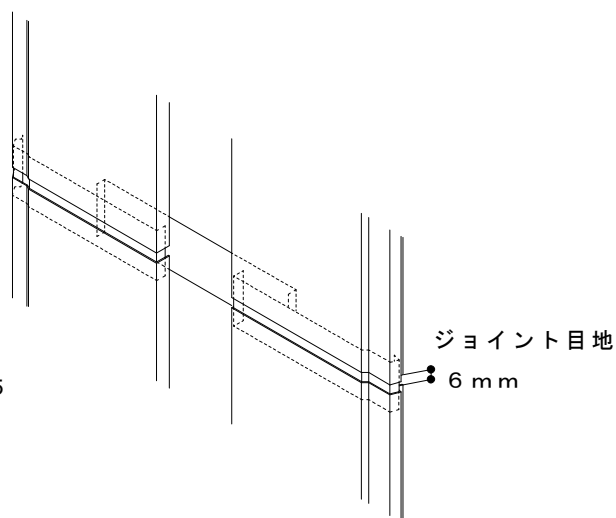


図14

7. コーキング

壁面とカバーの隙間にコーキングを行います。（図15）

コーキング（別途）

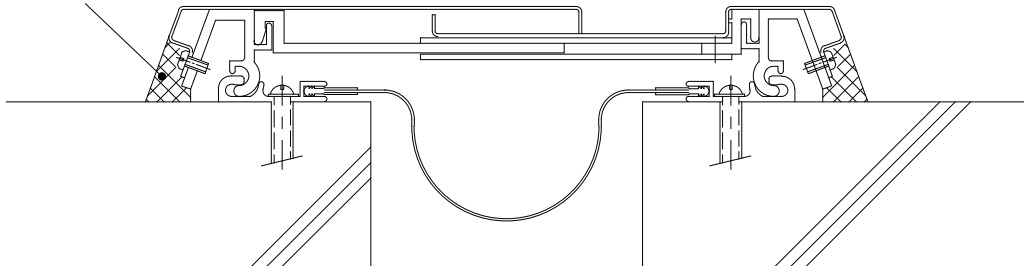


図15

8. カバー端部の納まり及び補助シートの処理

カバー上端を取付る前に補助シートの処理をします。この部分は11, 12タイプの補助シートと接続させる必要があります。既に11, 12タイプを取付の際に補助シートを200mm程垂れ下がるように延長しました。この延長部分を図16のように折り曲げて22タイプの補助シートと接着します。（接着剤は、別途です。）

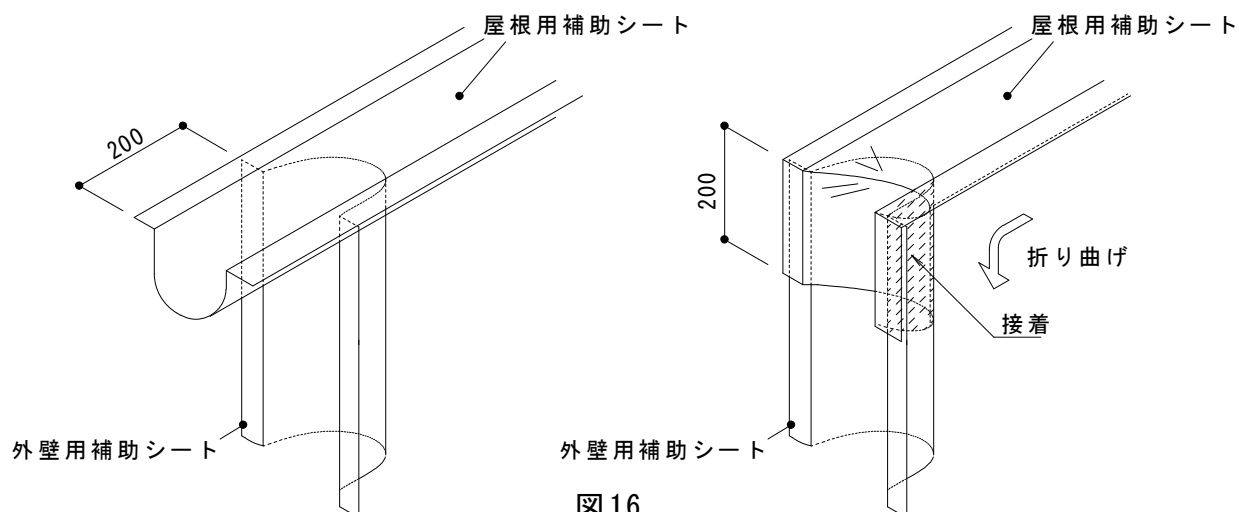


図16

※補助シートの処理が終わったらカバーを取付ます。最終納まりは図17のように11, 12タイプの小口カバーに挿入された形になります。

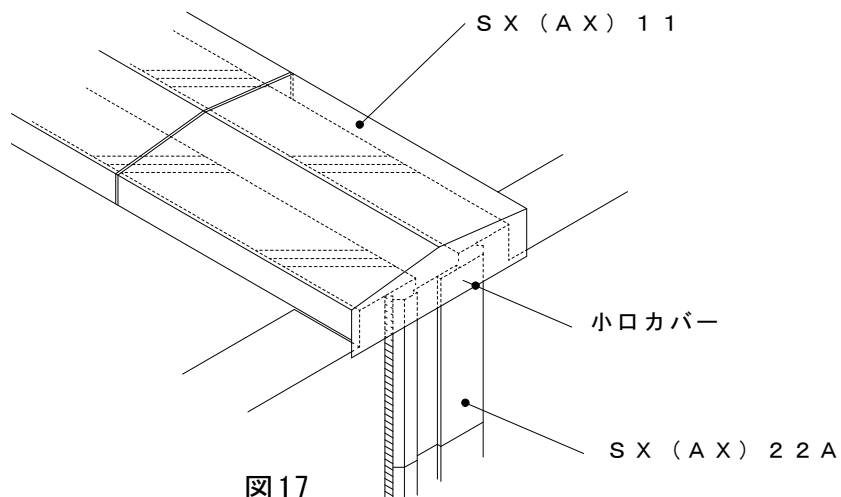


図17

外壁－外壁用SX（AX）22AE

下地仕上げ（パラペット仕上げには、次の点に注意してください。）

1. 建物のクリアランスは、変位量にあわせて仕上げてください。（図1）それぞれの規定値よりも狭い場合には変形性能が確保できなくなる場合があります。

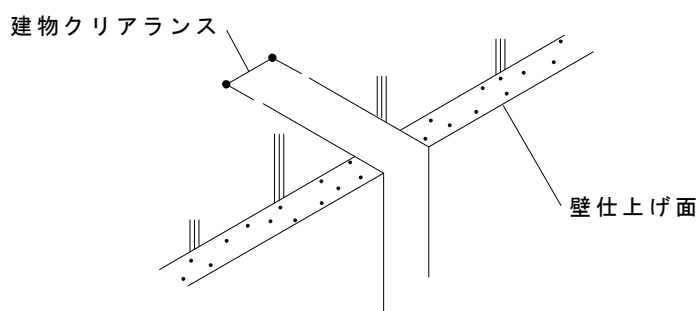


図 1

取付準備

製品は使用場所別に手配書の部番に合わせて梱包出荷されます。取付前に部品ユニットがすべて揃っていることを確認してください。

取付は次の順序で行ってください。

1. レベル墨打ち

外壁フレームを取付るためのレベル墨を打ちます。レベル墨の位置（A寸法）は、図2及び表1を参照して下さい。

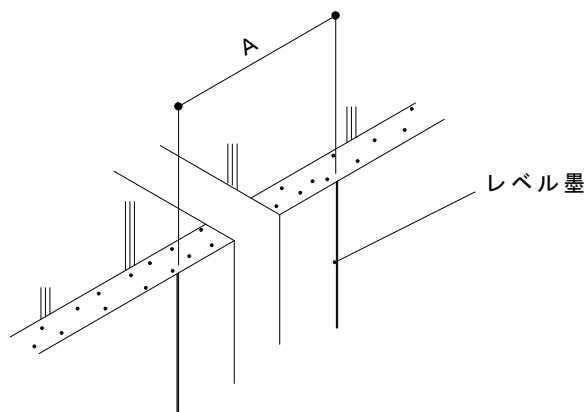


図 2

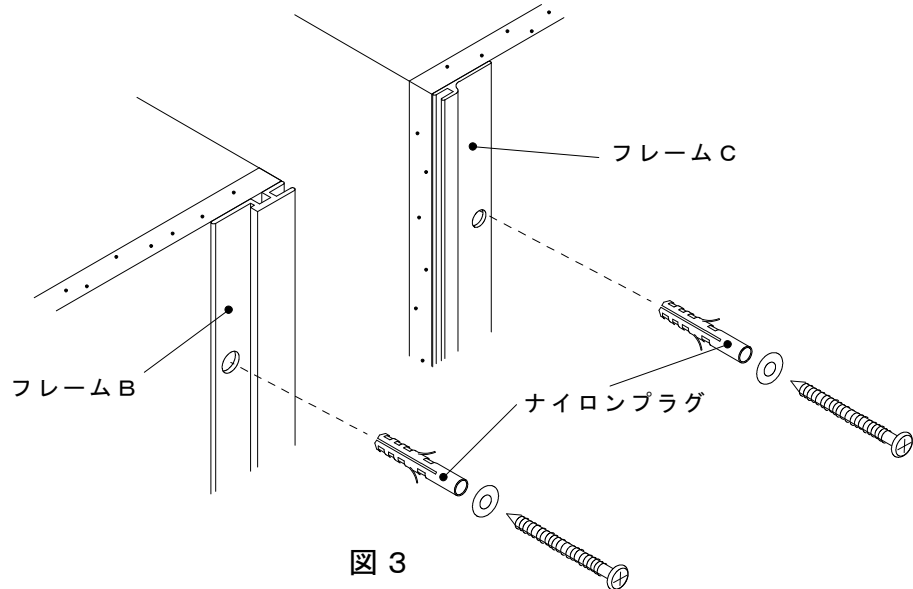
表 1. A寸法表

呼 称	A 寸 法
SX (AX) 22AE－50G	110
－100G	160
－150G	210
－200G	260

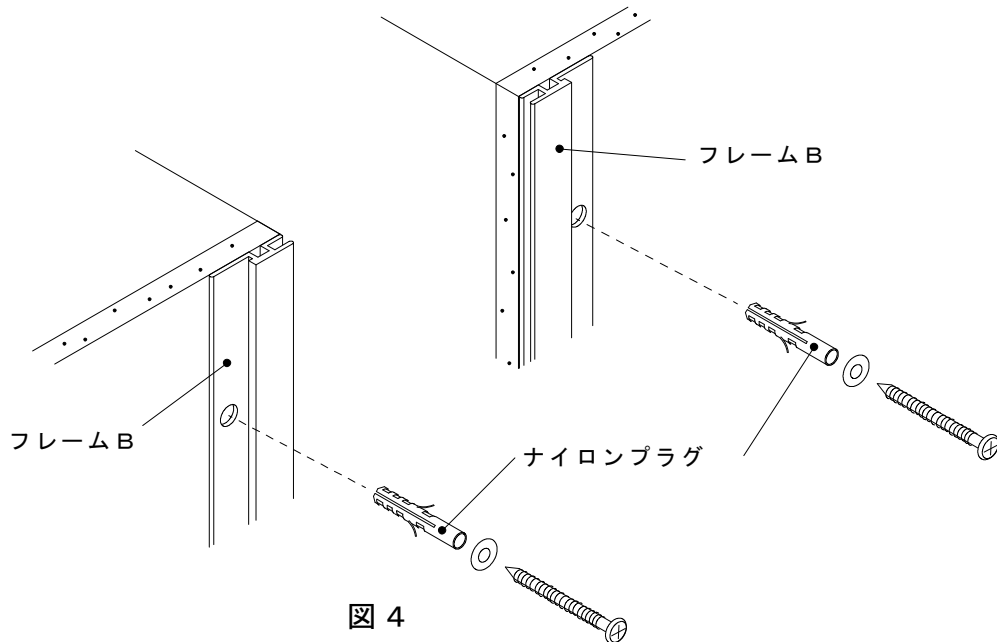
2. フレームの取付

フレーム B, C に従って躯体に、 $\phi 8$ 、深さ 60mm の下穴をあけます。次に付属のナイロンプラグを下穴に挿入し、固定ねじで止めます。(図 3, 4)

(固定ねじは、事前に平ワッシャをセットしておきます。)



2 2 A E - 5 0 G, 1 0 0 G



2 2 A E - 1 5 0 G, 2 0 0 G

注 1) フレームユニットの固定用穴は、風速 60m/S の風にも耐えられるように設計時に計算され数量が決められていますので、必ず全て固定してください。

3. 補助シートの取付

外壁用フレームユニットのA部に補助シートを差し込みます。(図6)

注) 直線距離が長い場合、先に補助シートを垂らしてからA部に差し込むとよじれの原因となり、施工後外れてしまう場合があります。補助シートは、ロールのまま上から順に左右対象に差し込んで下さい。

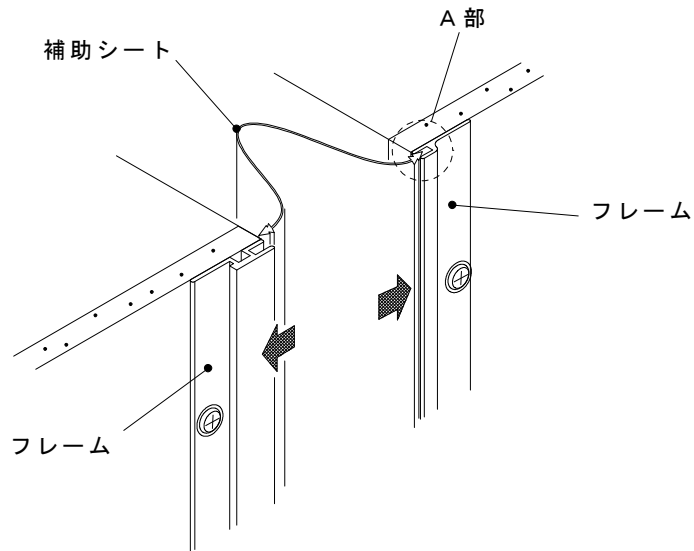


図 6

4. ホルダーの取付

ホルダーは、フレームBに端部(A部)をはめ込み、M4×10のドリルねじで50G, 100Gは2ヶ所・150G, 200Gは、4ヶ所固定します。(図7, 8)

ホルダーの取付ピッチは500mmです。

※カバーは、ホルダーにねじ止めして取付けるためホルダー位置が分かるよう躯体にマーキングしておきます。

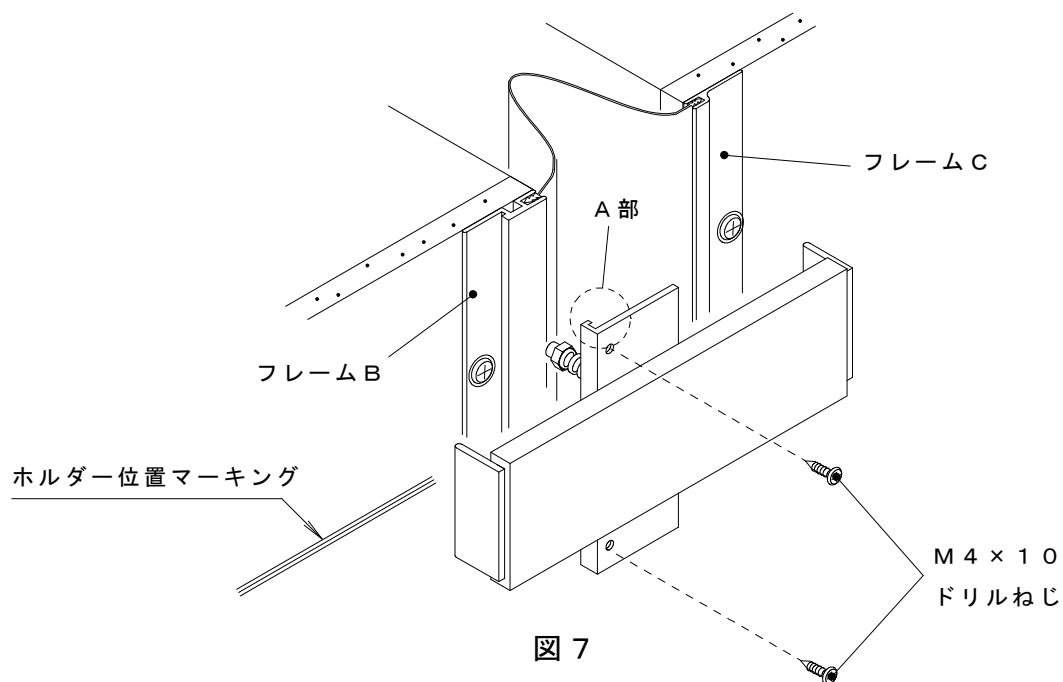


図 7

22AE-50G, 100G

22AE-3

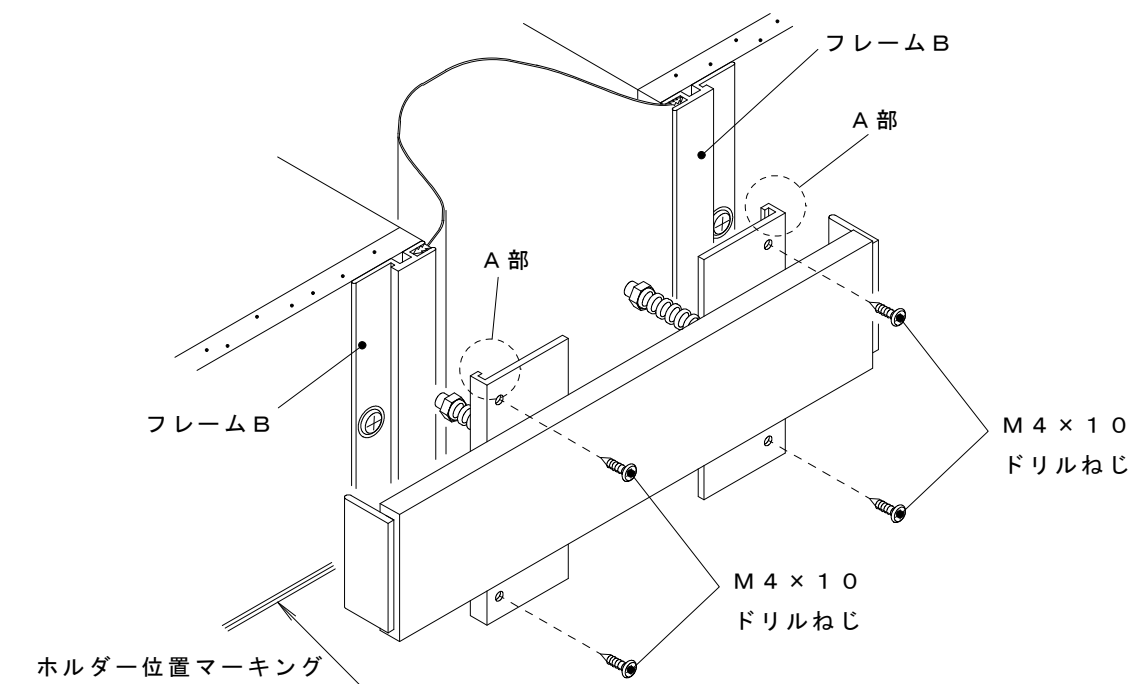
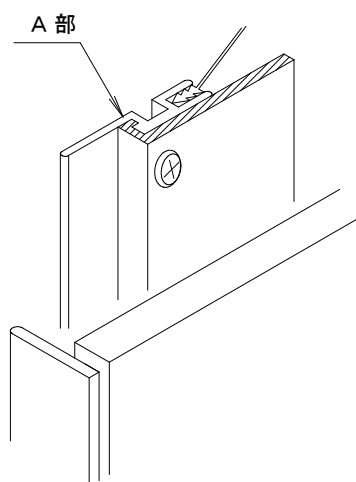


図 8

22AE-150G, 200G

※ホルダーの A 部取付詳細について (図 9)



①ホルダーの足を躯体に当てホルダー C 部をフレーム側に押す。

②ホルダー C 部をフレームの溝側にスライドさせる。

③ M4 x 10 のドリルねじでフレームに固定する。

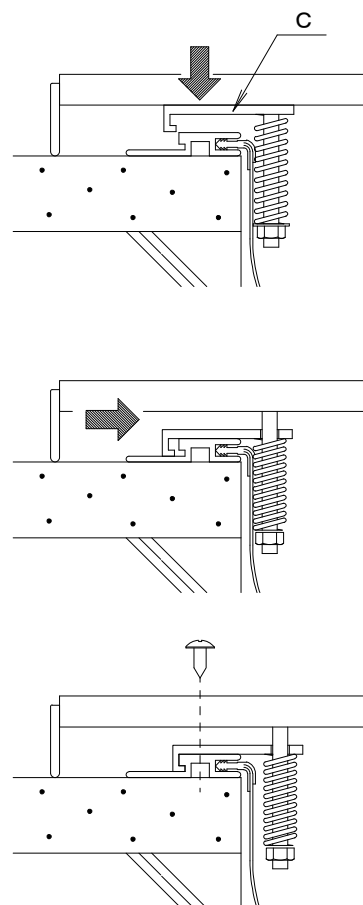


図 9

22AE-4

5. カバー取付

カバーは、図10のようにホルダーにあて $\phi 3.6$ 下穴加工（@500mm）を行って各々ねじで固定します。（カバーはジョイントが付いたほう上です。）

※カバーを被せた後は、先に躯体に付けたマーキングでホルダー位置を判断します。

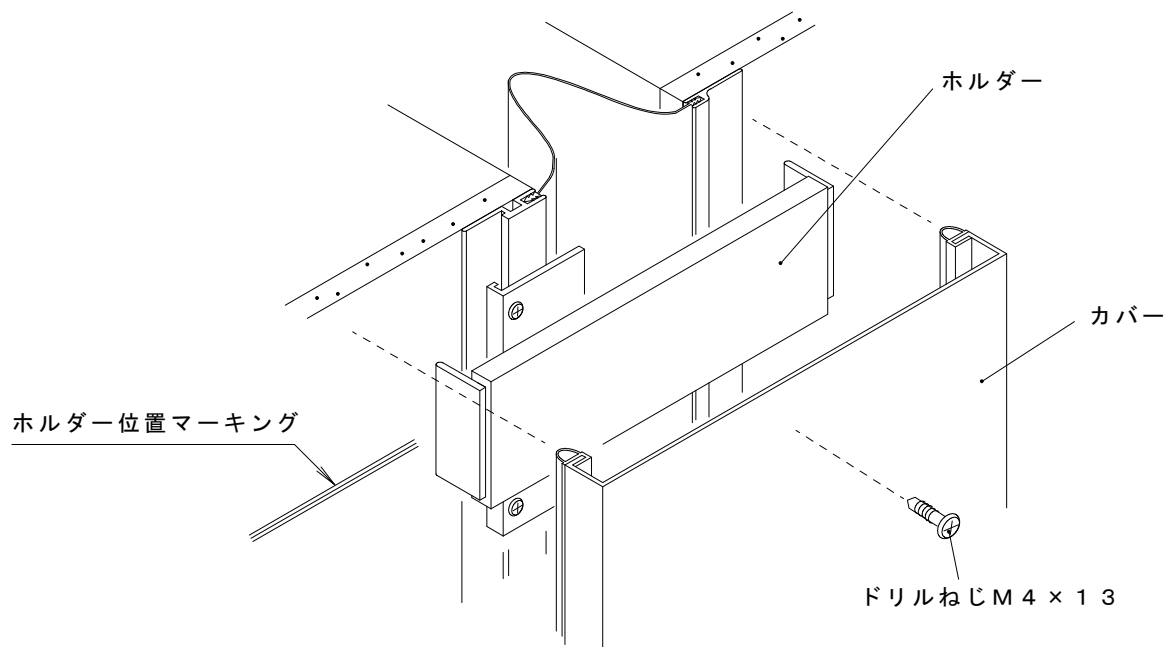


図10

※ねじ止めについて

22AE-50G, 100G

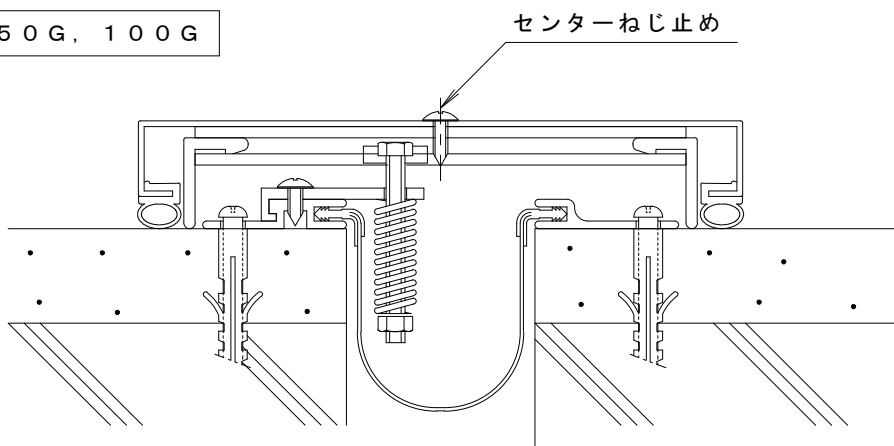


図11

22AE-150G, 200G

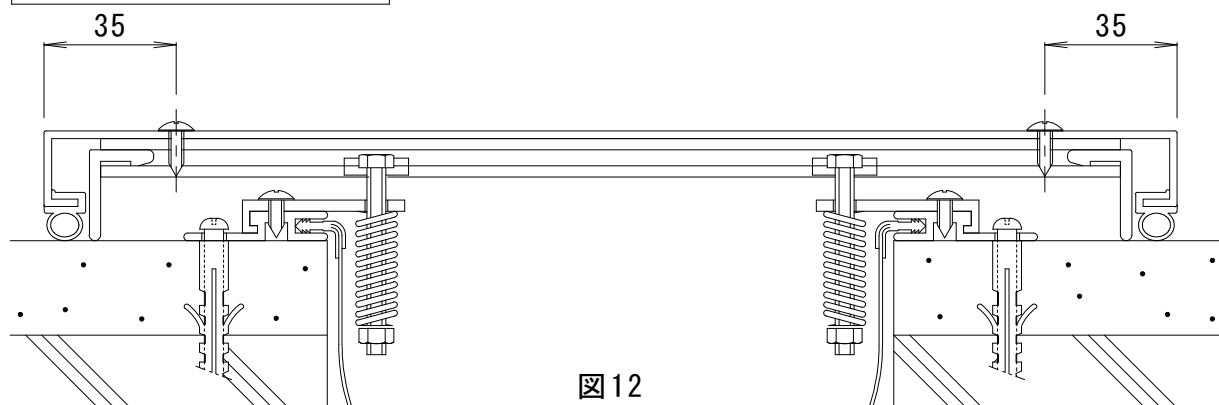


図12

22AE-5

6. カバー接続部の納まり

カバーの接続部には、ジョイントプレートが付いています。（図13）カバーの接続は、ジョイントプレートにカバーをスライドさせ差し込んで取付ていくことにより、通りがでる構造となっています。

注）外壁用のカバーの接続部は図14に示すように、6mmの目地を必要とします。この目地幅は外壁における温度変化によって、カバーが熱膨張した場合の影響を避けるために必ず設定してください。

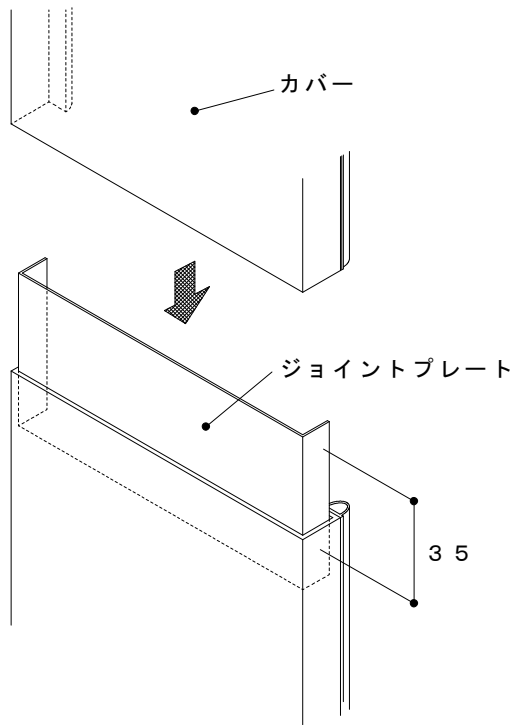


図13

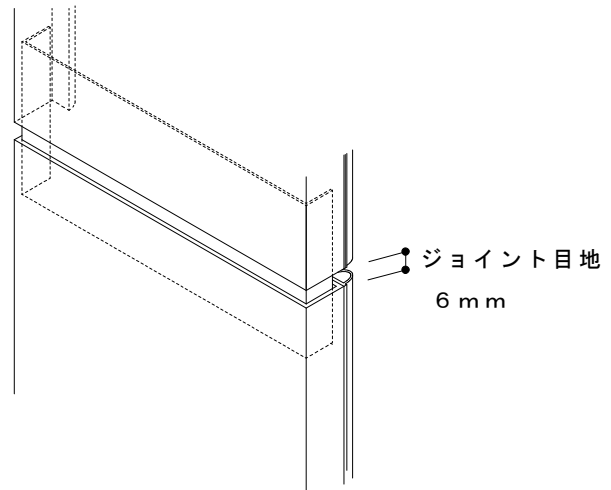


図14

7. カバー端部の納まり及び補助シートの処理

カバー上端を取付ける前に補助シートの処理をします。この部分は11, 12タイプの補助シートと接続させる必要があります。既に11, 12タイプを取付の際に補助シートを200mm程垂れ下がるように延長しました。この延長部分を図15のように折り曲げて22タイプの補助シートと接着します。

(接着剤は、別途です。)

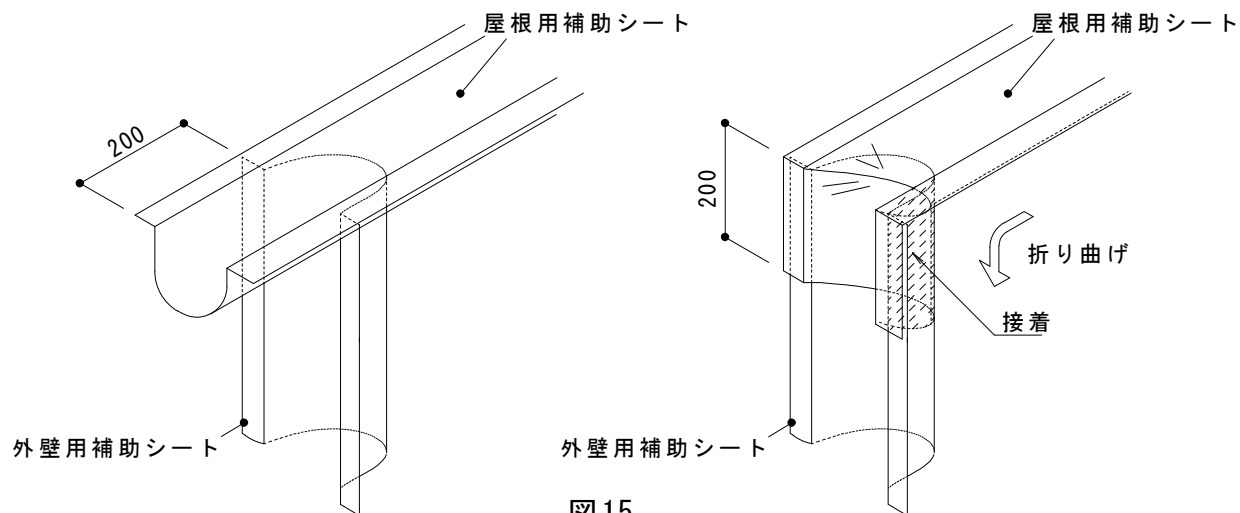


図15

※補助シートの処理が終わったらカバーを取付ます。最終納まりは図16のように11, 12タイプの小口カバーに挿入された形になります。

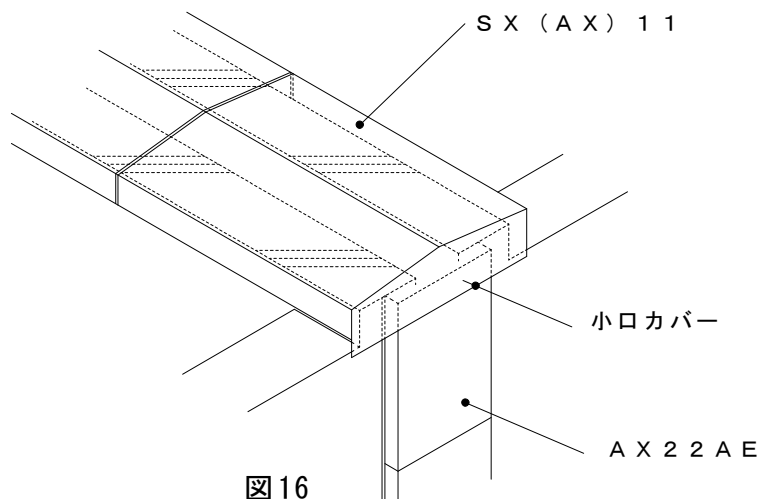


図16

外壁－外壁ｺｰﾅｰ用S X (A X) 2 3

下地仕上げ（パラペット仕上げには、次の点に注意してください。）

1. 建物のクリアランスは、変位量にあわせて仕上げてください。（図1、表1）それぞれの規定値よりも狭い場合には変形性能が確保できなくなる場合があります。

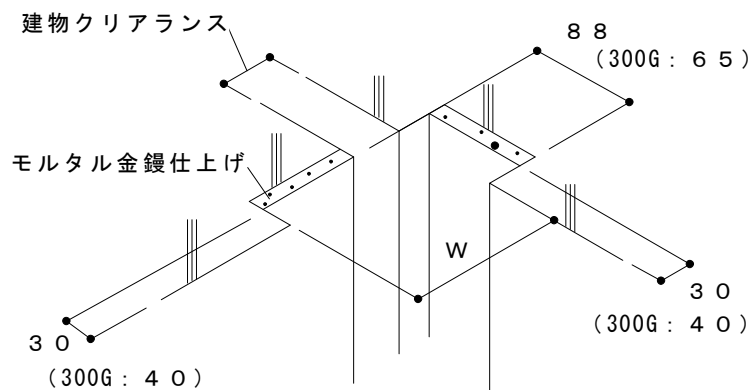


図 1

表 1. W寸法表

呼 称	W 寸 法
SX23 — 50F	204
SX23 — 100F	354
SX (AX) 23 — 50G	130
— 100G	204
— 150G	279
— 200G	354
— 300G	535

取付準備

製品は使用場所別に手配書の部番に合わせて梱包出荷されます。取付前に部品ユニットがすべて揃っていることを確認してください。

取付は次の順序で行ってください。

1. レベル墨打ち

外壁フレームユニットを取付るためのレベル墨を打ちます。レベル墨の位置（A寸法）は、図2及び表2を参照して下さい。

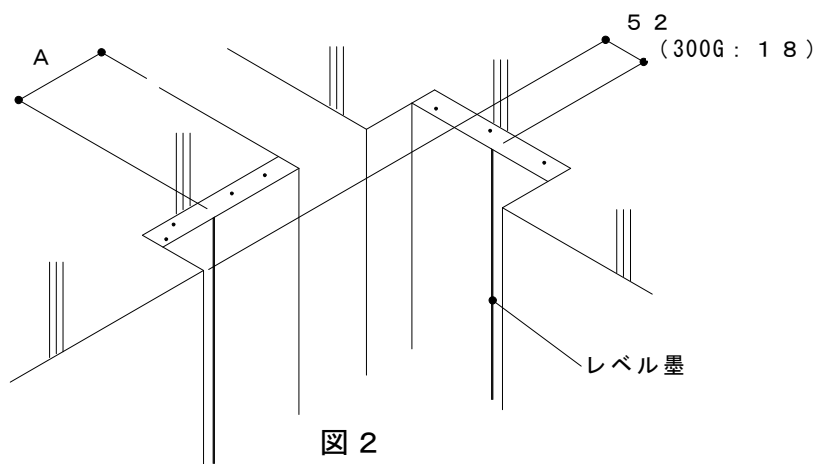


図 2

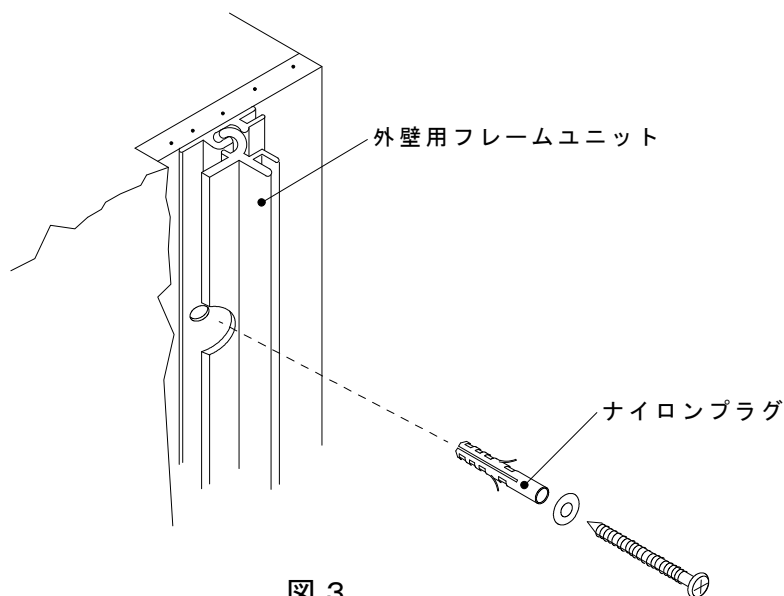
表 2. A寸法表

呼 称	A 寸 法
SX23 — 50F	148
SX23 — 100F	248
SX (AX) 23 — 50G	74
— 100G	98
— 150G	123
— 200G	148
— 300G	227

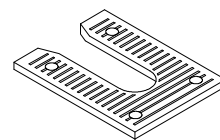
2. 外壁フレームユニットの取付

外壁フレームユニットに従って躯体に、 $\phi 6$ 、深さ40mmの下穴をあけます。次に付属のナイロンプラグを下穴に挿入し、固定ねじで止めます。（図3）

（固定ねじは、事前に平ワッシャをセットしておきます。）



レベルアジャストピース
平板タイプ



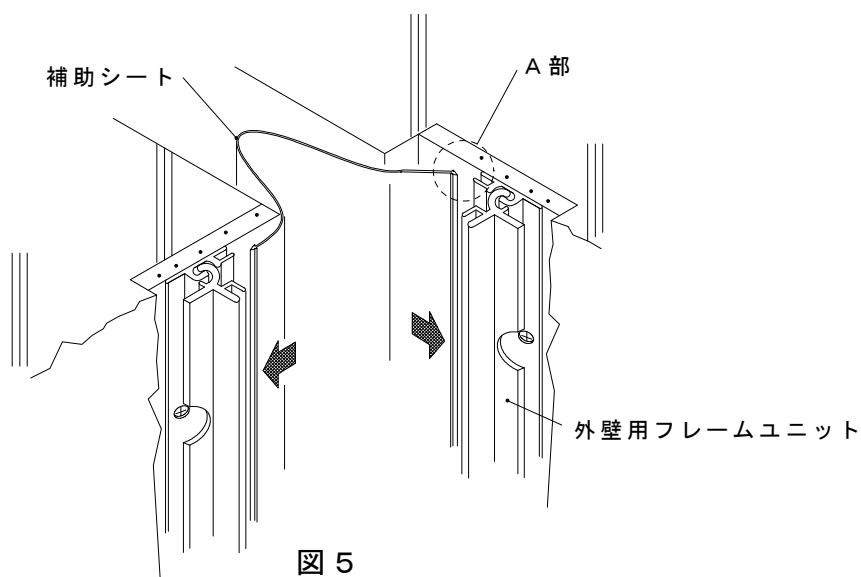
注1) フレームユニットの固定用穴は、風速60m/Sの風にも耐えられるように設計時に計算され数量が決められていますので、必ず全て固定してください。

注2) フレームユニットのレベル出しには、付属のレベルアジャストピース（図4）を御利用下さい。調整範囲は10mm程度です。ピースを5枚以上使用すると10mm以上の調整が可能ですが5.0×50の固定ねじでは所定の固定力が確保できないため50mm以上のねじを使用してください。

3. 補助シートの取付

外壁用フレームユニットのA部に補助シートを差し込みます。（図5）

注）直線距離が長い場合、先に補助シートを垂らしてからA部に差し込むとよじれの原因となり、施工後外れてしまう場合があります。補助シートはロールのまま上から順に左右対象に差し込んで下さい。



4-1. ホルダーの取付

ホルダーは左右非対象の部品です。フレームユニットの取付には、図6のA部を完全に打ち込み固定します。このとき、必ずすべてのホルダーのA部が同じ側になるように取付ます。ホルダーの取付ピッチは500mmです。

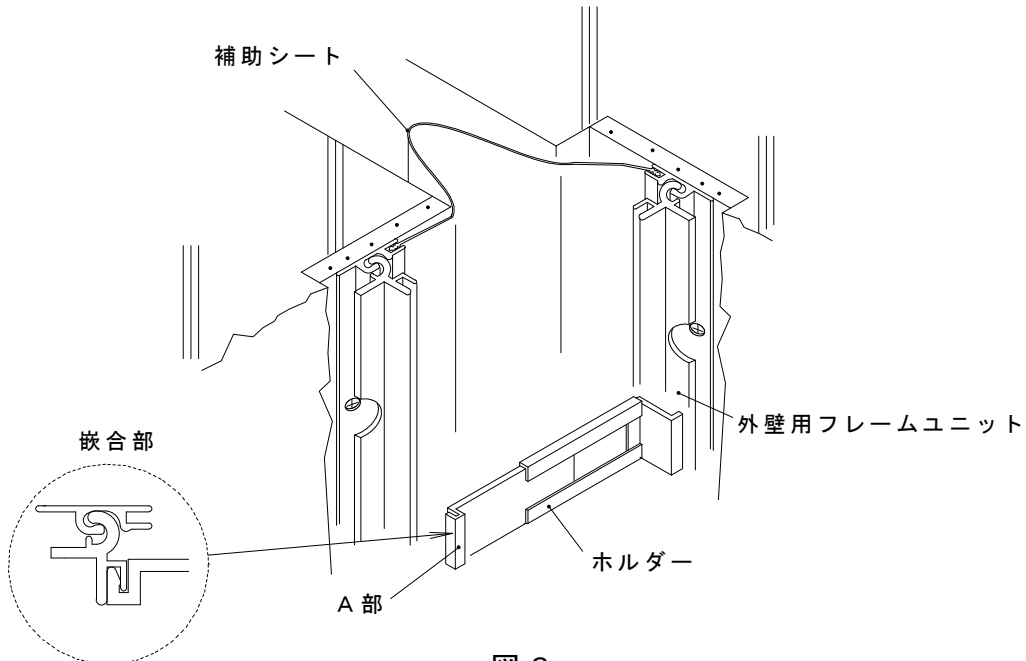


図 6

4-2. インカバー、ホルダーの取付

※300G（クリアランス300）の場合

インカバーと一体になったホルダーユニットのフレームユニットへの取付は、図7のA部（両側）を完全に打ち込みます。必ず両側を打ち込んでください。

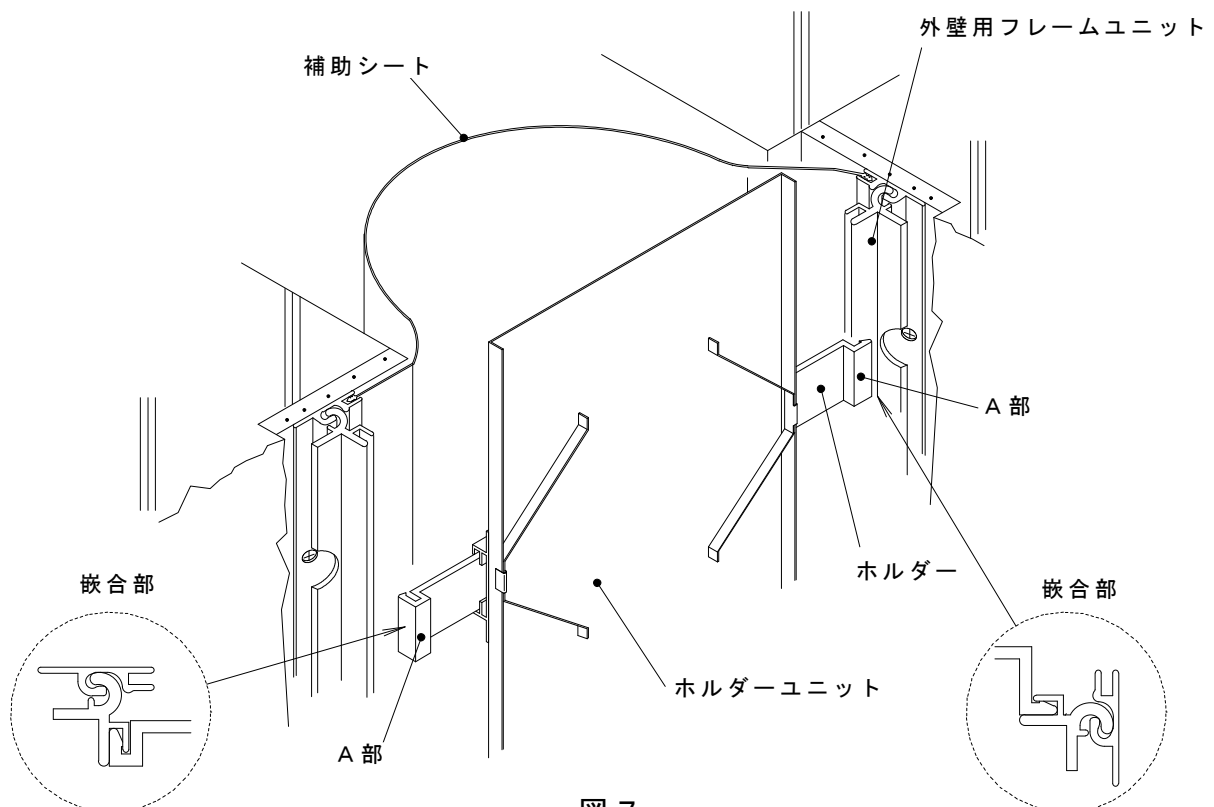


図 7

5-1. カバーの取付

カバーは図8のようにインカバーとアウトカバーがあります。まずインカバーを取付ます。

(カバーはジョイントの付いたほうが上です。) S X (ステンレス製) カバーには、取付穴が工場加工されていますので、その穴を基準にしてドリルねじで固定します。A X (アルミ製) カバーは、現場にてカバーをフレームにあてφ3.6下穴加工 (@500mm) を行ってドリルねじで固定します。続いてアウトカバーをインカバーと同じ要領で取付ます。

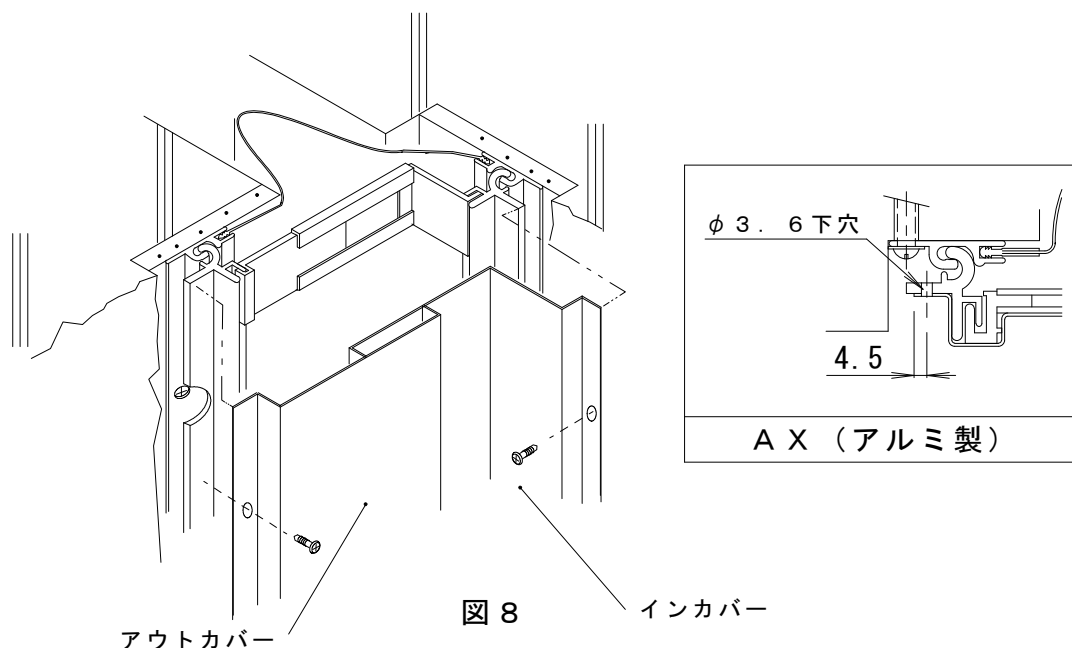


図 8

5-2. カバーの取付

※300G (クリアランス300) の場合

アウトカバーを図9に示すように取付ます。カバーには取付穴が工場加工されていますので、その穴を基準にしてドリルねじで固定します。

注) アウトカバーは、図9に示すように①方向からはめ次に②方向へ引っ張るように取付ます。板バネの力によりカバーのズレを防ぎます。

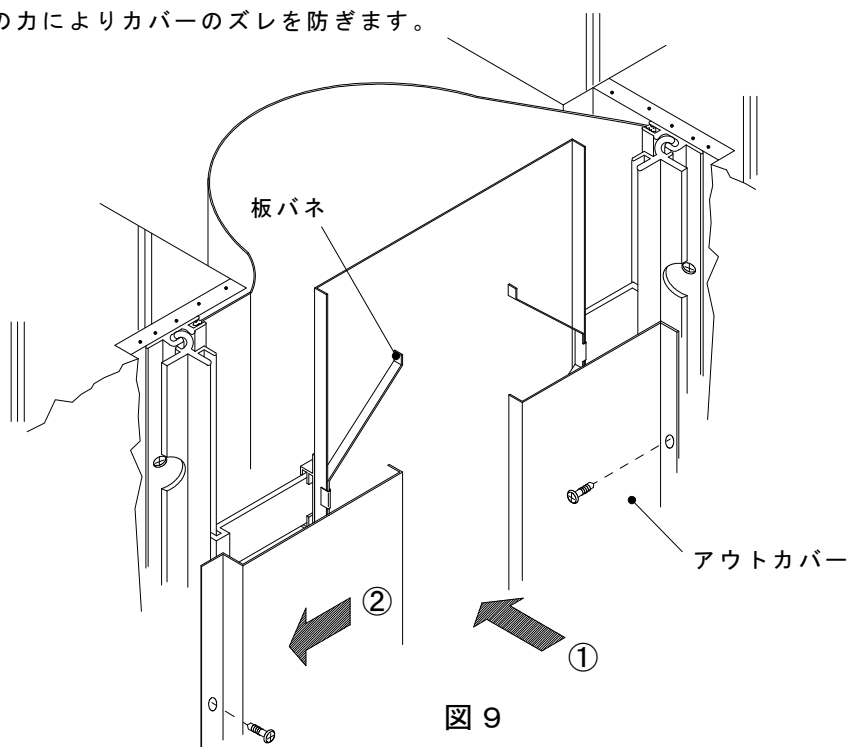


図 9

6. カバー接続部の納まり

インカバー、アウトカバーともに接続部には、ジョイントプレートが付いています。（図10、12）カバー接続部は、ジョイントプレートの上にカバーをかぶせながら取付ていくことにより、通りがでる構造となっています。

注）外壁用のカバーの接続部は図11、13に示すように、6mmの目地を必要とします。この目地幅は外壁における温度変化によって、カバーが熱膨張した場合の影響を避けるために必ず設定してください。

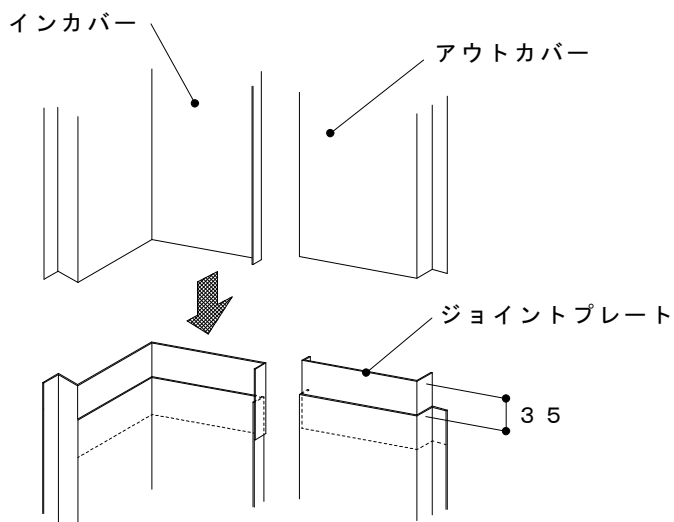


図10

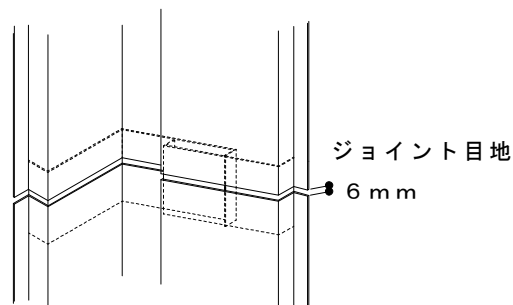


図11

※300G（クリアランス300）の場合

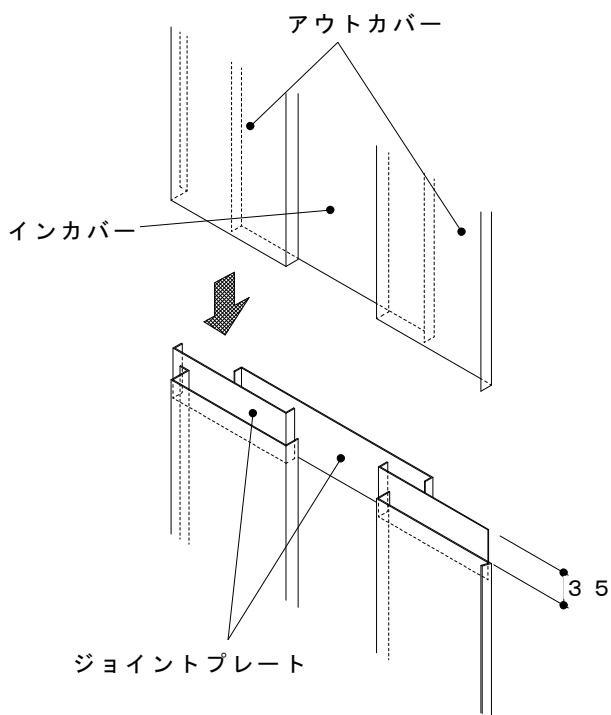


図12

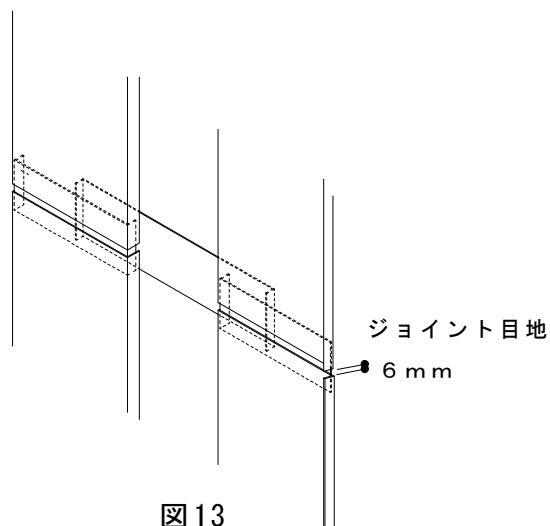


図13

7. コーキング

壁面とカバーの隙間にコーキングを行います。（図14）

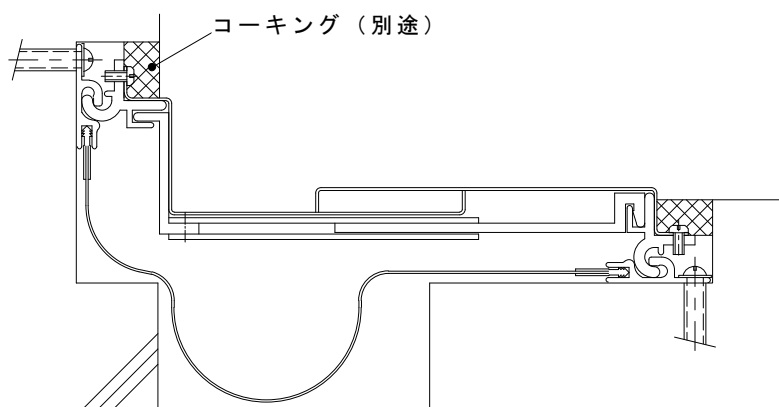


図14

8. カバー端部の納まり及び補助シートの処理

カバー上端を取付ける前に補助シートの処理をします。この部分は11, 12タイプの補助シートと接続させる必要があります。既に11, 12タイプを取付の際に補助シートを200mm程垂れ下がるように延長しました。この延長部分を図15のように折り曲げて23タイプの補助シートと接着します。（接着剤は、別途です。）

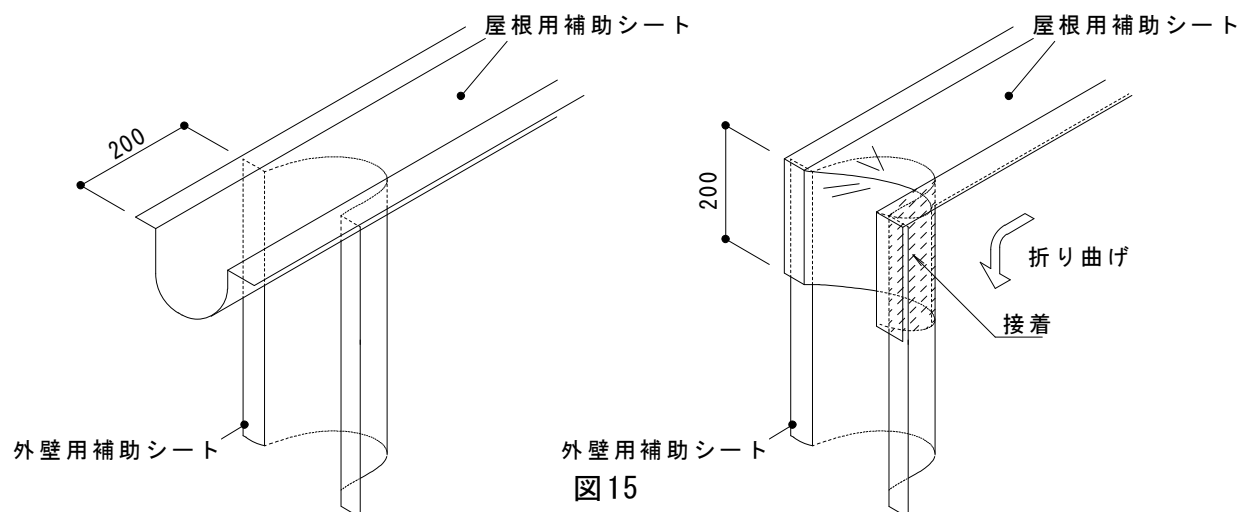


図15

※補助シートの処理が終わったらカバーを取付ます。最終納まりは図16のように11, 12タイプの小口カバーに挿入された形になります。

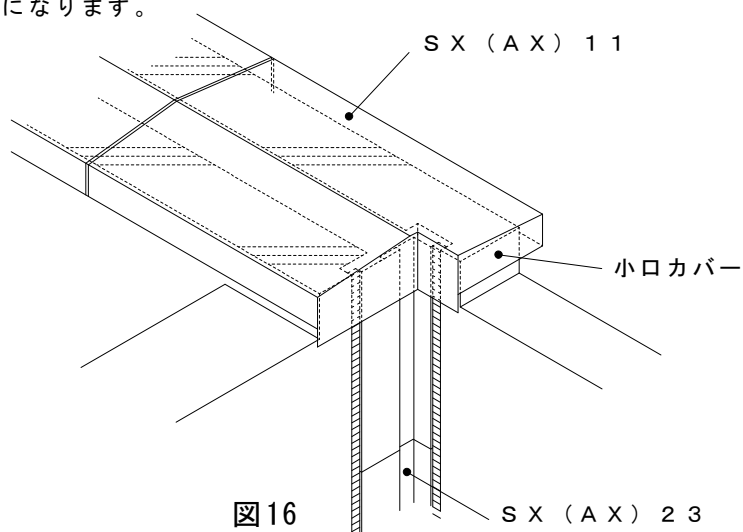


図16

外壁－外壁コーナ-用 S X (A X) 2 3 A

下地仕上げ（パラペット仕上げには、次の点に注意してください。）

1. 建物のクリアランスは、変位量にあわせて仕上げてください。（図 1）それぞれの規定値よりも狭い場合には変形性能が確保できなくなる場合があります。

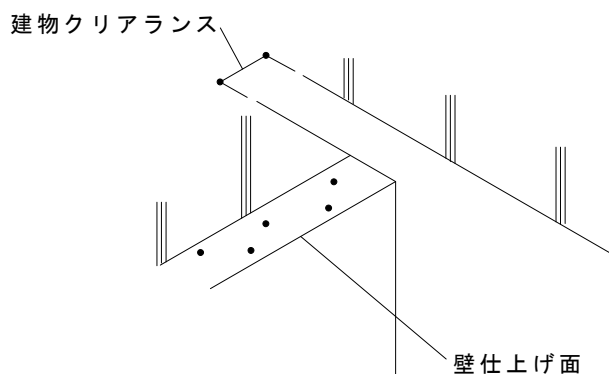


図 1

取付準備

製品は使用場所別に手配書の部番に合わせて梱包出荷されます。取付前に部品ユニットがすべて揃っていることを確認してください。

取付は次の順序で行ってください。

1-1. レベル墨打ち

外壁フレームユニットを取付るためのレベル墨を打ちます。レベル墨の位置（A 寸法）は、図 2 及び表 1 を参照して下さい。

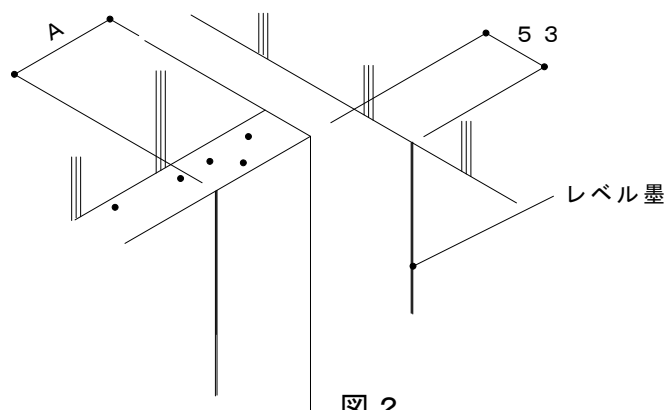


図 2

表 1. A 寸法表

呼 称	A 寸法
SX23A — 50F	148
SX23A — 100F	248
SX (AX) 23A — 50G	92
— 100G	98
— 150G	124
— 200G	148

1-2. レベル墨打ち

※ 300G（クリアランス 300）の場合

外壁フレームユニットを取付るためのレベル墨を打ちます。（図 3）

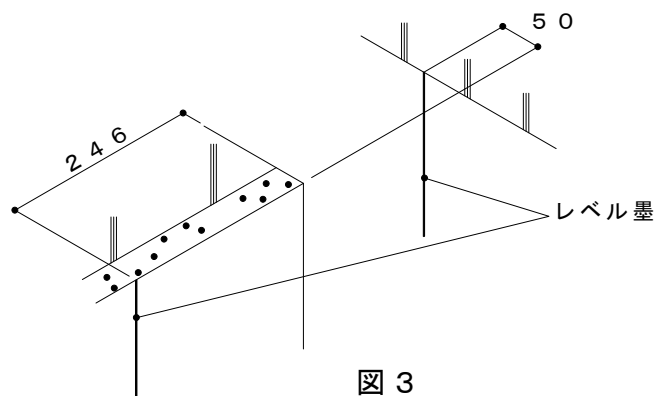
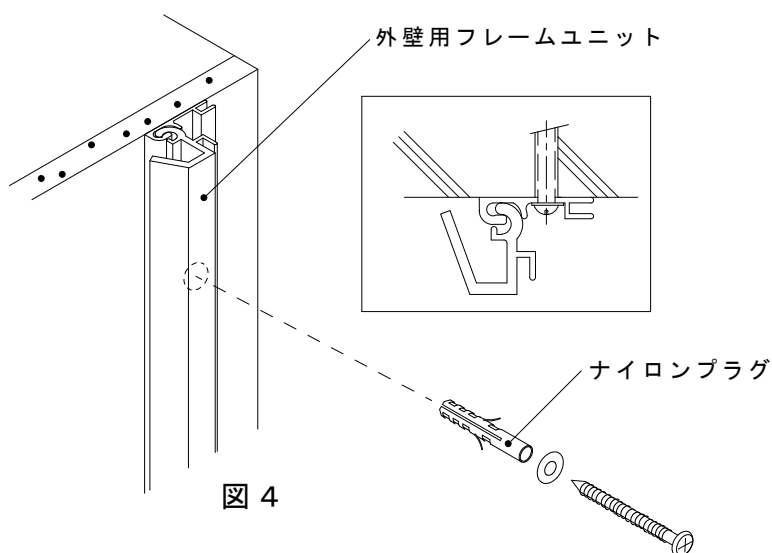


図 3

2-1. 外壁フレームユニットの取付

外壁フレームユニットに従って躯体に、 $\phi 6$ 、深さ40mmの下穴をあけます。次に付属のナイロンプラグを下穴に挿入し、固定ねじで止めます。（図4）

（固定ねじは、事前に平ワッシャをセットしておきます。）

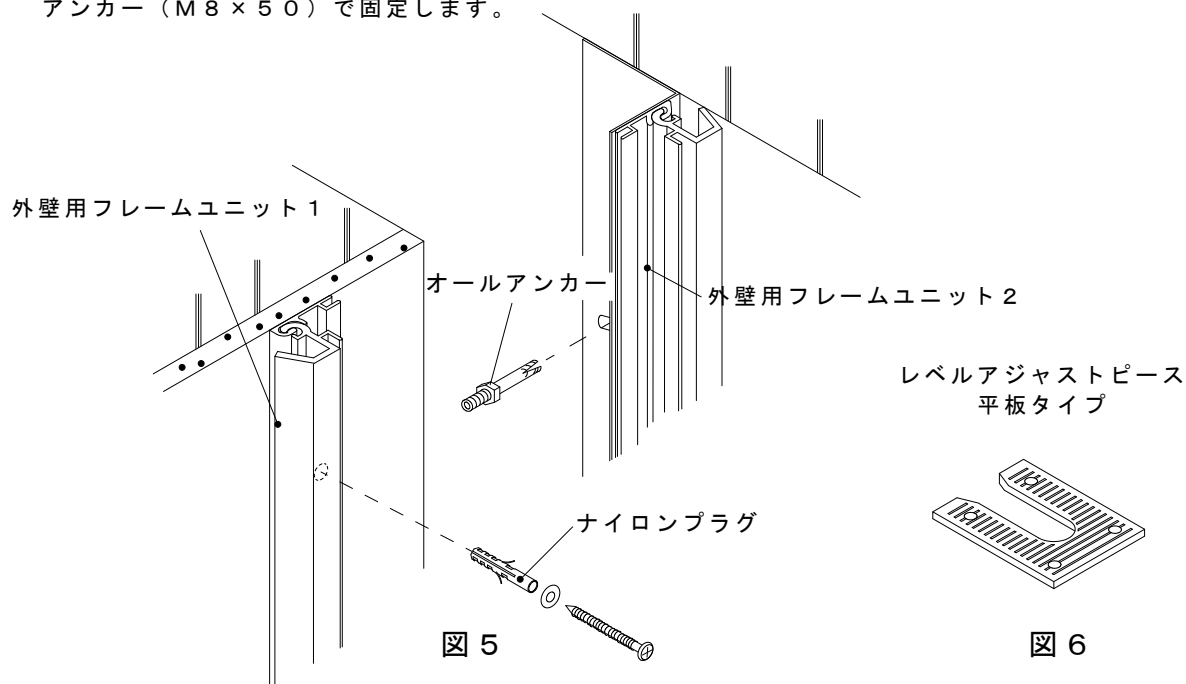


2-2. 外壁フレームユニットの取付

※300G（クリアランス300）の場合

図5に示すように外壁フレームユニット1に従って躯体に、 $\phi 6$ 、深さ40mmの下穴をあけます。次に付属のナイロンプラグを下穴に挿入し、固定ねじで止めます。（固定ねじは、事前に平ワッシャをセットしておきます。）

外壁フレームユニット2に従って躯体に、 $\phi 8.5$ 、深さ60mmの下穴をあけます。次に付属のオールアンカー（M8×50）で固定します。



注1）フレームユニットの固定用穴は、風速60m/Sの風にも耐えられるように設計時に計算され数量が決められていますので、必ず全て固定してください。

注2）フレームユニットのレベル出しには、付属のレベルアジャストピース（図6）を御利用下さい。調整範囲は10mm程度です。ピースを5枚以上使用すると10mm以上の調整が可能ですが5.0×50の固定ねじでは所定の固定力が確保できないため50mm以上のねじを使用してください。

3. 補助シートの取付

外壁用フレームユニットのA部に補助シートを差し込みます。(図6, 7)

注) 直線距離が長い場合、先に補助シートを垂らしてからA部に差し込むとよじれの原因となり、施工後外れてしまう場合があります。補助シートはロールのまま上から順に左右対象に差し込んで下さい。

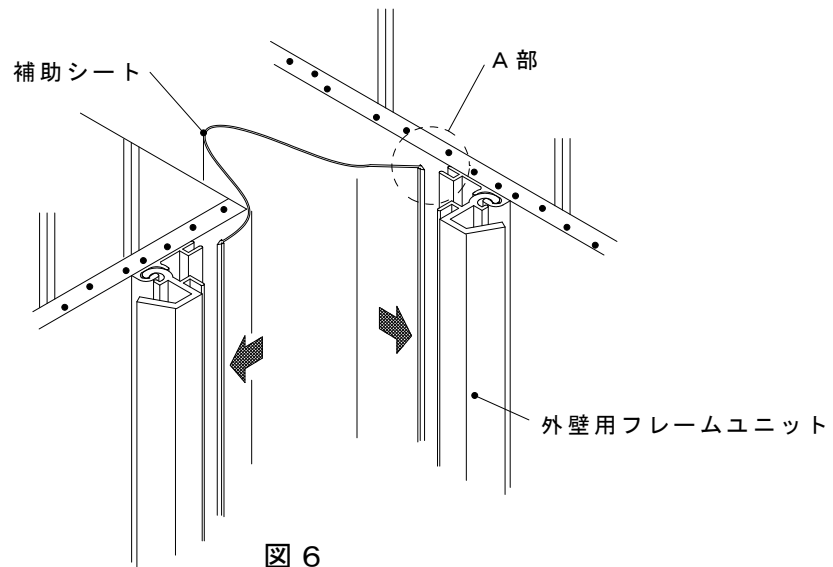


図 6

※300G (クリアランス300) の場合

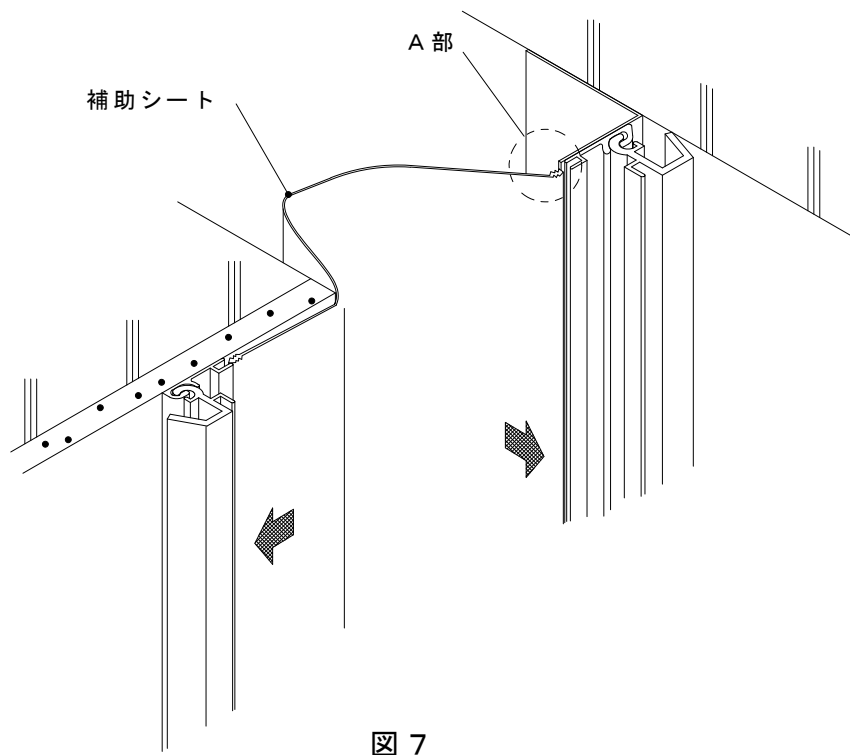
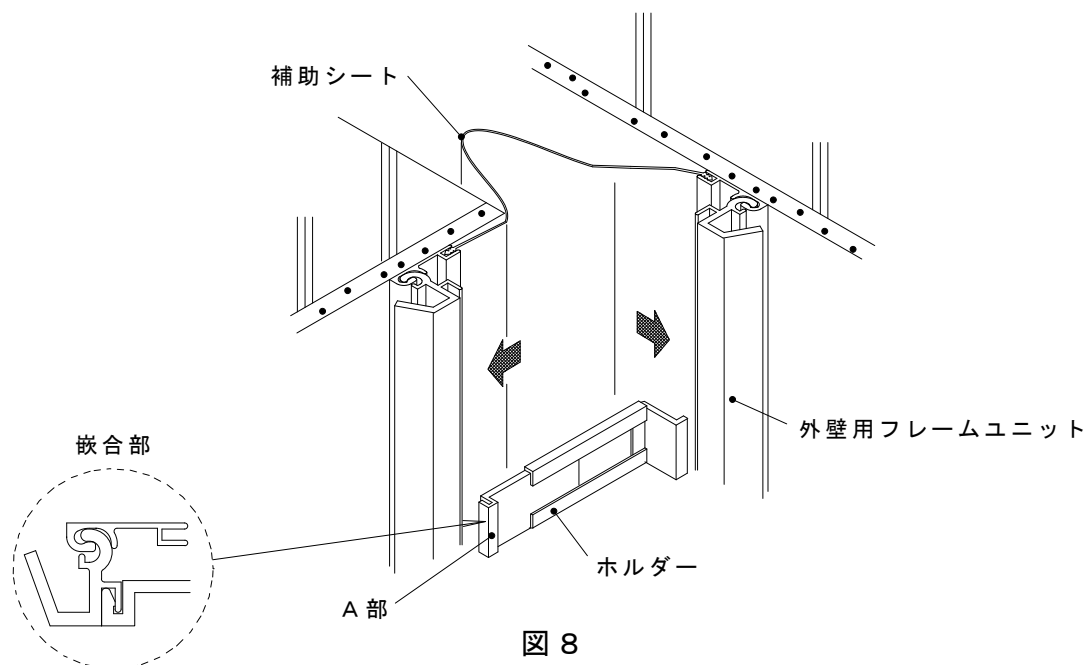


図 7

4-1. ホルダーの取付

ホルダーは左右非対象の部品です。フレームユニットの取付には、図8のA部を完全に打ち込み固定します。このとき、必ずすべてのホルダーのA部が同じ側になるように取付ます。

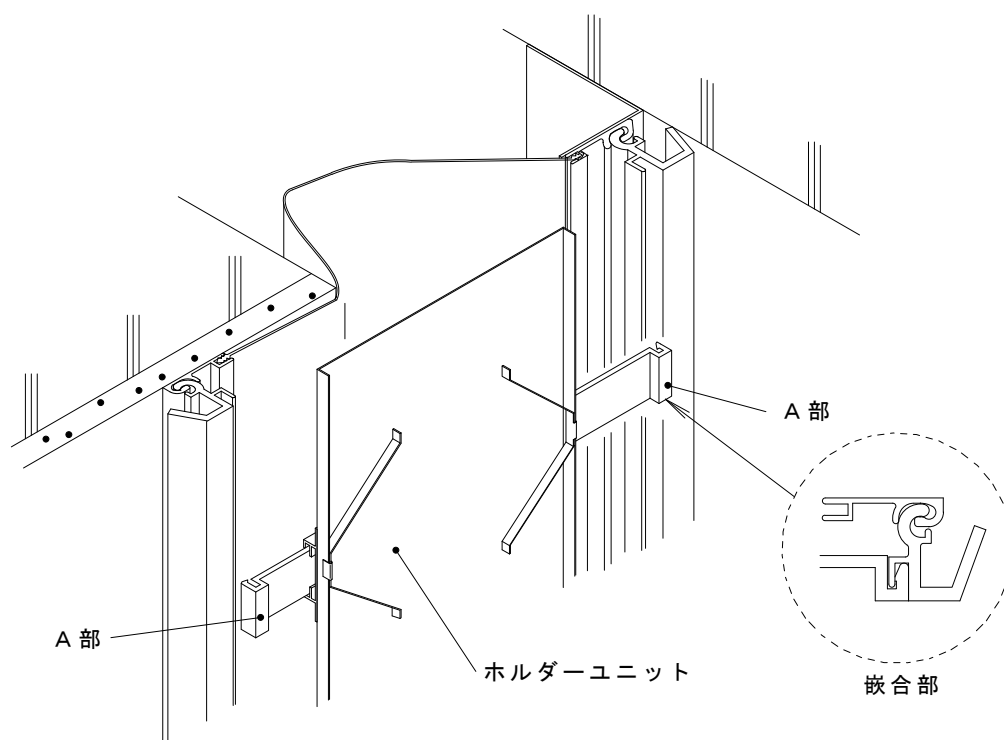
ホルダーの取付ピッチは500mmです。



4-2. インカバー、ホルダーの取付

※300G（クリアランス300）の場合

インカバーと一体になったホルダーユニットのフレームユニットへの取付は、図9のA部（両側）を完全に打ち込みます。必ず両側を打ち込んでください。



5-1. カバーの取付

カバーは図10のようにインカバーとアウトカバーがあります。まずインカバーを取付ます。

（カバーはジョイントの付いたほうが上です。）S X（ステンレス製）カバーには、取付穴が工場加工されていますので、その穴を基準にして各々ねじで固定します。A X（アルミ製）カバーは、現場にてカバーをフレームにあて $\phi 3.6$ 下穴加工（@500mm）を行ってドリルねじで固定します。続いてアウトカバーをインカバーと同じ要領で取付ます。

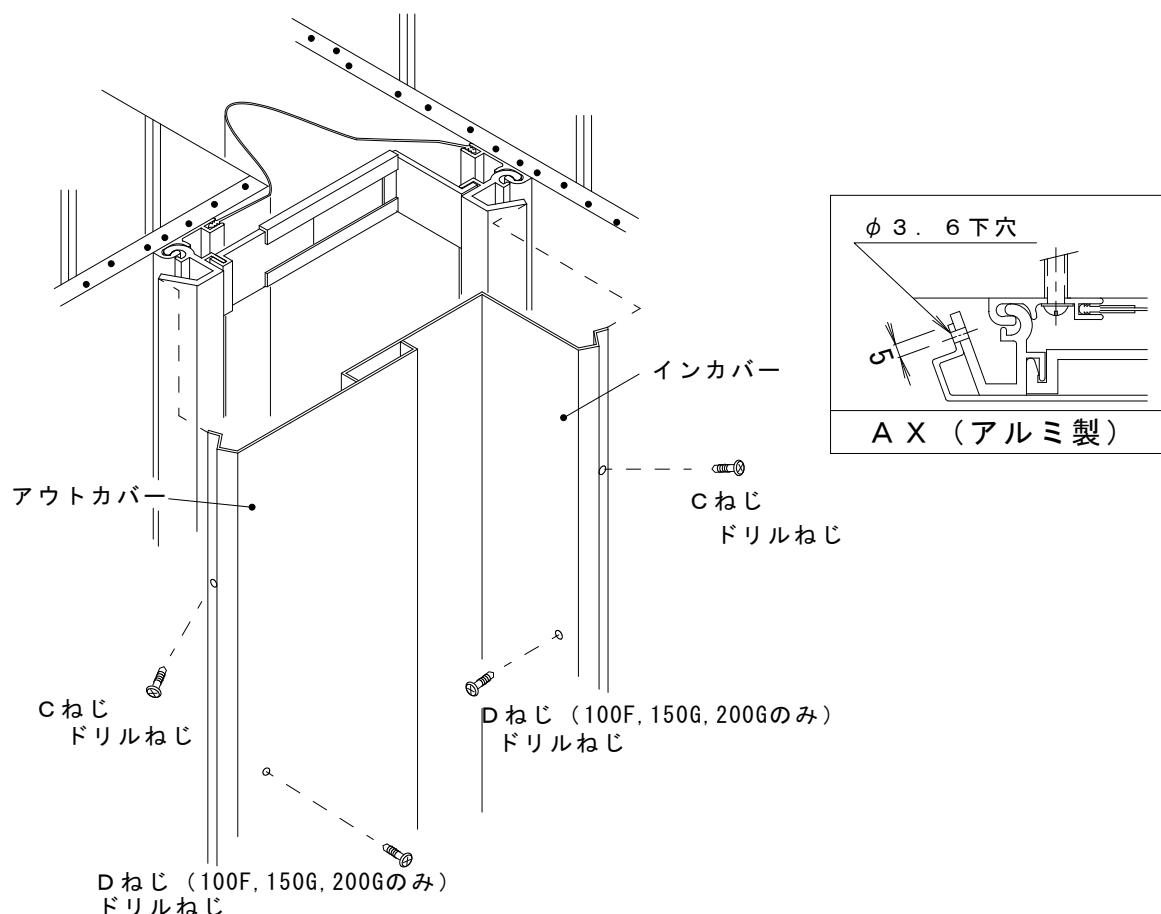


図10

※ねじ止めについて

S X・A X 23 A-100F, 150G, 200Gについては、Cねじに加えDねじも固定して下さい。S X（ステンレス製）カバーには、Dねじ取付穴が工場加工されていますので、その穴を基準にしてドリルねじで固定します。A X（アルミ製）カバーは、現場にて $\phi 3.6$ 下穴加工（4ヶ所/3m）を行いドリルねじで固定して下さい。（図11）

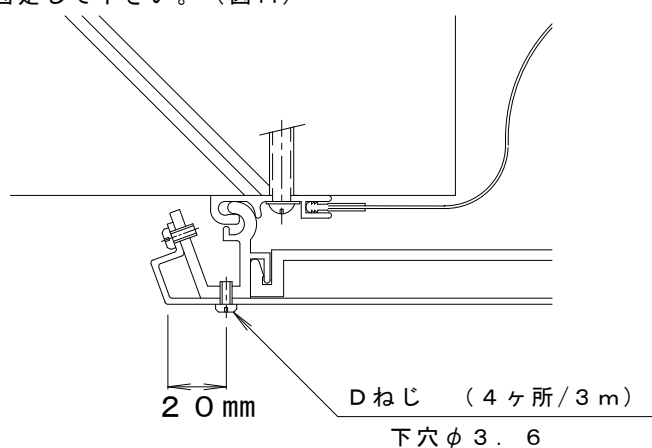


図11

5-2. カバーの取付

※300G（クリアランス300）の場合

アウトカバーを図12に示すように取付ます。カバーには取付穴が工場加工されていますので、その穴を基準にして各々ねじで固定します。

注）アウトカバーは、図12に示すように①方向からはめ次に②方向へ引っ張るように取付ます。板バネの力によりカバーのズレを防ぎます。

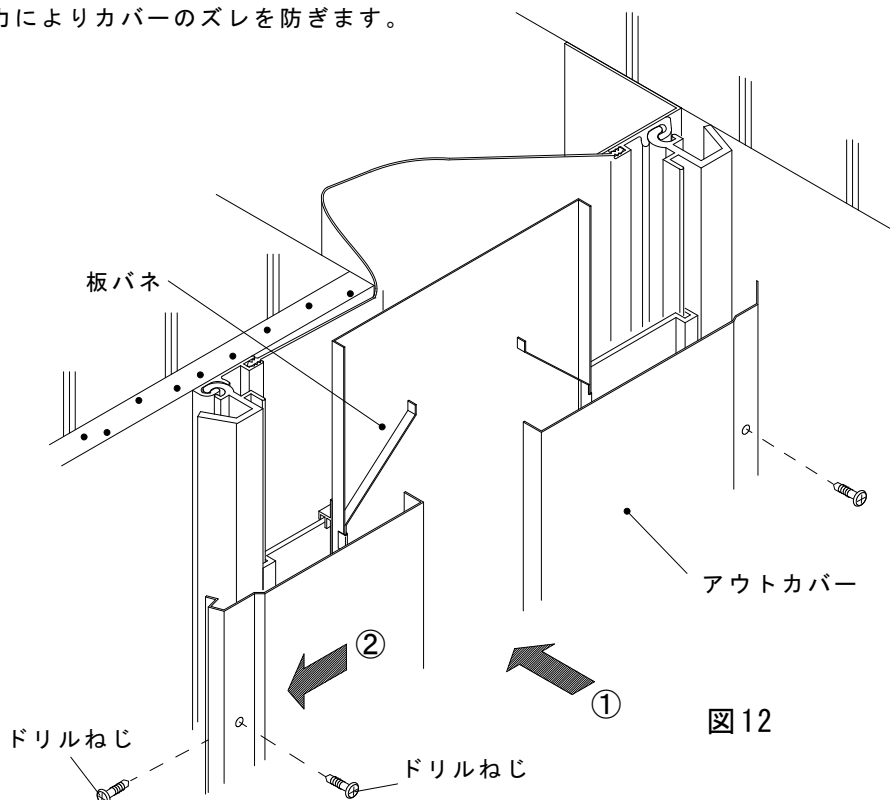


図12

6. カバー接続部の納まり

インカバー、アウトカバーともに接続部には、ジョイントプレートが付いています。（図13,15）カバー接続部は、ジョイントプレートの上にカバーをかぶせながら取付ていくことにより、通りがでる構造となっています。

注）外壁用のカバーの接続部は図14,16に示すように、6mmの目地を必要とします。この目地幅は外壁における温度変化によって、カバーが熱膨張した場合の影響を避けるために必ず設定してください。

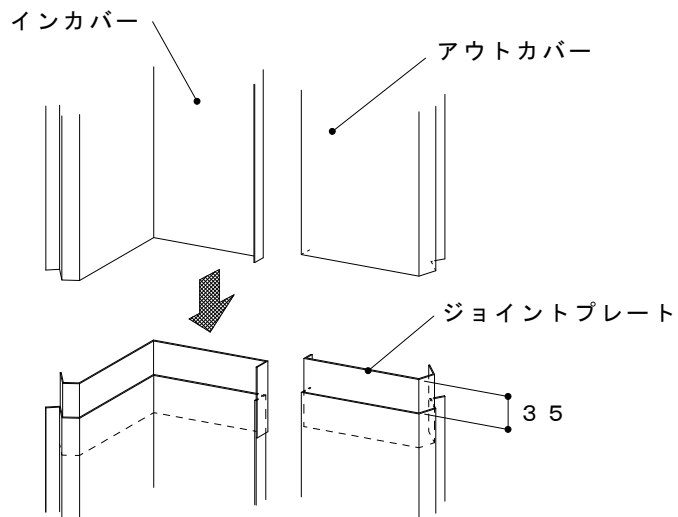


図13

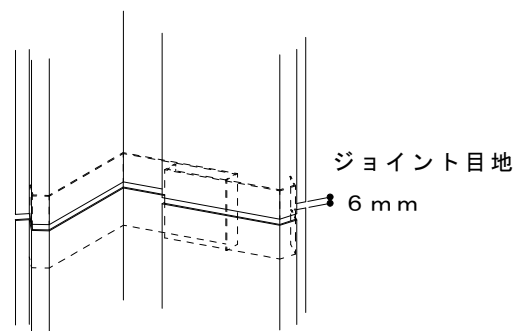
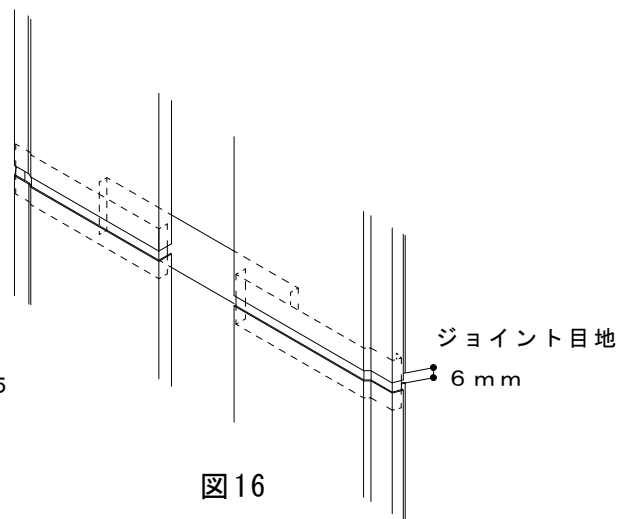
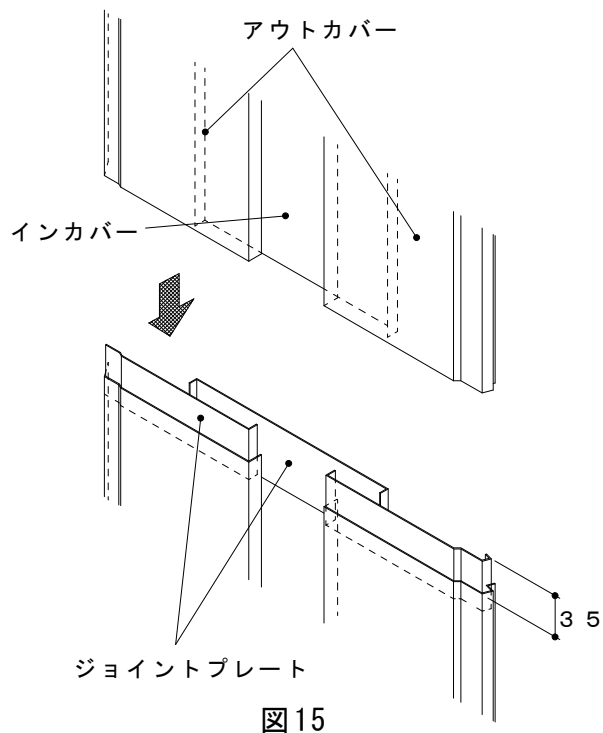


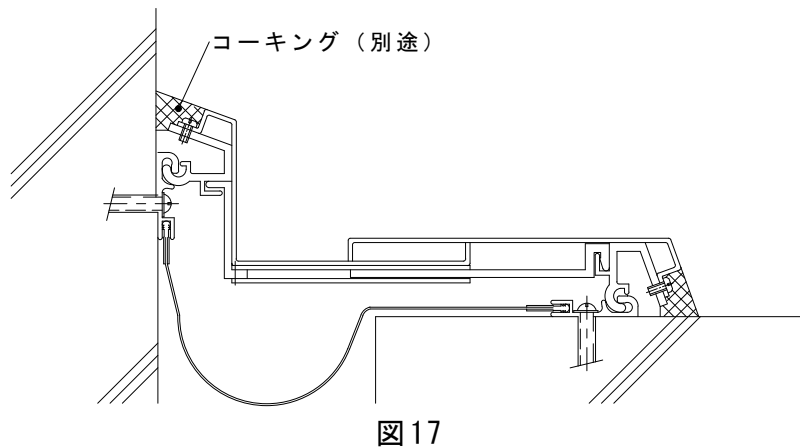
図14

※ 300G（クリアランス300）の場合

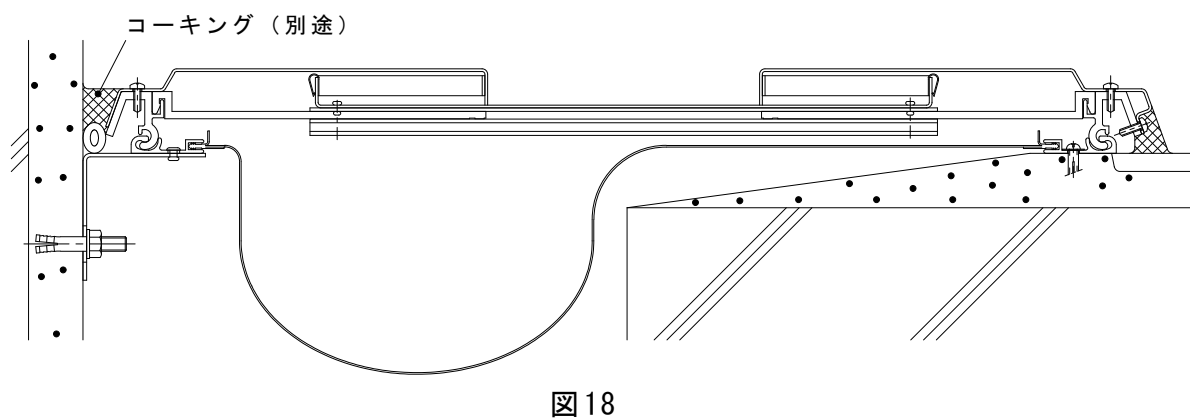


7. コーキング

壁面とカバーの隙間にコーキングを行います。（図17,18）



※ 300G（クリアランス300）の場合



8. カバー端部の納まり及び補助シートの処理

カバー上端を取付る前に補助シートの処理をします。この部分は11, 12タイプの補助シートと接続させる必要があります。既に11, 12タイプを取付の際に補助シートを200mm程垂れ下がるよう

- 9 に延長しました。この延長部分を図19のように折り曲げて22タイプの補助シートと接着します。
(接着剤は、別途です。)

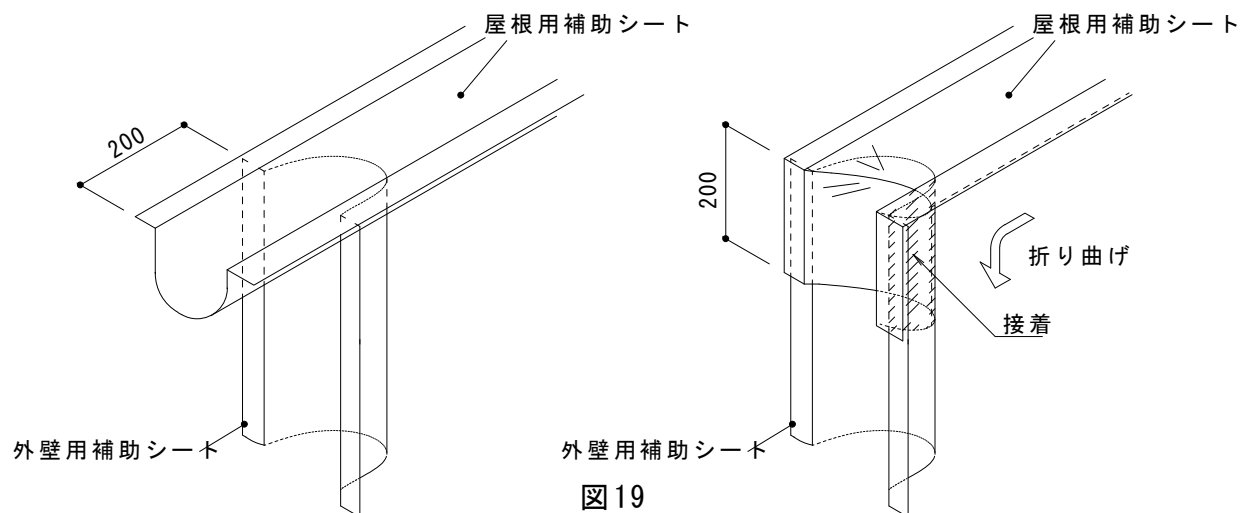


図19

※補助シートの処理が終わったらカバーを取付ます。最終納まりは図20のように11, 12タイプの小口カバーに挿入されます。

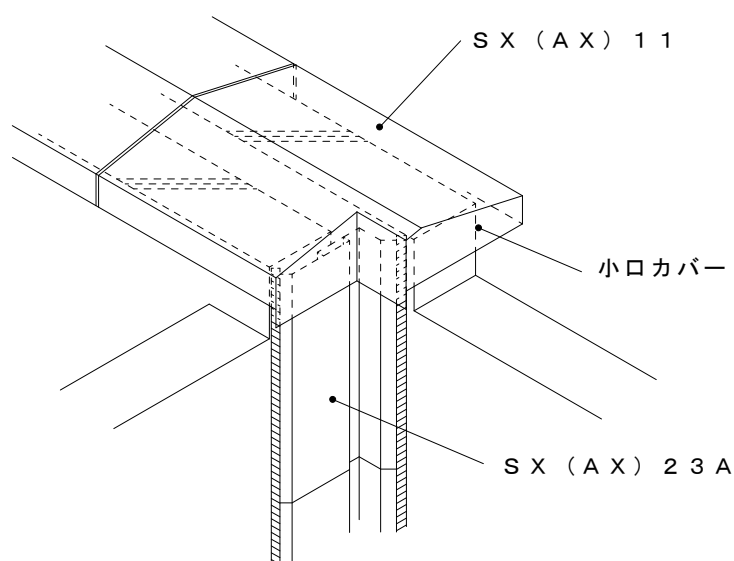


図20

外壁－外壁ｺｰﾅｰ用S X（A X） 2 3 A E

下地仕上げ（パラペット仕上げには、次の点に注意してください。）

1. 建物のクリアランスは、変位量にあわせて仕上げてください。（図1）それぞれの規定値よりも狭い場合には変形性能が確保できなくなる場合があります。

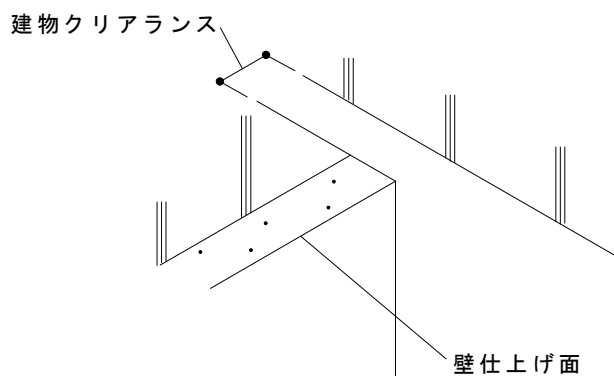


図 1

取付準備

製品は使用場所別に手配書の部番に合わせて梱包出荷されます。取付前に部品ユニットがすべて揃っていることを確認してください。

取付は次の順序で行ってください。

1-1. レベル墨打ち

外壁ユニットを取付るためのレベル墨を打ちます。レベル墨の位置（A寸法）は、図2を参照して下さい。

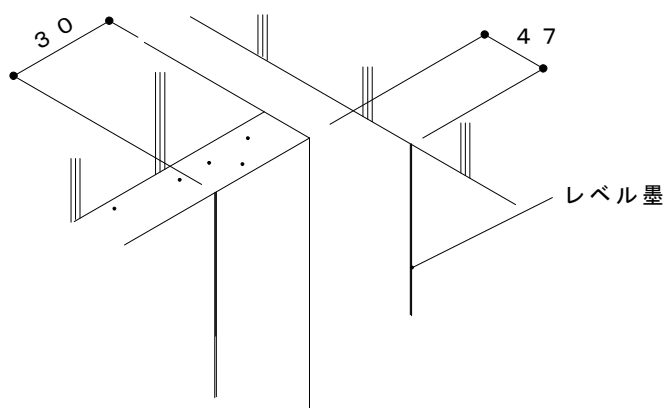


図 2

2. フレームの取付

フレーム B, C に従って躯体に、 $\phi 8$ 、深さ 60mm の下穴をあけます。次に付属のナイロンプラグを下穴に挿入し、固定ねじで止めます。(図 3, 4)

(固定ねじ、事前に平ワッシャをセットしておきます。)

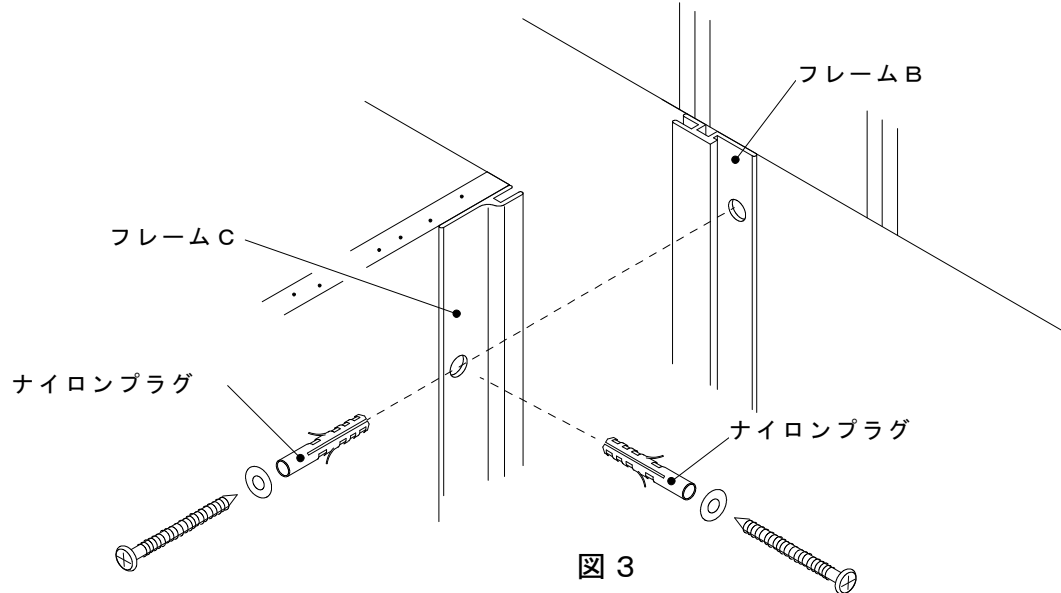


図 3

23AE-50G, 100G

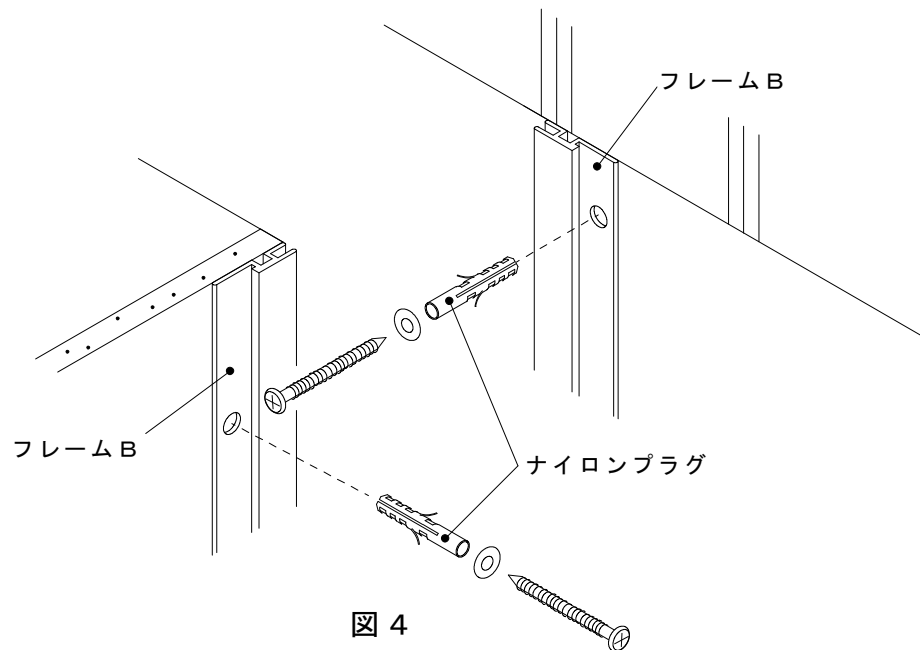


図 4

23AE-150G, 200G

注 1) フレームユニットの固定用穴は、風速 60m/S の風にも耐えられるように設計時に計算され数量が決められていますので、必ず全て固定してください。

3. 補助シートの取付

外壁用フレームのA部に補助シートを差し込みます。(図6)

注) 直線距離が長い場合、先に補助シートを垂らしてからA部に差し込むとよじれの原因となり、施工後外れてしまう場合があります。補助シートは、ロールのまま上から順に左右対象に差し込んで下さい。

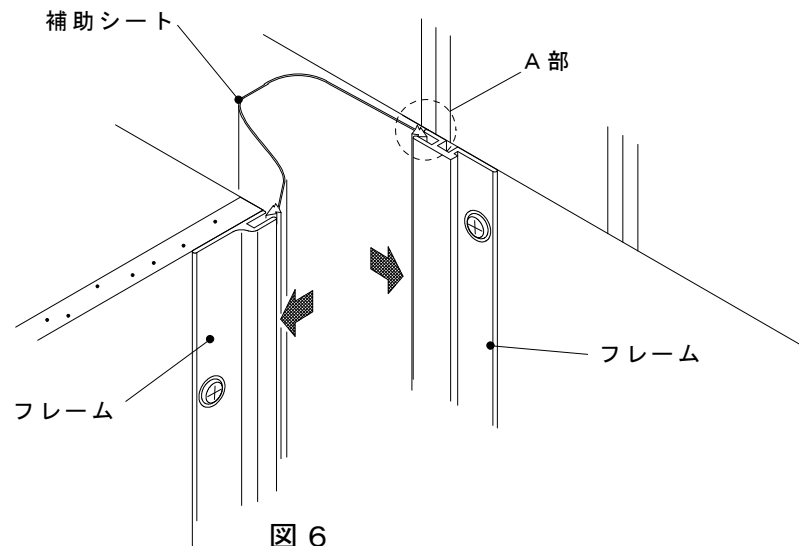


図 6

4. ホルダーの取付

ホルダーは、フレームBに端部(A, B部)をはめ込み、M4×10のドリルねじで50G, 100Gは、2ヶ所・150G, 200Gは、4ヶ所固定します。(図7, 図8)

ホルダーの取付ピッチは500mmです。

※カバーは、ホルダーにねじ止めして取付けるためホルダー位置が分かるよう躯体にマーキングしておきます。

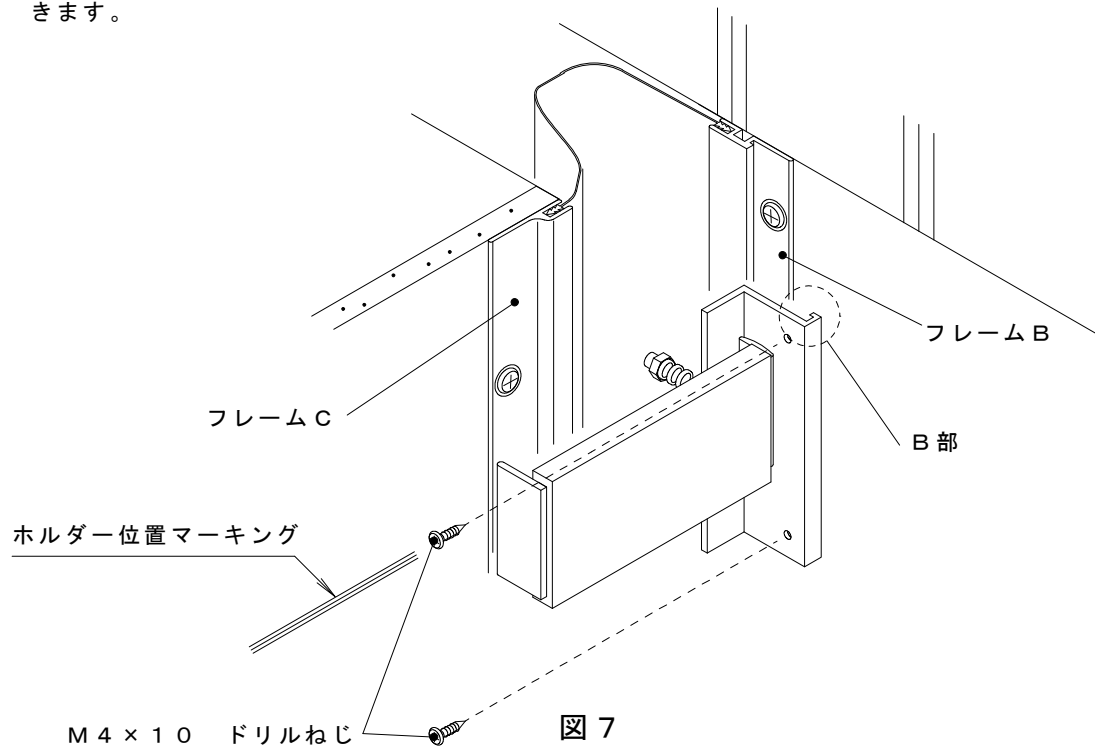


図 7

23AE-50G, 100G

23AE-3

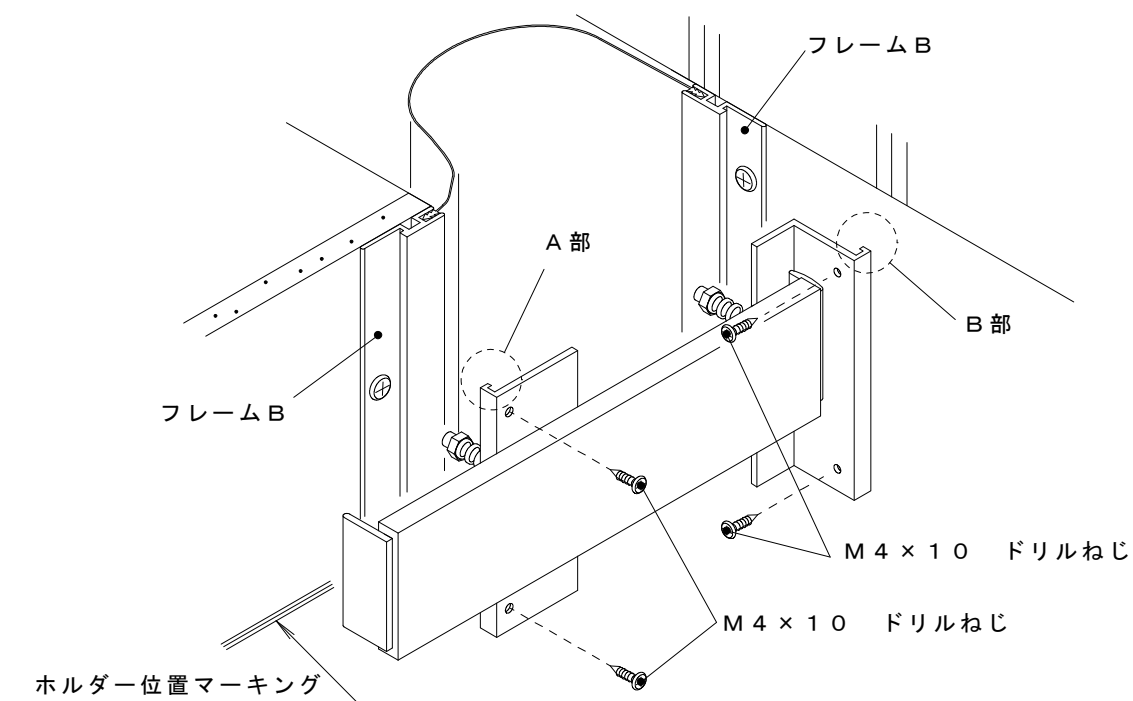
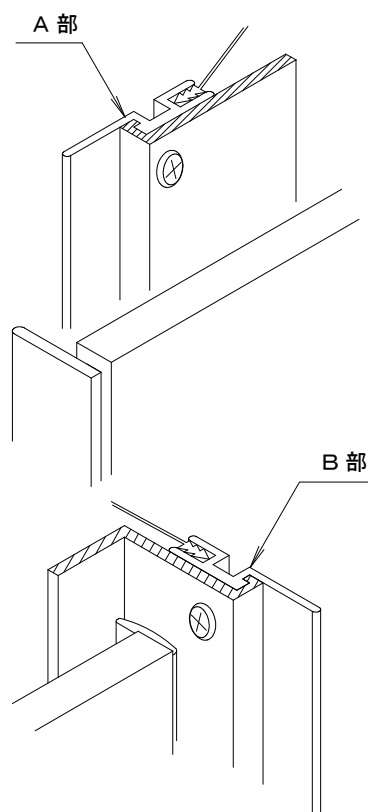


図 8

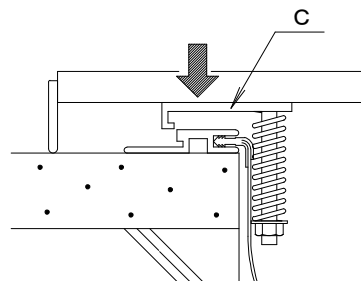
※ B 部から先にはめ、次に A 部を図 9 の要領ではめます。

23AE-150G, 200G

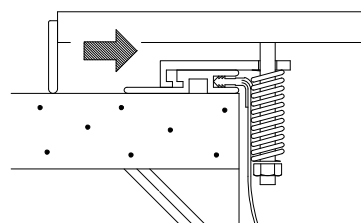
※ホルダーの A 部取付詳細について (図 9)



①ホルダーの足を躯体に当てホルダー C 部をフレーム側に押す。



②ホルダー C 部をフレームの溝側にスライドさせる。



③ M4 x 10 のドリルねじでフレームに固定する。

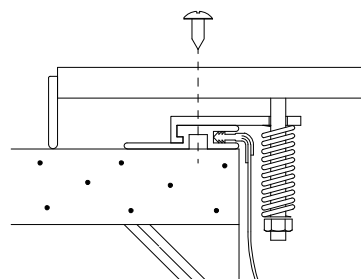


図 9

23AE-4

5. カバー取付

カバーは、図10のようにホルダーにあて $\phi 3.6$ 下穴加工（@500mm）を行って各々ねじで固定します。（カバーはジョイントが付いたほう上です。）

※カバーを被せた後は、先に躯体に付けたマーキングでホルダー位置を判断します。

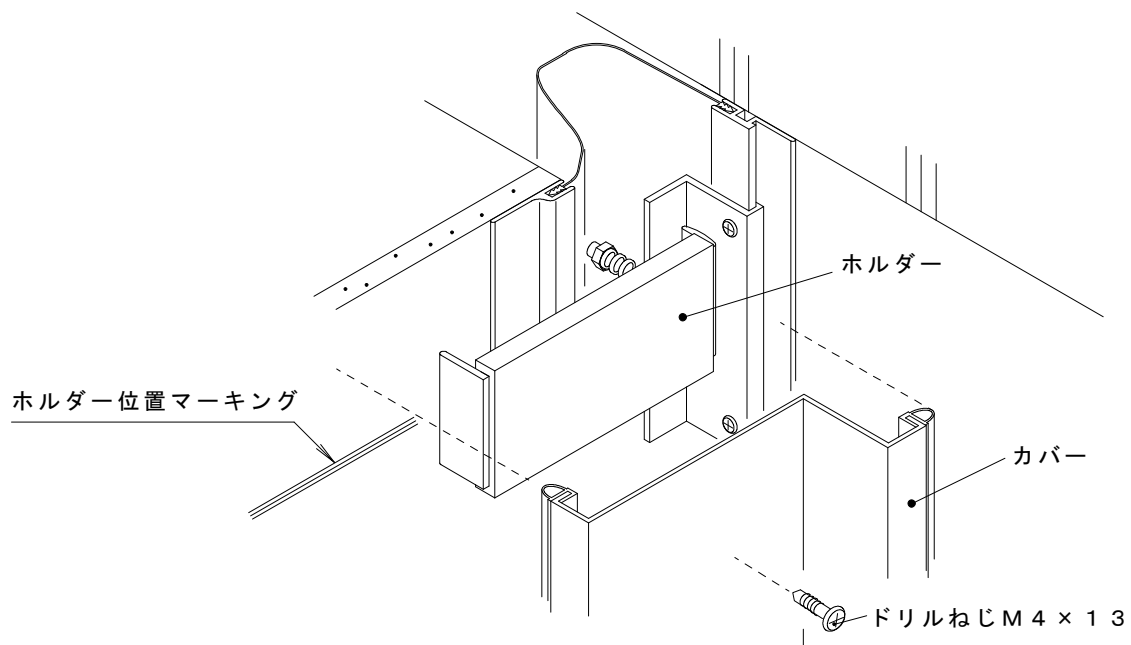


図10

注）ねじ止めする際には、カバーを壁側に押し付けパッキンを圧接して止めて下さい。（図11）

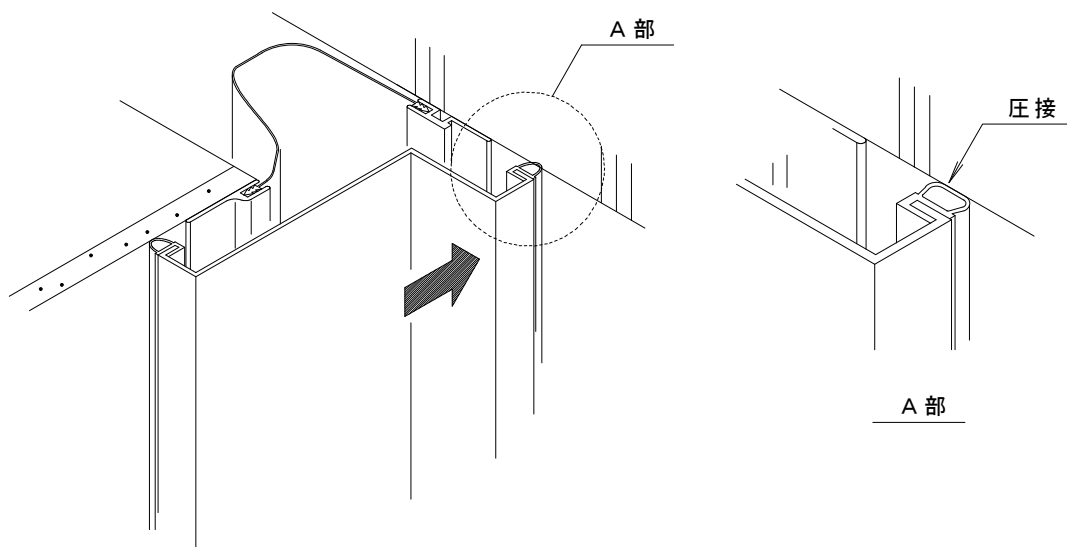


図11

※ねじ止めについて

23AE-50G, 100G

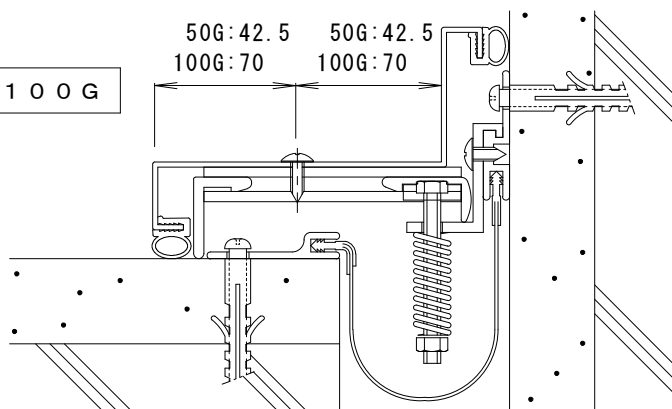


図12

23AE-150G, 200G

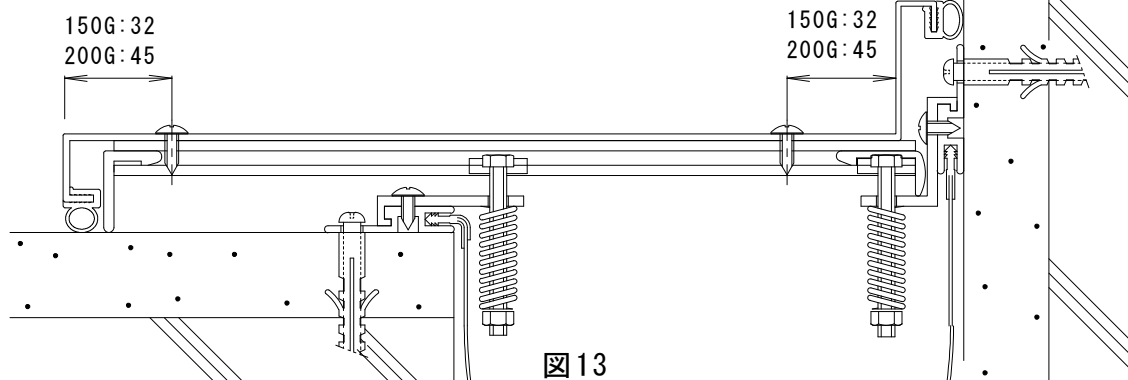


図13

6. カバー接続部の納まり

カバーの接続部には、ジョイントプレートが付いています。（図14）カバーの接続は、ジョイントプレートにカバーをスライドさせ差し込んで取付けていくことにより、通りがでる構造となっています。

注）外壁用のカバーの接続部は図15に示すように、6mmの目地を必要とします。この目地幅は外壁における温度変化によって、カバーが熱膨張した場合の影響を避けるために必ず設定してください。

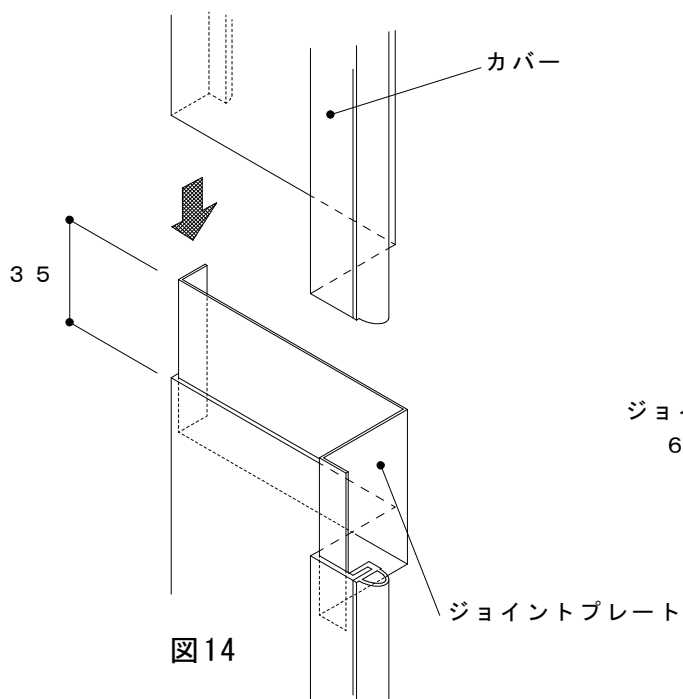


図14

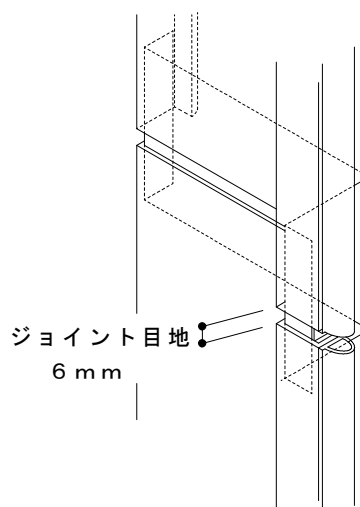
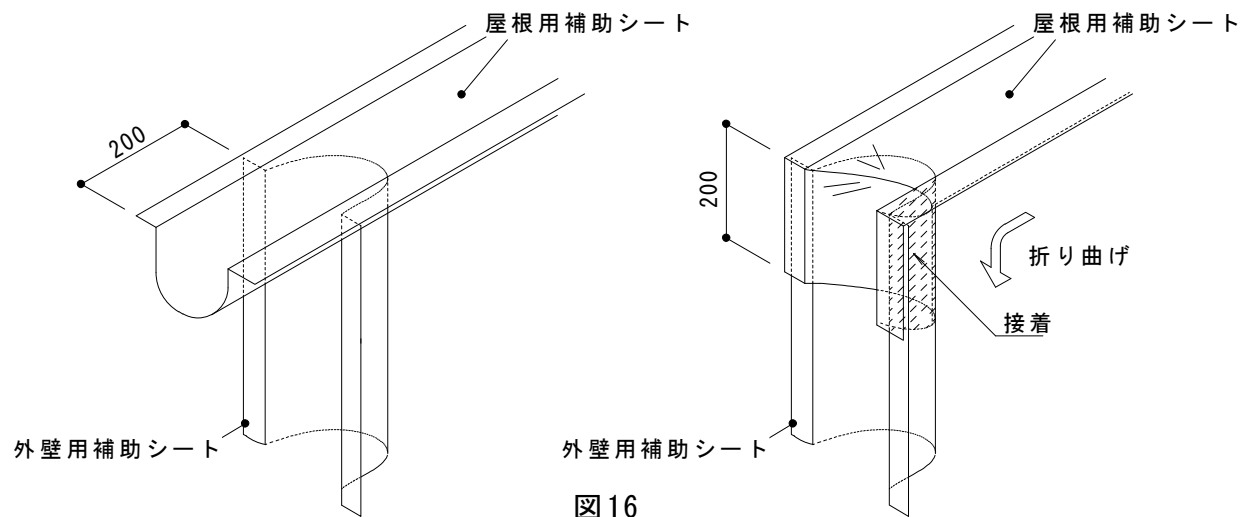


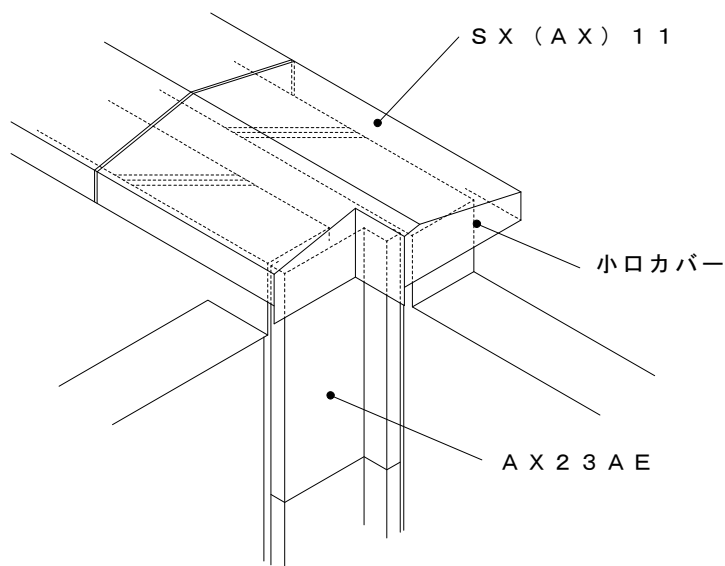
図15

7. カバー端部の納まり及び補助シートの処理

カバー上端を取付ける前に補助シートの処理をします。この部分は11, 12タイプの補助シートと接続させる必要があります。既に11, 12タイプを取付の際に補助シートを200mm程垂れ下がるように延長しました。この延長部分を図16のように折り曲げて23タイプの補助シートと接着します。
(接着剤は、別途です。)



※補助シートの処理が終わったらカバーを取付ます。最終納まりは図17のように11, 12タイプの小口カバーに挿入された形になります。



天井－天井用 S X (A X) 4 4

下地仕上げ

1. 内壁のクリアランスと天井のクリアランスおよび床のクリアランスの中心線は、必ず合わせて下さい。
2. 天井材のクリアランスは、変位量にあわせて仕上げて下さい。それぞれの規定値よりも狭い場合には変形性能が確保できなくなる場合があります。（表 1，図 1，図 2）
3. 野縁は必ず天井材開口部の両端に設けて下さい。

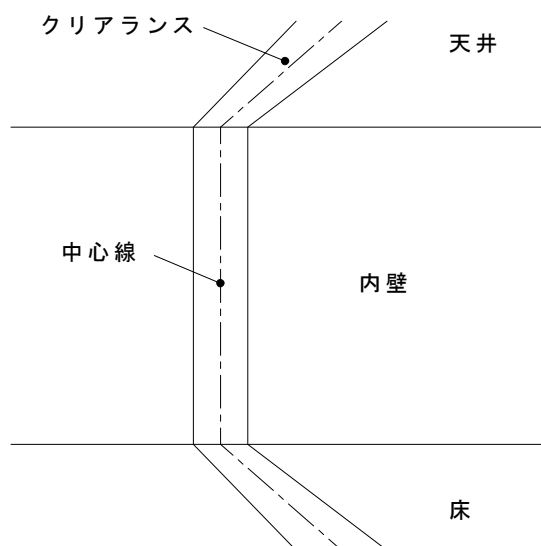


図 1

表 1. W 寸法表

呼 称	W 寸法
SX44 — 50F	65
SX44 — 100F	115
SX (AX) 44 — 50G	65
— 100G	100
— 150G	150
— 200G	200
— 300G	300

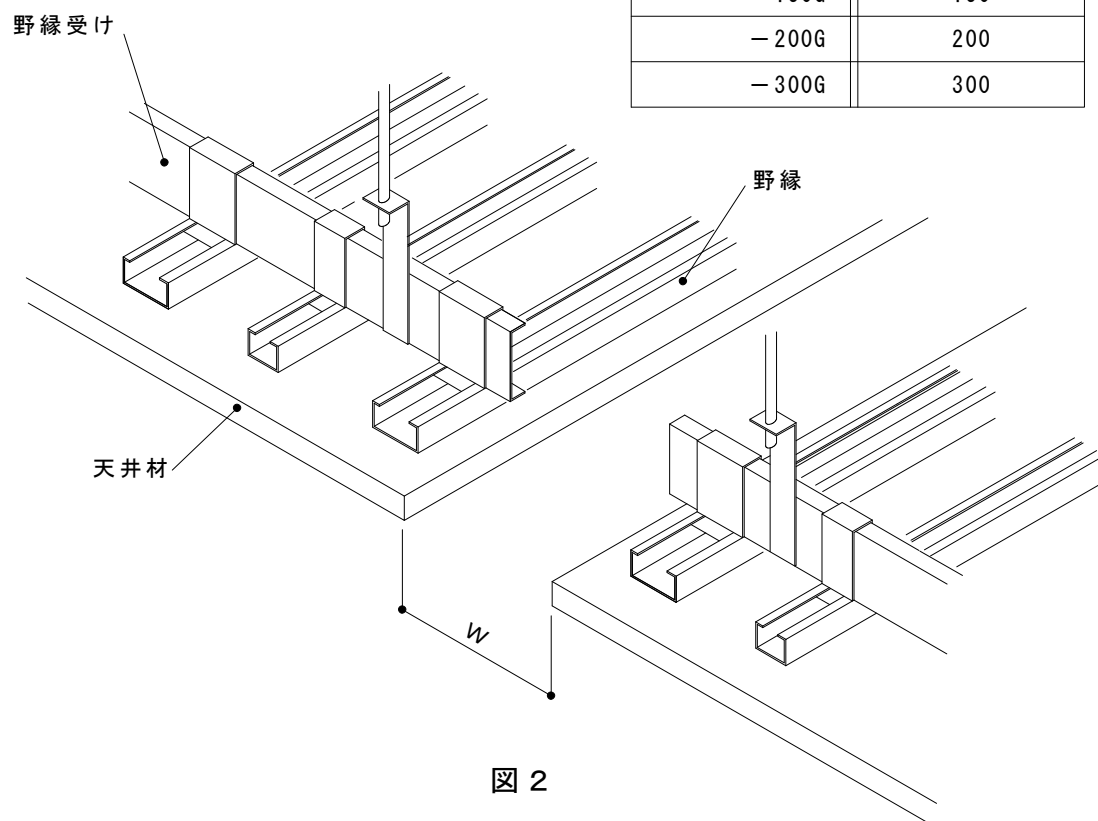


図 2

取付準備

製品は使用場所別に手配書の部番に合わせて梱包出荷されます。取付前に部品ユニットがすべて揃っていることを確認してください。

取付は次の順序で行ってください。

1. レベル墨打ち

床、内壁、天井のクリアランスをチェックして中心位置を求め、ホルダーユニットの位置にレベル墨を打ちます。レベル墨の位置（C寸法）は、図3及び表2を参照して下さい。

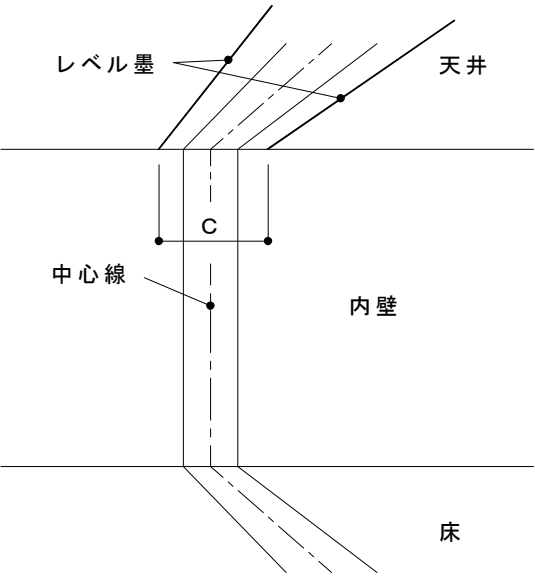
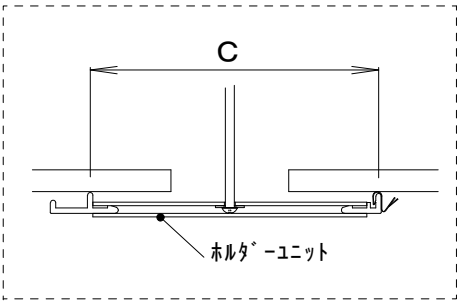


図 3

表 2. C 寸法表

呼 称	W 寸 法
SX44 - 50F	159
SX44 - 100F	310
SX (AX) 44 - 50G	110
- 100G	210
- 150G	310
- 200G	413
- 300G	513



2. ホルダー取付位置のマーキング

ホルダー取付位置をマーキングしてください。（図4）取付ピッチは500mmです。

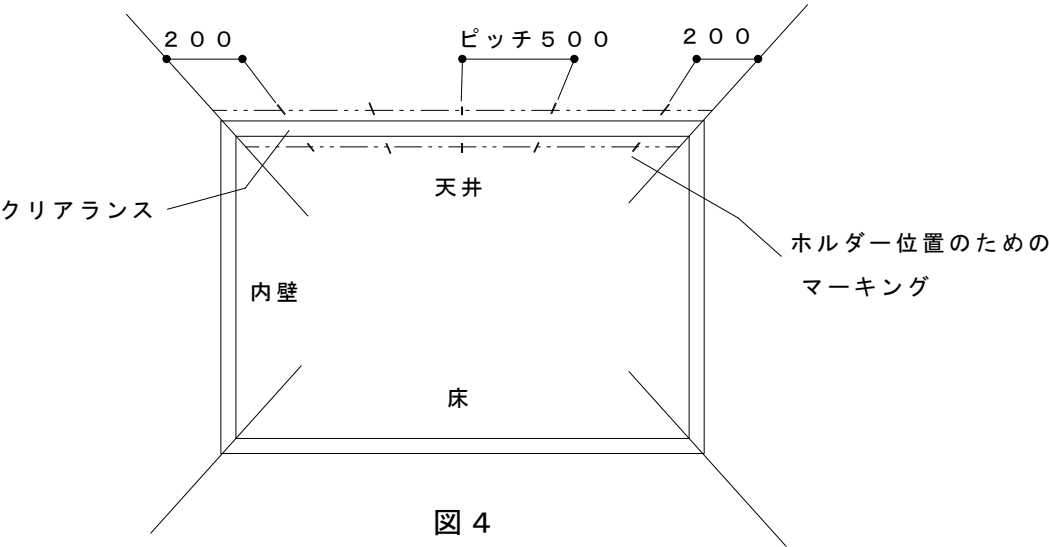


図 4

3. ホルダーユニットの天井面への取付

天井面のホルダー位置のマーキングにしたがって図5, 6のように補助バーを野縁に載せ500ピッチでホルダーユニットを固定します。このとき六角ナットでスプリングの強さを調節して下さい。

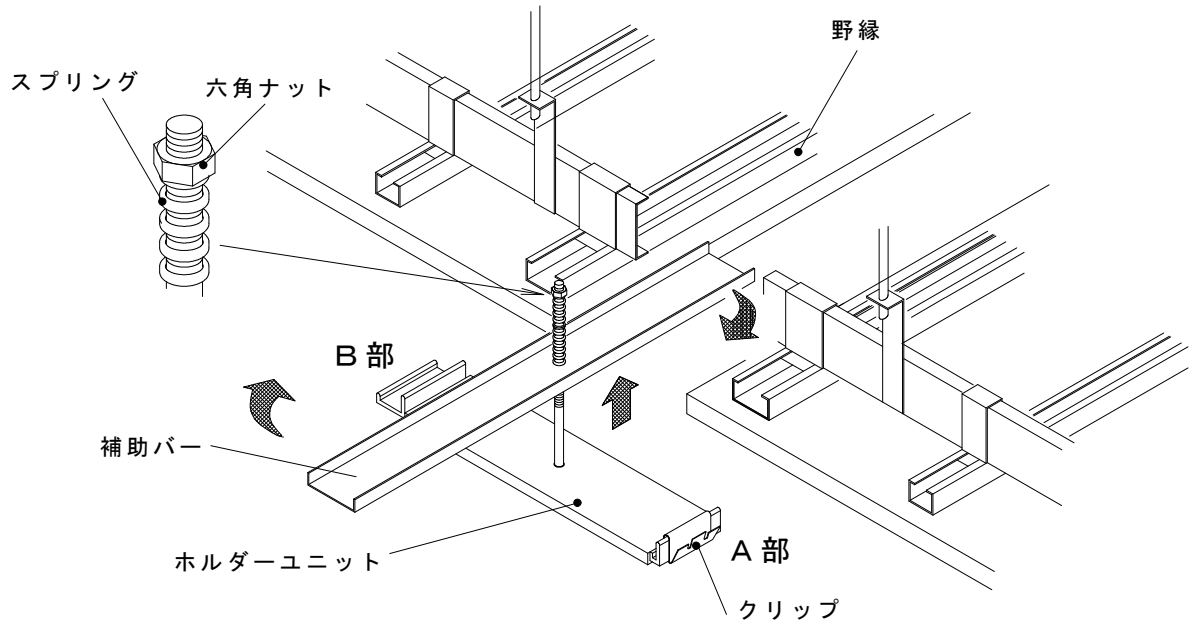


図5

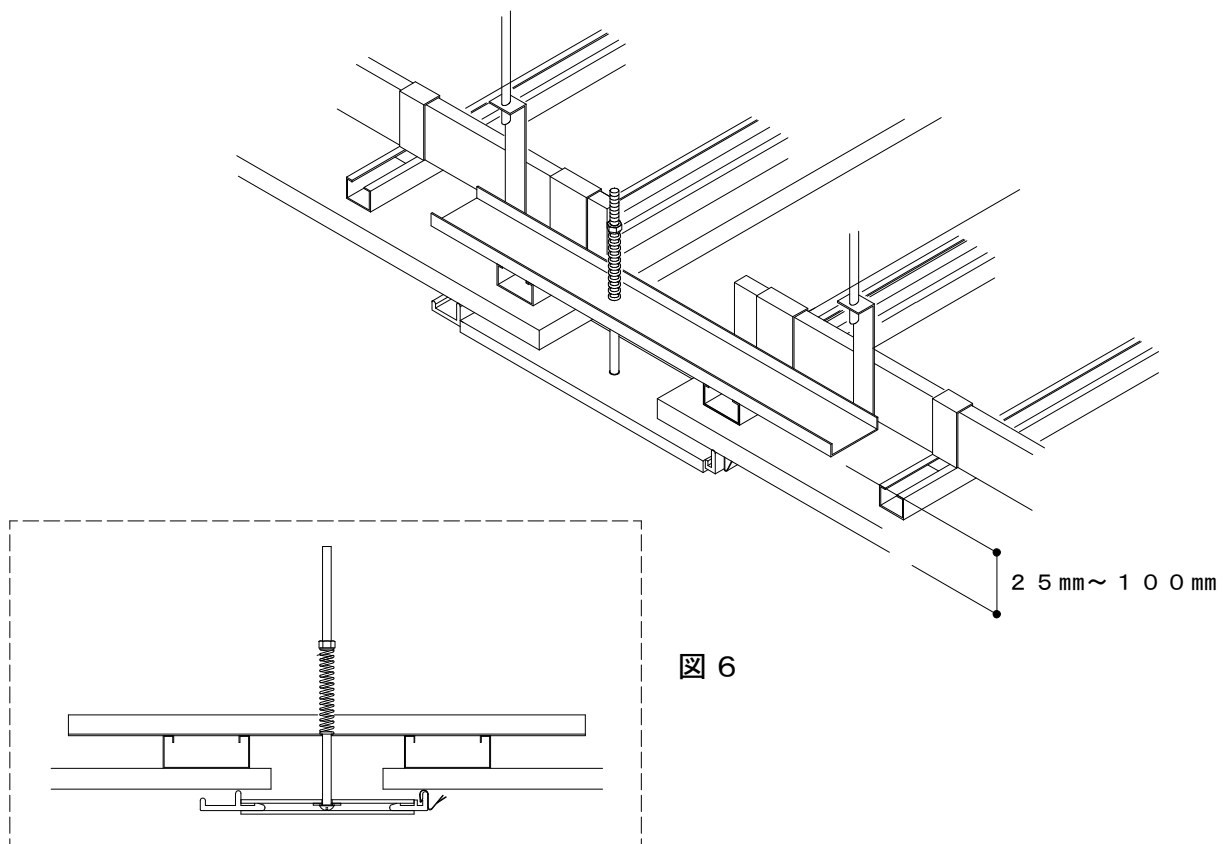


図6

注1) ホルダーユニットのA部（クリップ側）がすべて同じ方向に向くように取付して下さい。

注2) ホルダーの取付可能寸法は25mm～100mmに設計されていますので寸法に応じて必ず六角ナットでスプリングの強さを調節して下さい。

4. カバーの取付

ホルダーユニットにカバーをかぶせ、図5のB部にカバーの片側を掛けます。次にホルダーユニットのA部(図5)のクリップに押え付けるようにしてカバーをはめ合います。(図7)

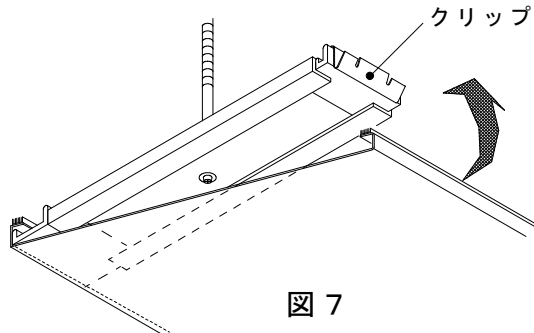


図 7

※カバーとホルダーユニットのクリップがかみあいにくい場合は、ホルダーと一緒に梱包されたカバー取付工具を使用します。

まず、図8、9のように取付工具をクリップの部分にかけカバーを矢印の方向に押え付けます。カバーとクリップがかみあうときにカチッという音がしますので確認してください。

次に取付工具を横にずらし、回転させるようにして外します。

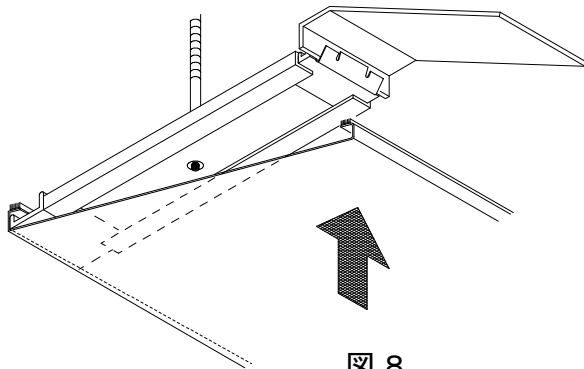


図 8

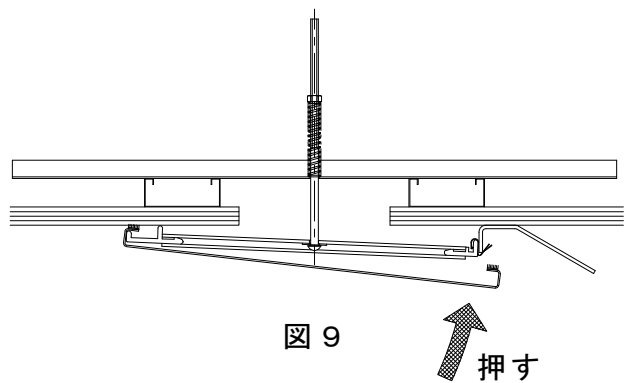


図 9

注) カバーのジョイント部は、図10ようにホルダーに半分づつカバーが掛かるようにして下さい。

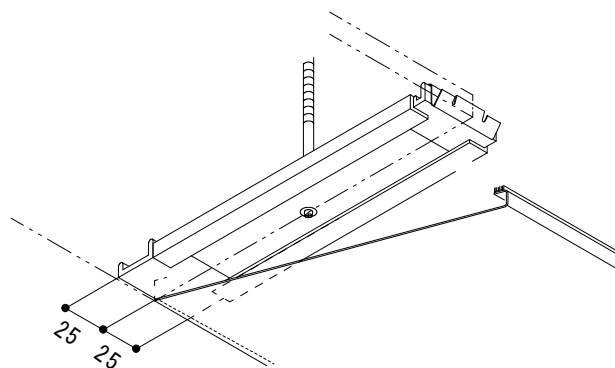


図10

5. カバーのねじ止め

※S X 4 4 - 2 0 0 G、及びS X (A X) 4 4 - 3 0 0 G (クリアランス2 0 0, 3 0 0) の場合
図12のようにカバーの取付穴位置に合わせてホルダーユニットにφ3. 6の下穴をあけ、カバーに
各々ねじで固定します。

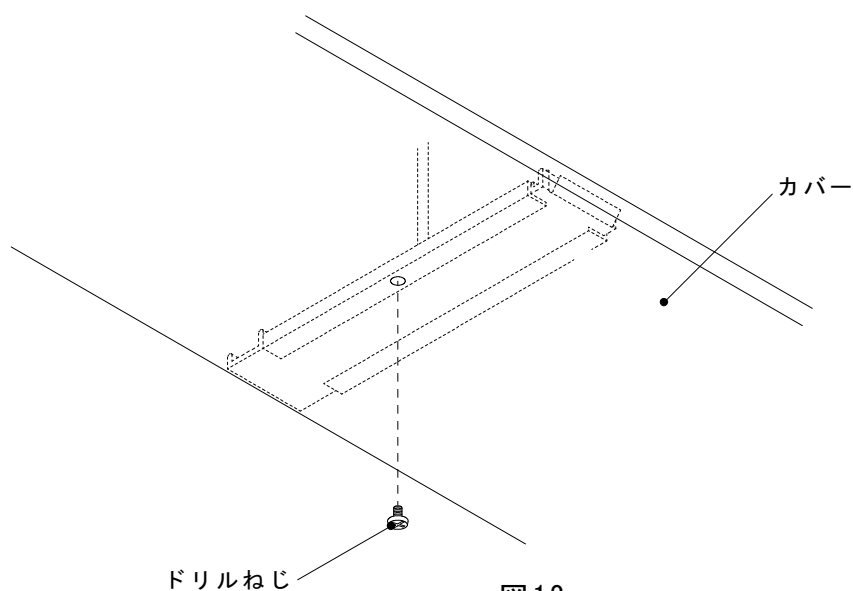


図12

6. エンドカバーの取り付け

天井用E X P. Jの端部（内壁用との取り合い）にはエンドカバーを取付ます。まずエンドカバーの
取付るために、カバーの全長（L）を天井取付箇所（W）から両端3 5（4 0；2 0 0 G, 3
0 0 G）mmづつ短くした寸法に切断します。（図13）

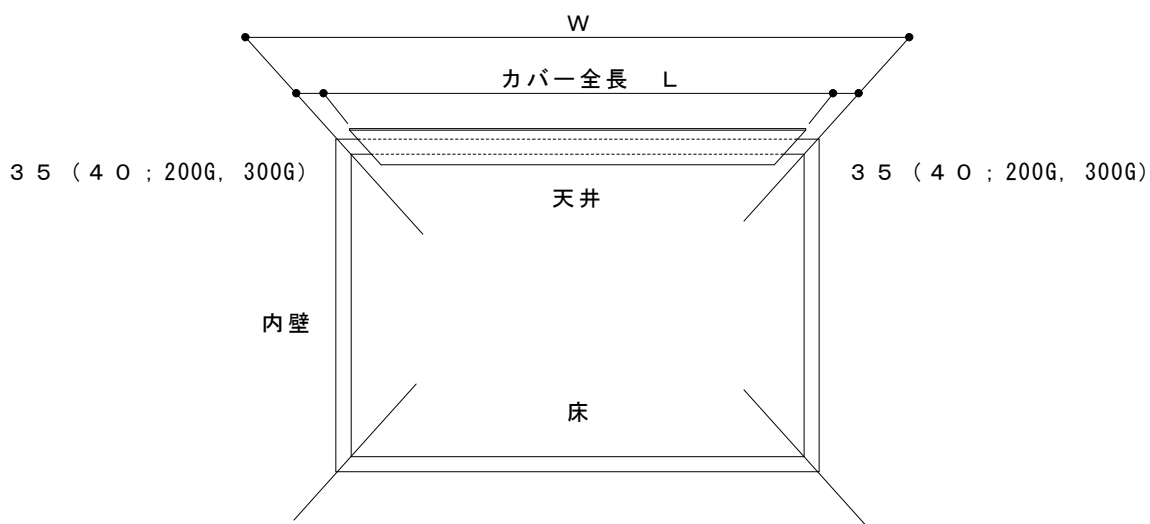


図13

次に、天井用カバーの端部にエンドカバーを差し込みます。このときエンドカバーには天井側、内壁
側の違いがありますので注意して下さい。（次頁：図14）

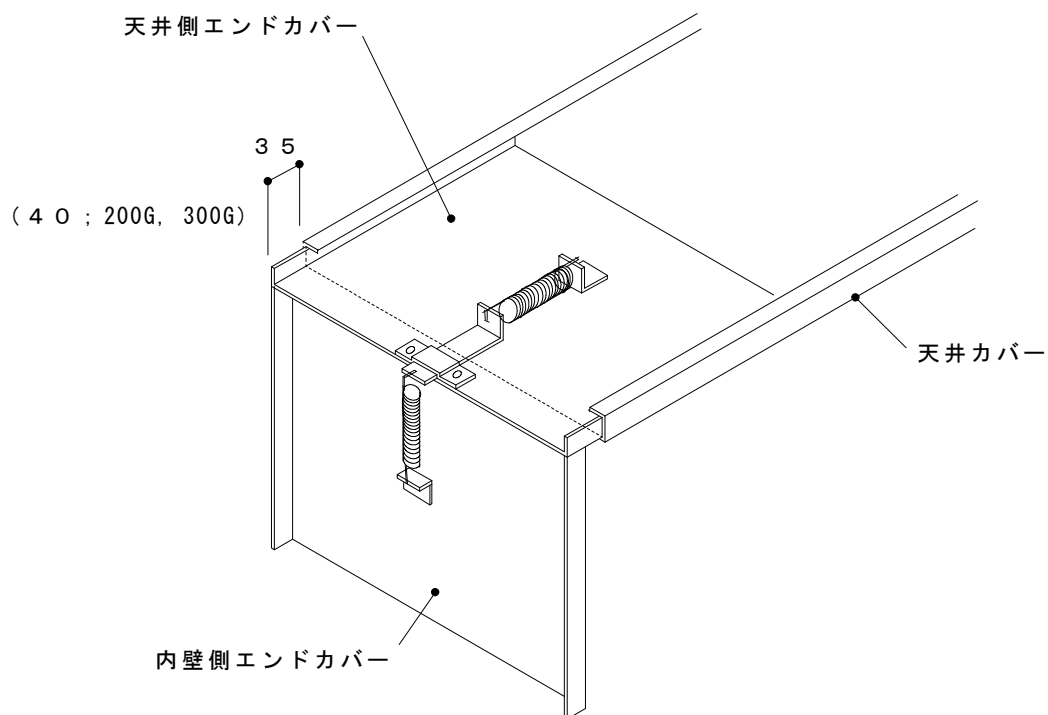


図14

エンドカバーを差し込んだままの状態、天井用カバーをホルダーにかみあわせます。
 内壁用エンドカバーは垂らしたままにしてください。内壁用カバーを矢印のように差し込み、天井同
 様ホルダーにかみあわせます。(図15)

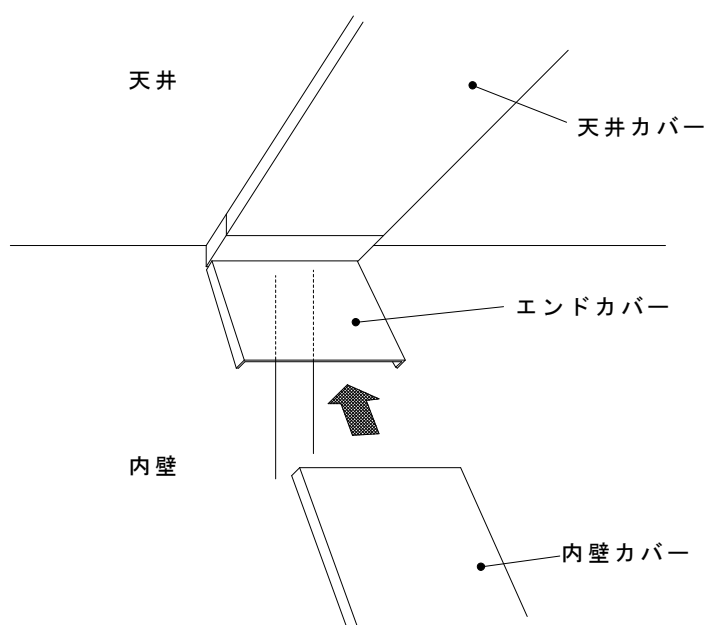


図15

天井－内壁用 S X (A X) 4 5

下地仕上げ

1. 壁面と天井面のクリアランスは、図 1、表 1 のように仕上げてください。それぞれの規定値よりも狭い場合には変形性能が確保できなくなる場合があります。
2. 壁面の凹凸は極力避けて下さい。

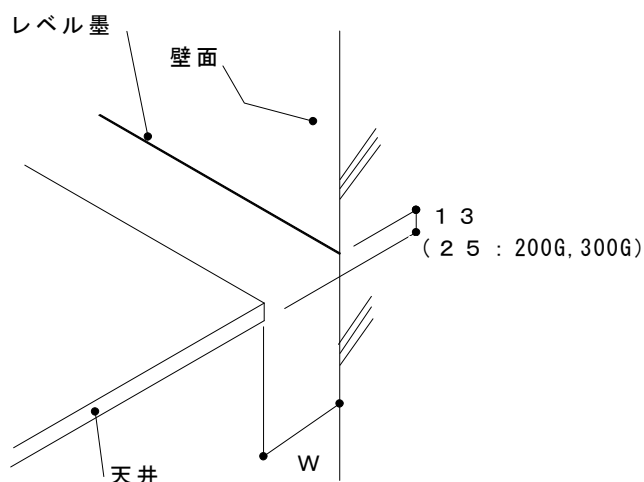


表 1 . W 寸法表

呼 称	W 寸法
SX45 - 50F	65
SX45 - 100F	115
SX (AX) 45 - 50G	50
- 100G	100
- 150G	150
- 200G	200
- 300G	300

図 1

取付準備

製品は使用場所別に手配書の部番に合わせて梱包出荷されます。取付前に部品ユニットがすべて揃っていることを確認してください。

取付は次の順序で行ってください。

1. レベル墨打ち
天井面を基準に 13 mm (25 mm : 200G, 300G) の位置にレベル墨を打ちます。(図 1)
2. ホルダー取付位置のマーキング
ホルダー取付位置をマーキングしてください。(図 2) 取付ピッチは 500 mm です。

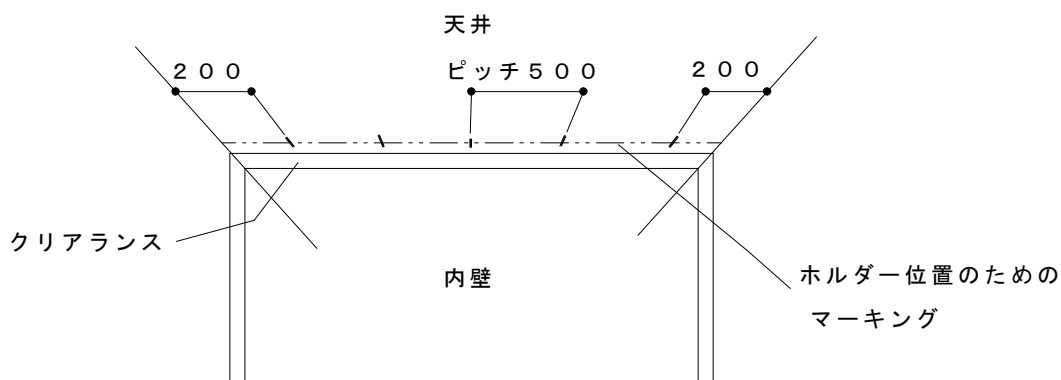


図 2

3-1. ホルダーユニットの取付

ホルダーユニットにあげられた穴をレベル墨に合わせφ6、深さ40mmの下穴をあけます。付属のナイロンプラグを下穴に挿入し、固定ネジでホルダーユニットを固定します。（図3）

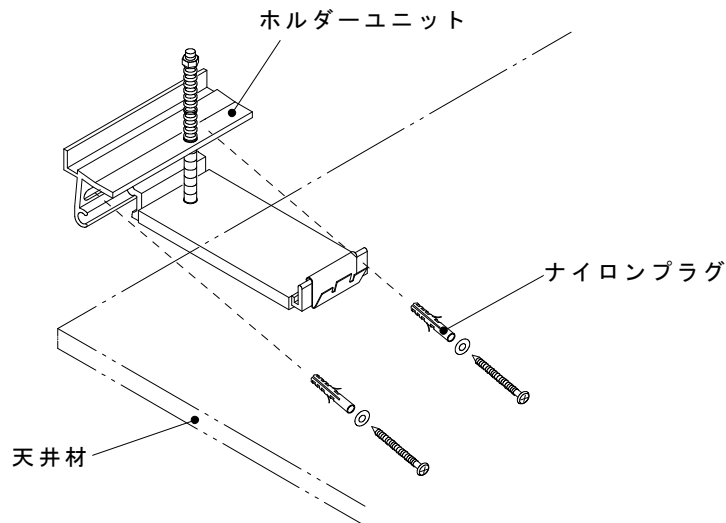


図 3

※SX（AX）45-150Gホルダー取付について

ホルダーには、躯体への取付を容易に出来るようにレベル出しピース（L形ピース）が装着されていますがホルダー取付後、必ずレベル出しピースを取り外して下さい。（図4）

レベル出しピースは、ホルダーを下側に引っ張ると簡単に外れます。

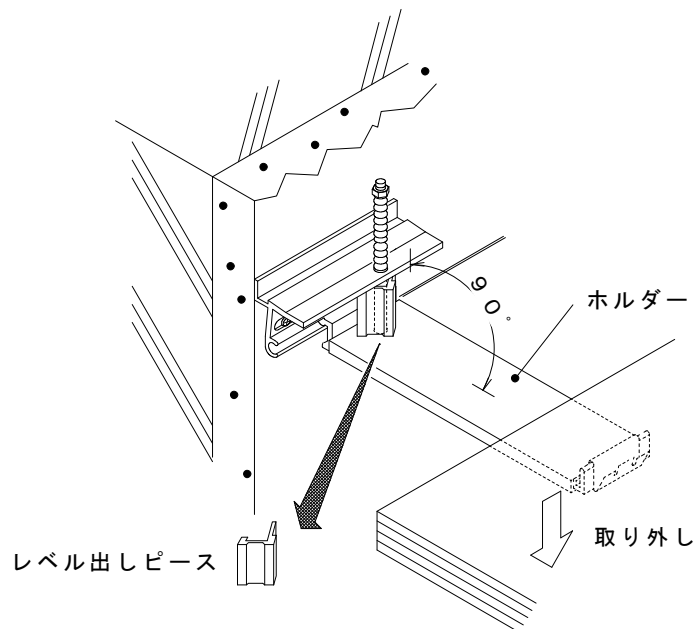
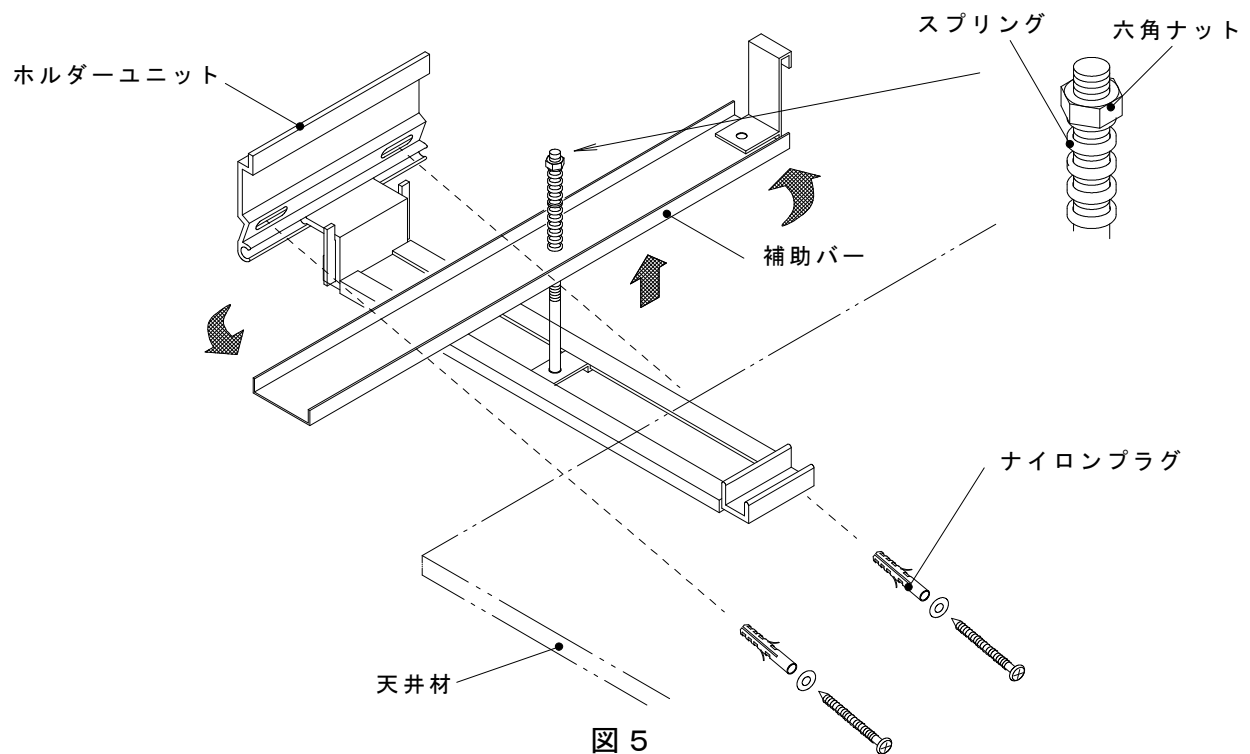


図 4

3-2. ホルダーユニットの取付

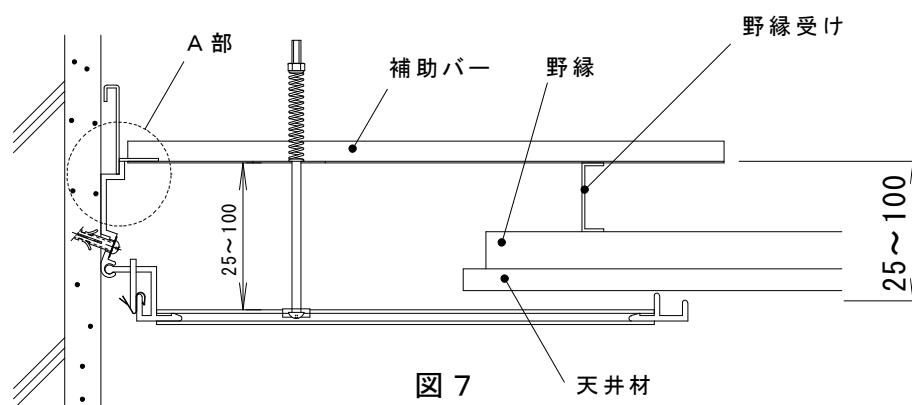
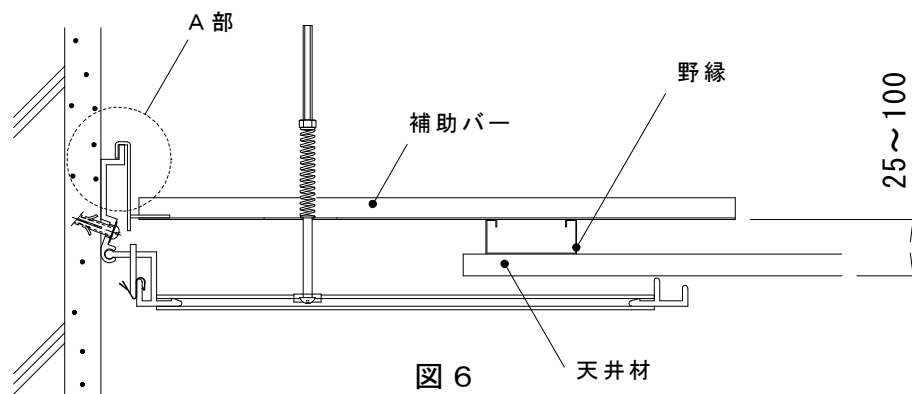
※SX（AX）-200G、300G（クリアランス200、300）

1. ホルダーユニットにあげられた穴をレベル墨に合わせφ6、深さ40mmの下穴をあけます。付属のナイロンプラグを下穴に挿入し、固定ねじでホルダーユニットを固定します。（図5）
2. 補助バーを野縁に載せホルダーユニットを固定します。このとき六角ナットでスプリングの強さを調節して下さい。（図5）



注 1) ホルダーの取付可能寸法は 25mm～100mm に設計されていますので寸法に応じて必ず六角ナットでスプリングの強さを調節して下さい。

注 2) 補助バーを天井側の野縁に載せ内壁側のホルダー（A 部）に載せるとき天井側の高さに応じて補助バーの掛ける位置を選んで下さい。（図 6， 7）



4-1. カバーの取付

ホルダーユニットにカバーをかぶせ、図8のA部にカバーの片側を掛けます。次にホルダーユニットのクリップに押え付けるようにしてカバーをはめ合います。

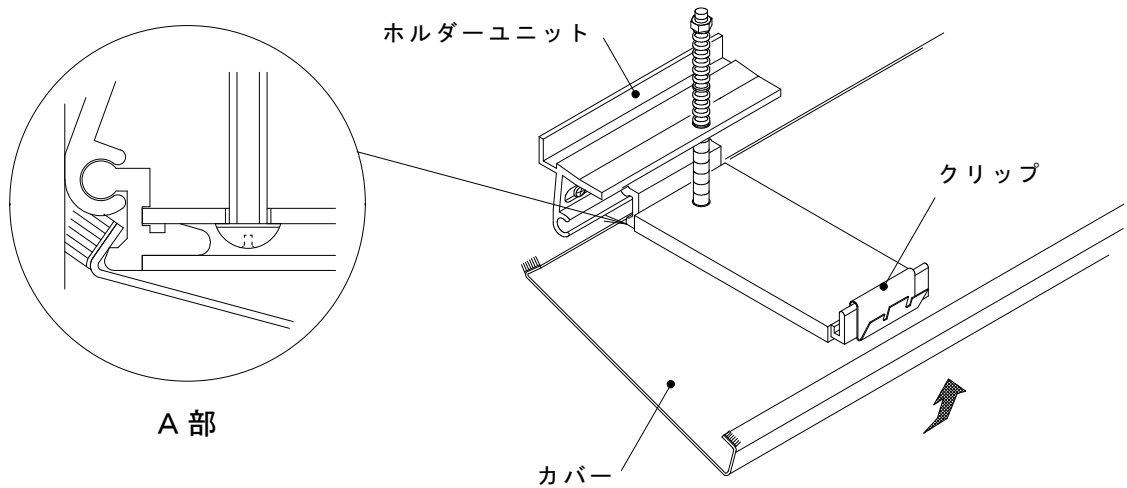


図 8

4-2. カバーの取付

※S X (A X) - 200 G、300 G (クリアランス200、300)

ホルダーユニットにカバーをかぶせ、図9のA部にカバーの片側を掛けます。次にホルダーユニットのクリップに押え付けるようにしてカバーをはめ合います。

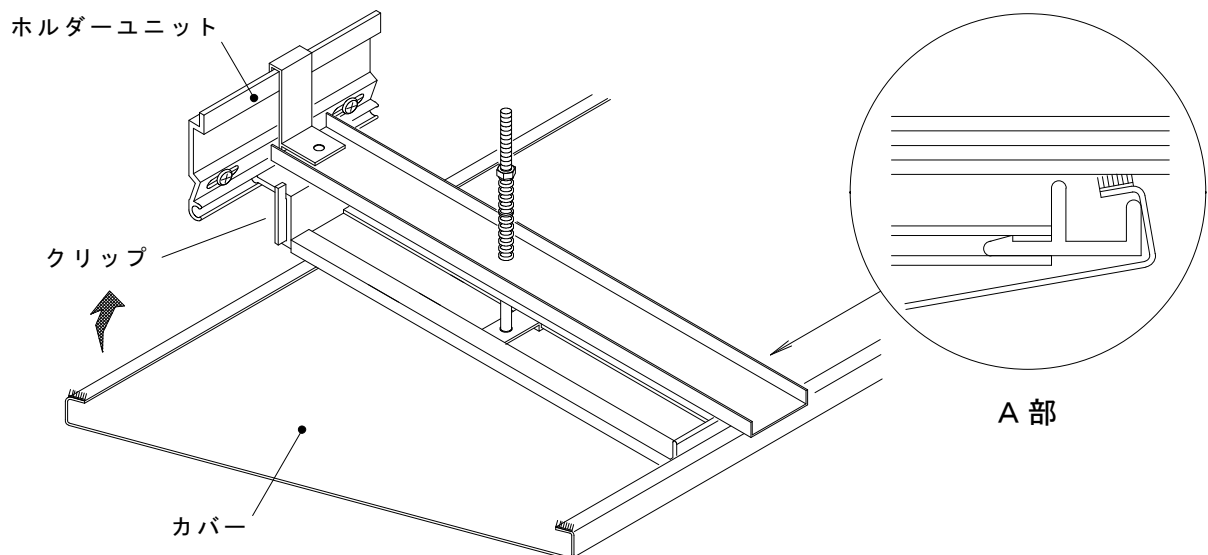


図 9

注) カバーのジョイント部は、図10のようにホルダーに半分づつカバーが掛かるようにして下さい。

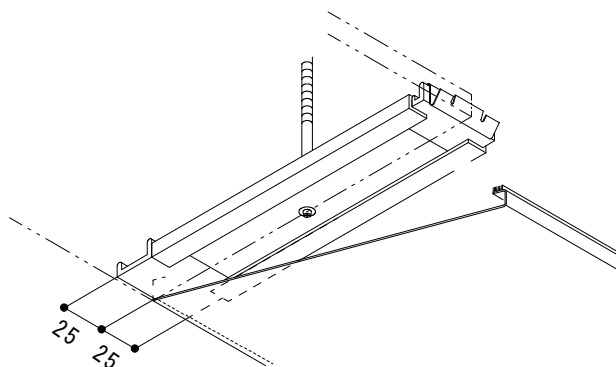


図10

5. カバーのねじ止め

※S X 4 5 - 2 0 0 G、及びS X (A X) 4 5 - 3 0 0 G (クリアランス200, 300) の場合
図11のようにカバーの取付穴位置に合わせてホルダーユニットにφ3.6の下穴をあけ、カバーにドリルねじで固定します。

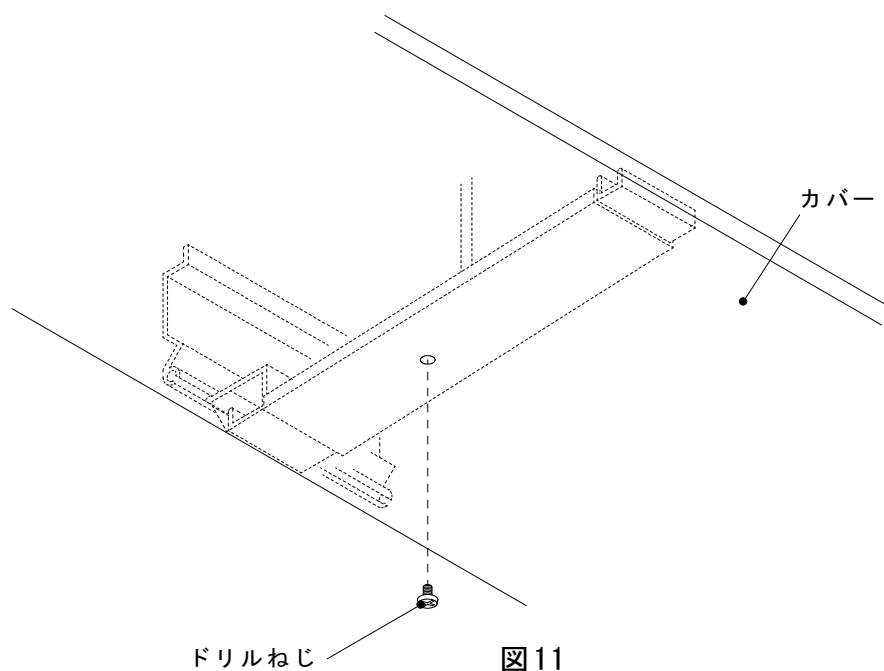


図11

取付工具の仕様方法、エンドカバー取付については、44タイプ参照。

内壁－内壁用 S X (A X) 5 5

下地仕上げ

- 壁面と壁面のクリアランスは、図 1、表 1 のように仕上げてください。それぞれの規定値よりも狭い場合には変形性能が確保できなくなる場合があります。
 - 壁面の凹凸は極力避けて下さい。
- ※ 5 0 F, 1 0 0 F については、図のように壁面に欠き込みを設けて下さい。

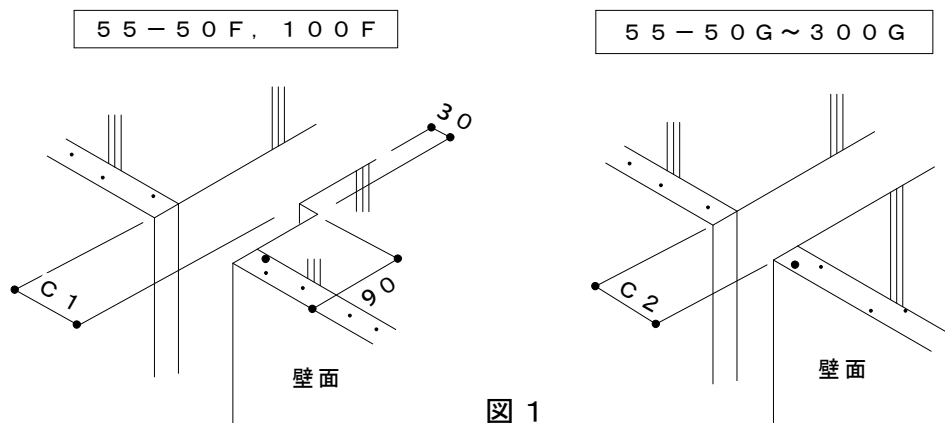


図 1

表 1. C 1, C 2 寸法表

呼 称	C 1, C 2 寸法
SX55 — 50F	50
SX55 — 100F	100
SX(AX)55 — 50G	50
— 100G	100
— 150G	150
— 200G	200
— 300G	300

取付準備

製品は使用場所別に手配書の部番に合わせて梱包出荷されます。取付前に部品ユニットがすべて揃っていることを確認してください。

取付は次の順序で行ってください。

1. レベル墨打ち

壁面を基準に 3 0 mm (4 0 mm, 2 5 mm : 150G, 200G, 300G) の位置にレベル墨を打ちます。(図 2)

※図のように 1 5 0 G, 2 0 0 G, 3 0 0 G については、レベル墨を 2 ケ所打ちます。

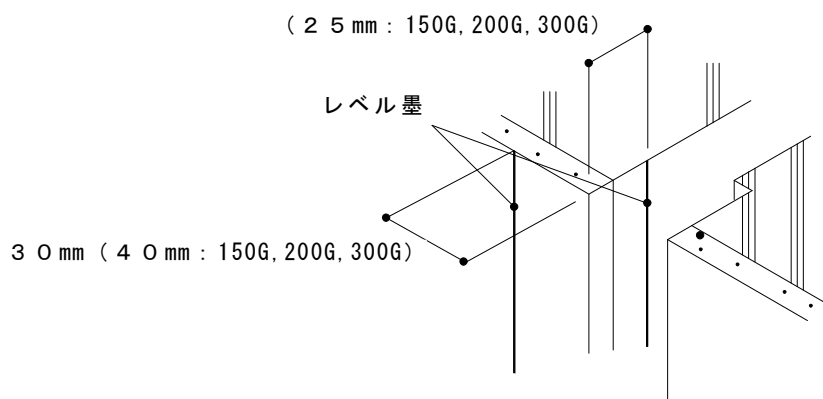
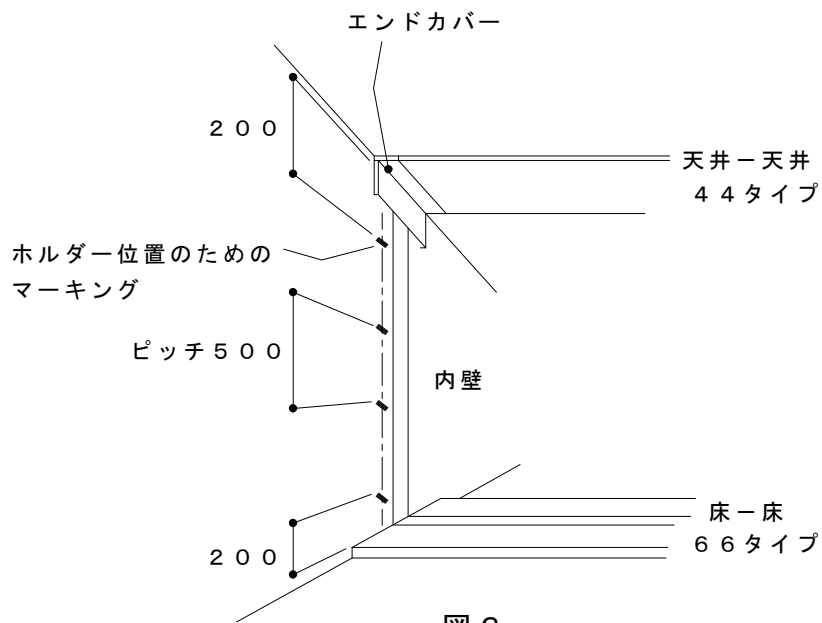


図 2

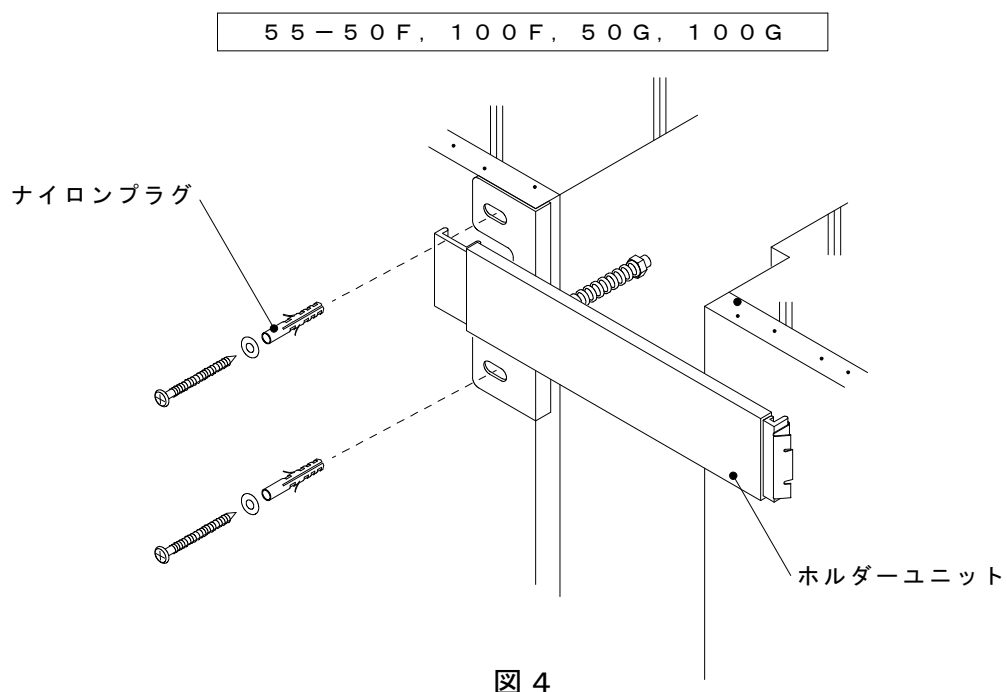
2. ホルダー取付位置のマーキング

ホルダー取付位置をマーキングしてください。（図3）取付ピッチは500mmです。



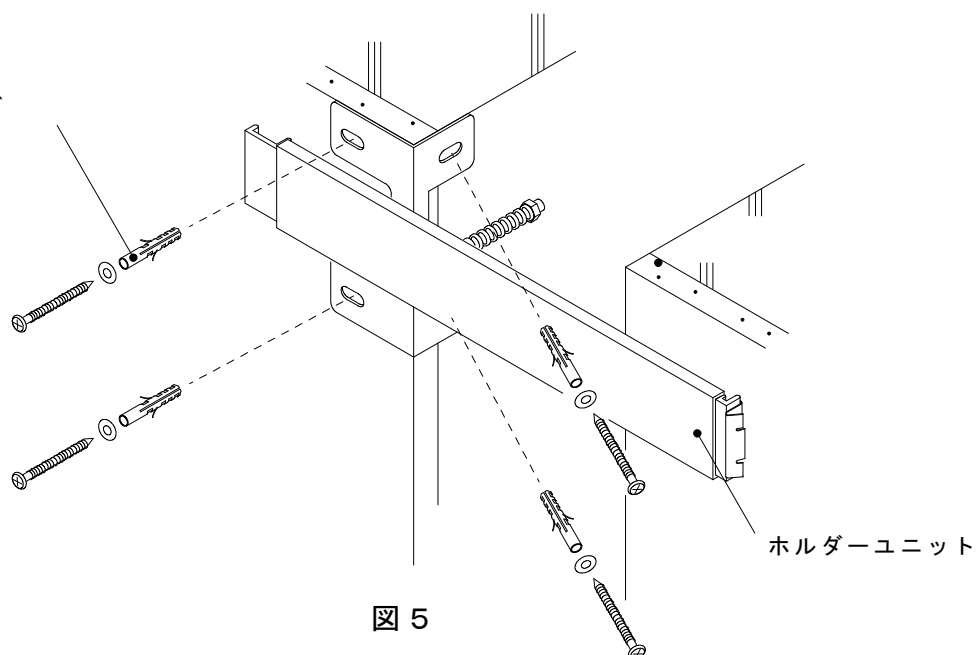
3. ホルダーユニットの取付

ホルダーユニットにあげられた穴をレベル墨に合わせφ6、深さ40mmの下穴をあけます。付属のナイロンプラグを下穴に挿入し、固定ネジでホルダーユニットを固定します。（図4，5，6）

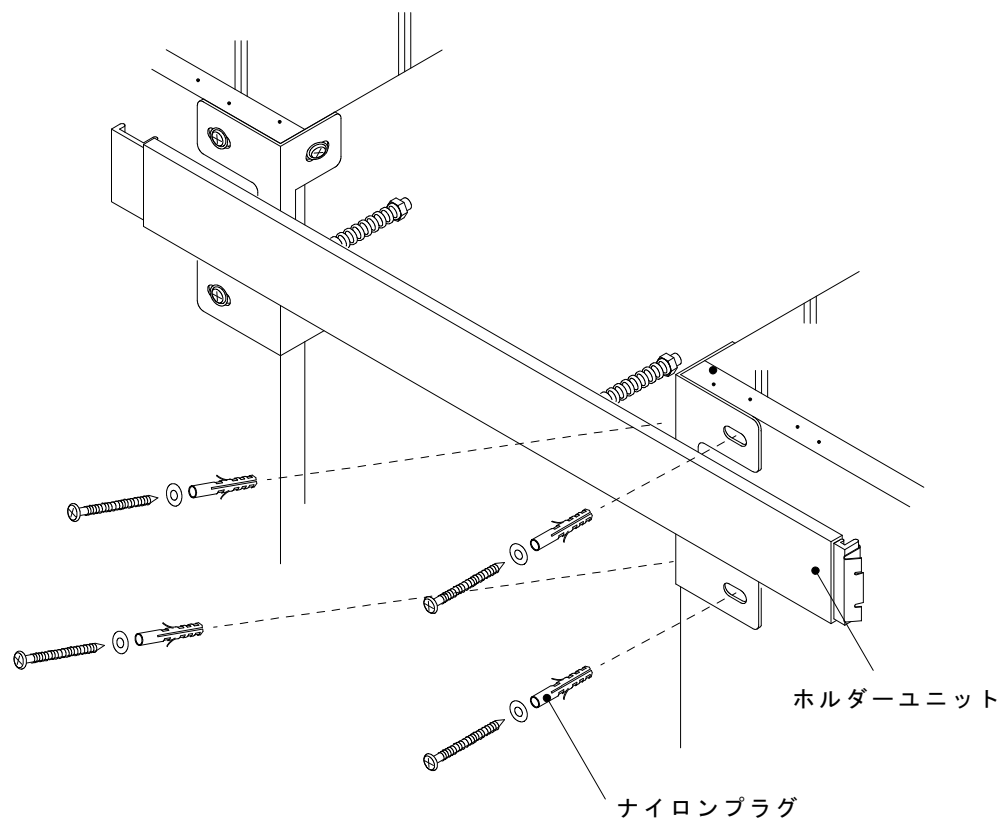


55-150G

ナイロンプラグ



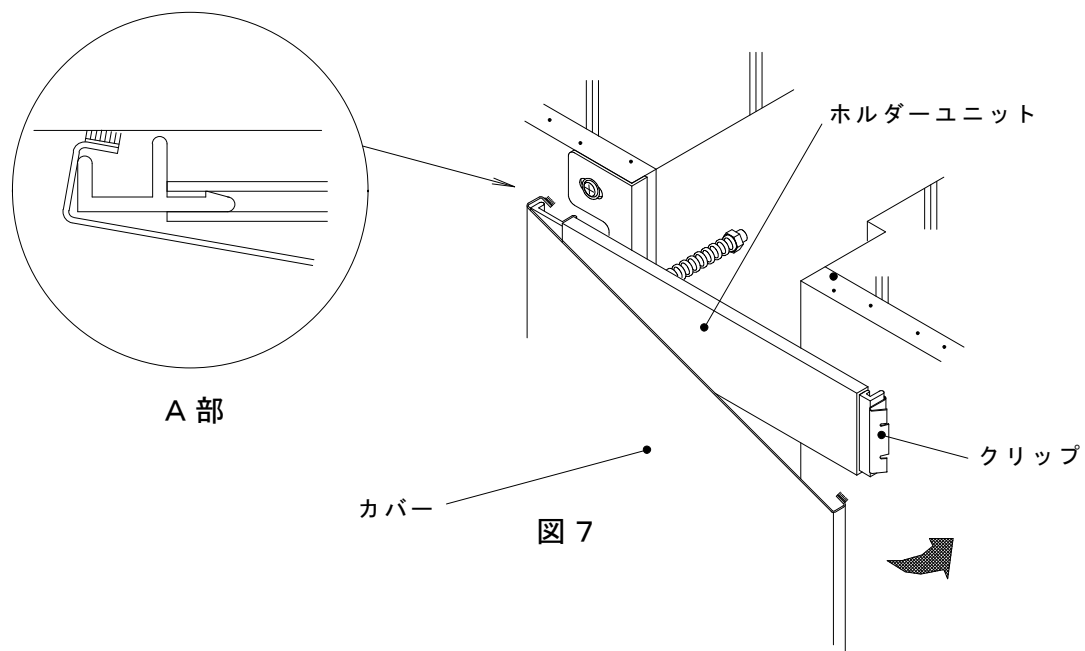
55-200G, 300G



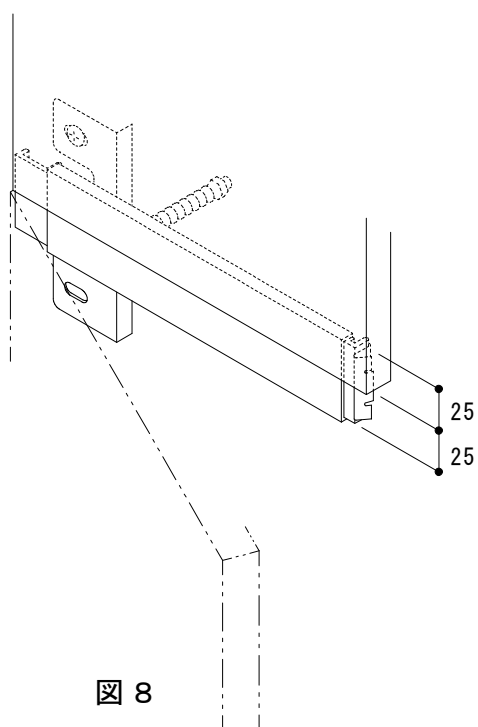
55-3

4. カバーの取付

ホルダーユニットにカバーをかぶせ、図7のA部にカバーの片側を掛けます。次にホルダーユニットのクリップに押え付けるようにしてカバーをはめ合います。



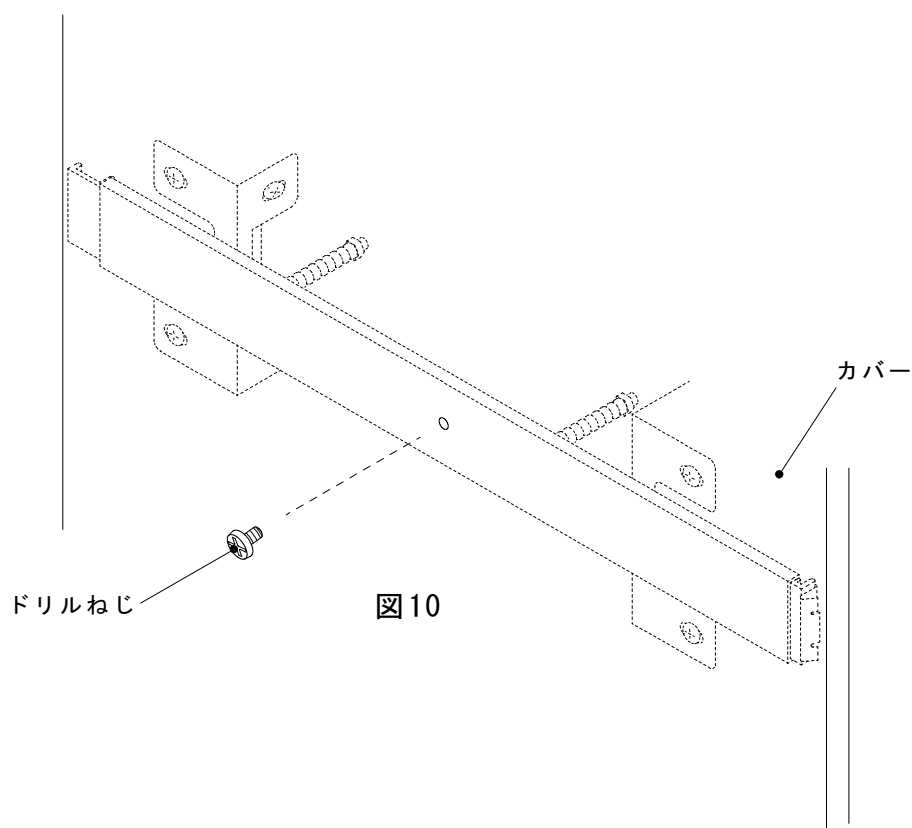
注) カバーのジョイント部は、図8ようにホルダーに半分づつカバーが掛かるようにして下さい。



5. カバーのネジ止め

※ S X 5 5 - 2 0 0 G、及び S X (A X) 5 5 - 3 0 0 G (クリアランス 2 0 0 , 3 0 0) の場合

図10のようにカバーの取付穴位置に合わせてホルダーユニットにφ3.6の下穴をあけ、カバーにドリルねじで固定します。



取付工具の仕様方法、エンドカバー取付については、44タイプ参照。

内壁－内壁ｺｰﾅｰ用S X（A X）45（B）

下地仕上げ

- 壁面と壁面のクリアランスは、図1、表1のように仕上げてください。それぞれの規定値よりも狭い場合には変形性能が確保できなくなる場合があります。
 - 壁面の凹凸は極力避けて下さい。
- ※50F、100Fについては、図のように壁面に欠き込みを設けて下さい。

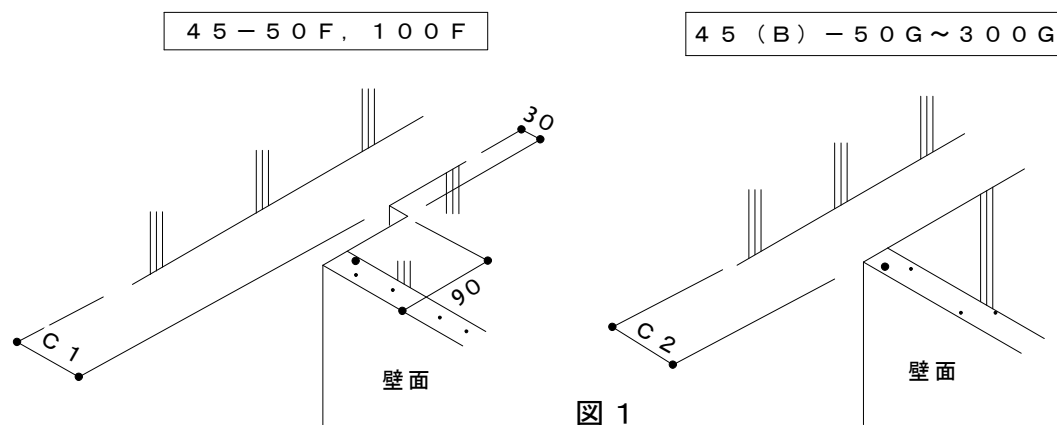


図1

表1. C1, C2寸法表

呼 称	C1, C2寸法
SX45 — 50F	50
SX45 — 100F	100
SX(A X)45 — 50G	50
— 100G	100
— 150G	150
SX(A X)45B — 200G	200
— 300G	300

取付準備

製品は使用場所別に手配書の部番に合わせて梱包出荷されます。取付前に部品ユニットがすべて揃っていることを確認してください。

取付は次の順序で行ってください。

1. レベル墨打ち

壁面を基準に13mm（25mm：45B-200G, 300G）の位置にレベル墨を打ちます。（図2）

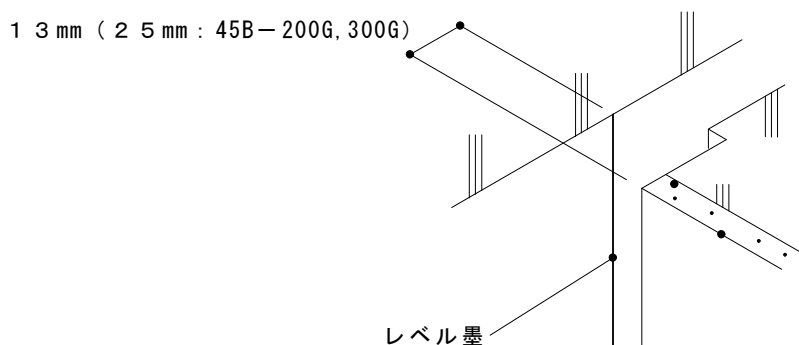


図2

2-1. ホルダーユニットの取付

ホルダーユニットにあげられた穴をレベル墨に合わせφ6、深さ40mmの下穴をあけます。付属のナイロンプラグを下穴に挿入し、固定ねじでホルダーユニットを固定します。(図3)

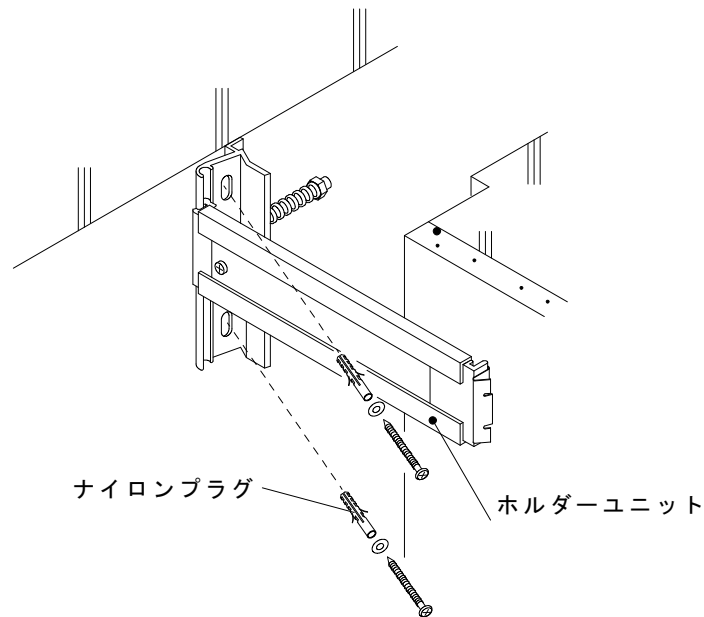


図 3

2-2. ホルダーユニットの取付

※SX (AX) - 200G、300G (クリアランス200、300)

ホルダーユニットにあげられた穴をレベル墨に合わせφ6、深さ40mmの下穴をあけます。付属のナイロンプラグを下穴に挿入し(4ヶ所)、固定ねじでホルダーユニットを固定します。(図4)

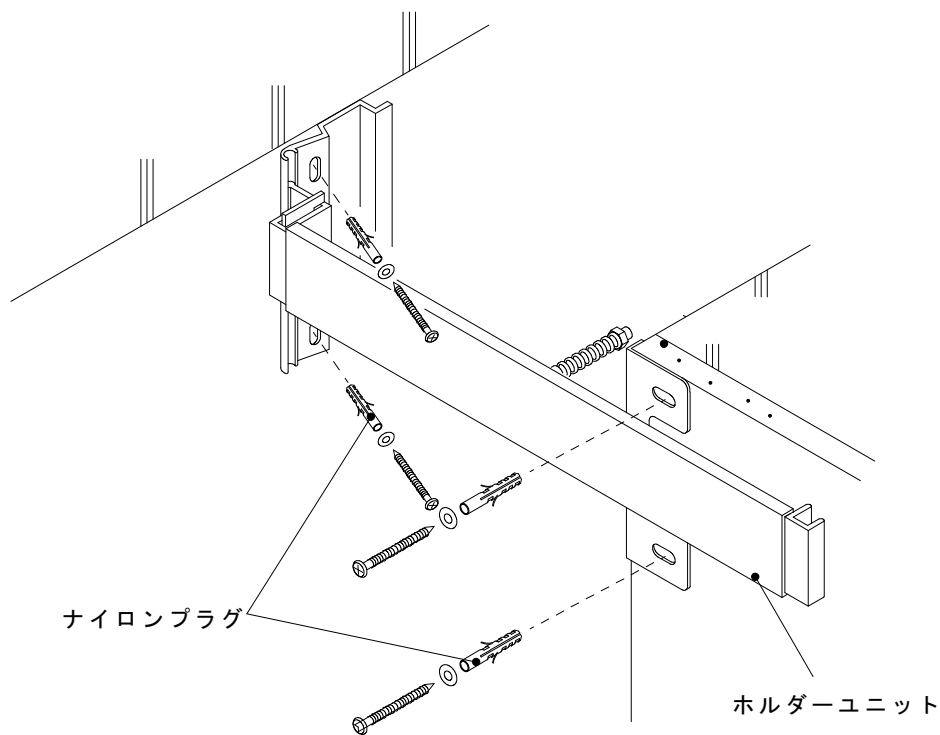


図 4

カバーの取付、取付工具の使用方法、カバーのねじ止めおよびエンドカバーの取付については、45タイプを参照。

床－床 S X (A X) 6 6

下地仕上げ

1. 建物のクリアランスは、図 1、表 1 のように仕上げてください。それぞれの規定値よりも狭い場合には変形性能が確保できなくなる場合があります。
2. フレーム取付面の凹凸は極力避けて下さい。

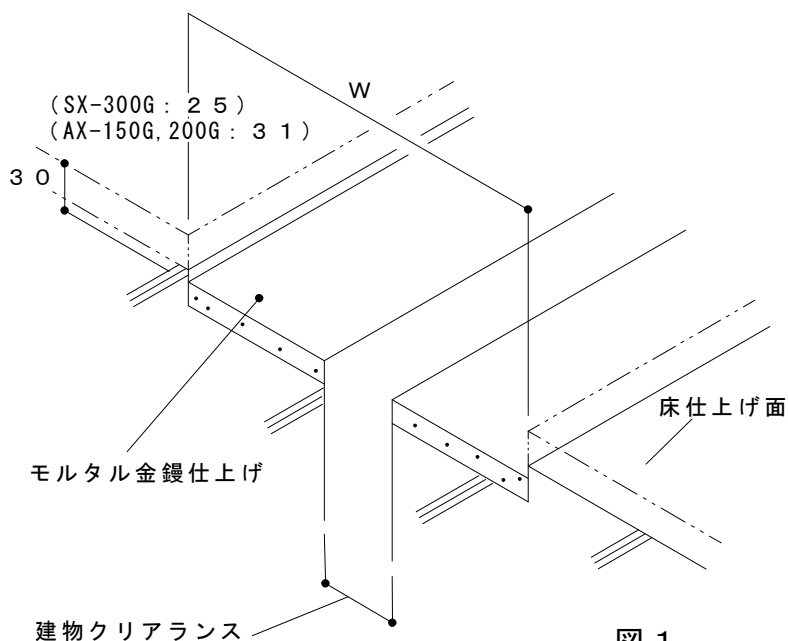


表 1 . W 寸法表

呼 称	W 寸法
SX66 — 50F	230
SX66 — 100F	380
SX (AX) 66 — 50G	170
— 100G	300
— 150G	390
— 200G	480
— 300G	600

図 1

取付準備

製品は使用場所別に手配書の部番に合わせて梱包出荷されます。取付前に部品ユニットがすべて揃っていることを確認してください。

取付は次の順序で行ってください。

1. 墨打ち

EXP. J の芯より 1000mm 逃げた位置に図 2 のように逃げ墨を打ちます。

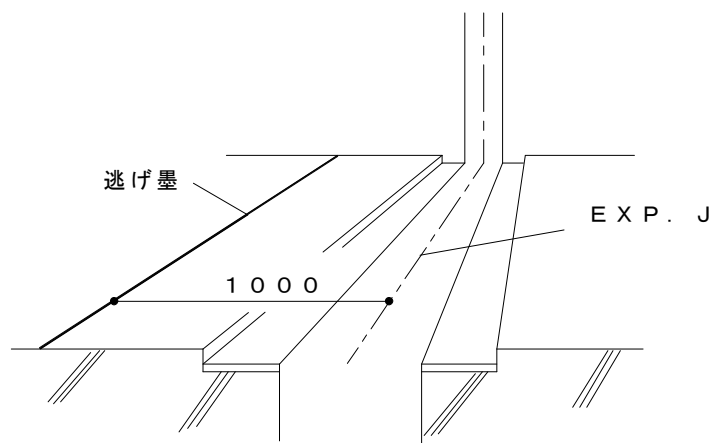


図 2

逃げ墨を基準にフレームを取付けるためのレベル墨を打ちます。レベル墨の位置（A 1， A 2 寸法）は図 3 及び表 2 を参照して下さい。

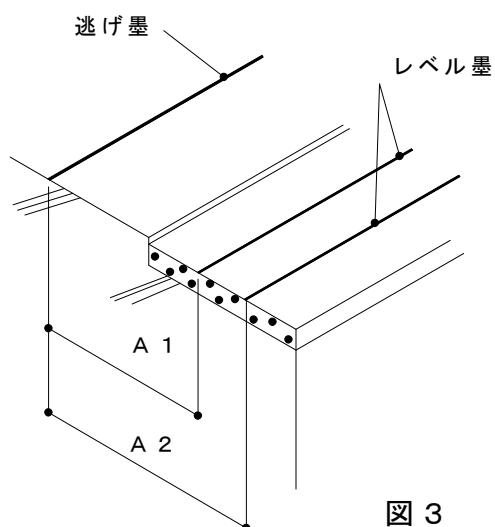


図 3

表 2． A 1， A 2 寸法表

呼 称	A 1 寸法	A 2 寸法
SX66 — 50F	935	
SX66 — 100F	865	915
SX (AX) 66 — 50G	950	
— 100G	910	
— 150G	855	895
— 200G	820	870
SX66 — 300G	770	820

2. フレームの取付

フレームに穴あけられた穴をレベル墨に合わせφ 8、深さ 6 0 mm の下穴をあけます。付属のナイロンプラグを下穴に挿入し、固定ネジでフレームを固定します。（図 4）

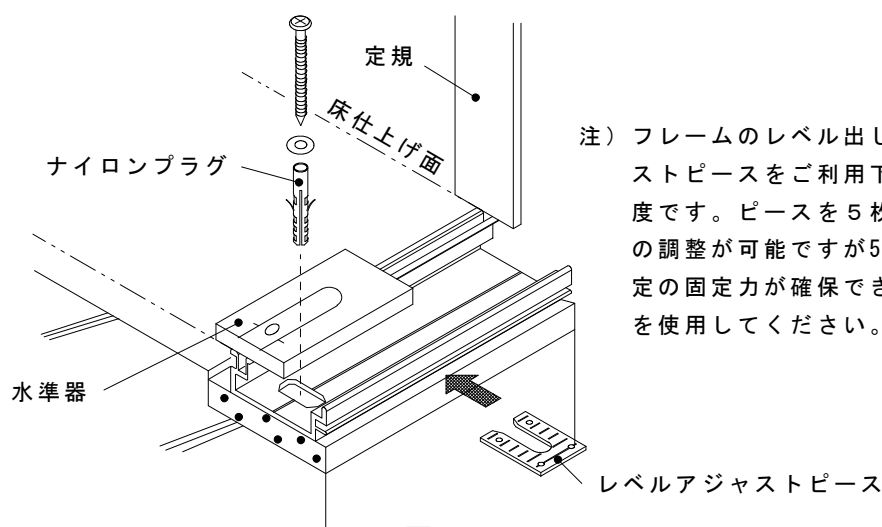


図 4

注）フレームのレベル出しには、付属のレベルアジャストピースをご利用下さい。調整範囲は 1 0 mm 程度です。ピースを 5 枚以上使用すると 1 0 mm 以上の調整が可能です。5. 0 × 50 の固定ねじでは所定の固定力が確保できないため 5 0 mm 以上のネジを使用してください。

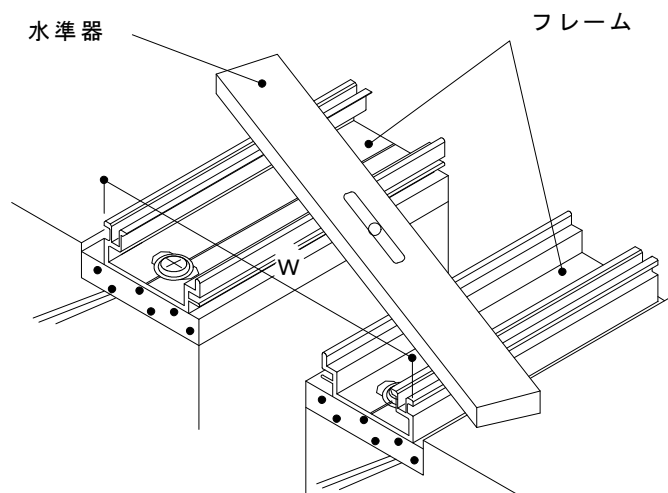


図 5

表 3． W 寸法表

呼 称	W 寸法
SX66 — 50F	200
SX66 — 100F	350
SX (AX) 66 — 50G	150
— 100G	250
— 150G	350
— 200G	450
SX66 — 300G	550

3-1. 補助シートの取付

フレームのA部に補助シートを差し込みます。(図6)

注) 直線距離が長い場合、先に補助シートを垂らしてからA部に差し込むとよじれの原因となり、施工後外れてしまう場合があります。補助シートはロールのまま上から順に左右対象に差し込んで下さい。

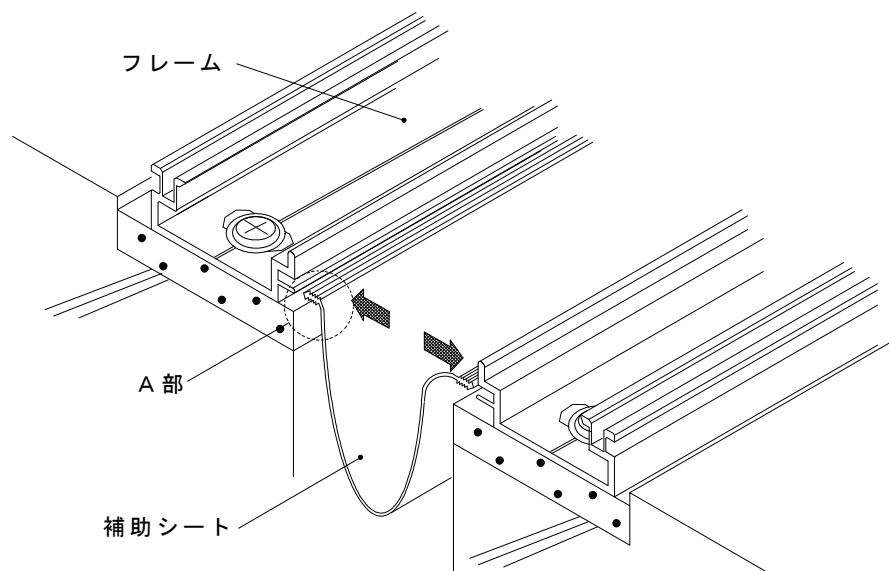


図 6

3-2. 外廊下の場合補助シートの取付

補助シートをフレームの下にはさみ込み、ナイロンプラグと固定を用いてフレームを固定します。

注) フレーム固定後、固定ねじ頭部のコーキングを行います。(コーキング材は、別途です。)

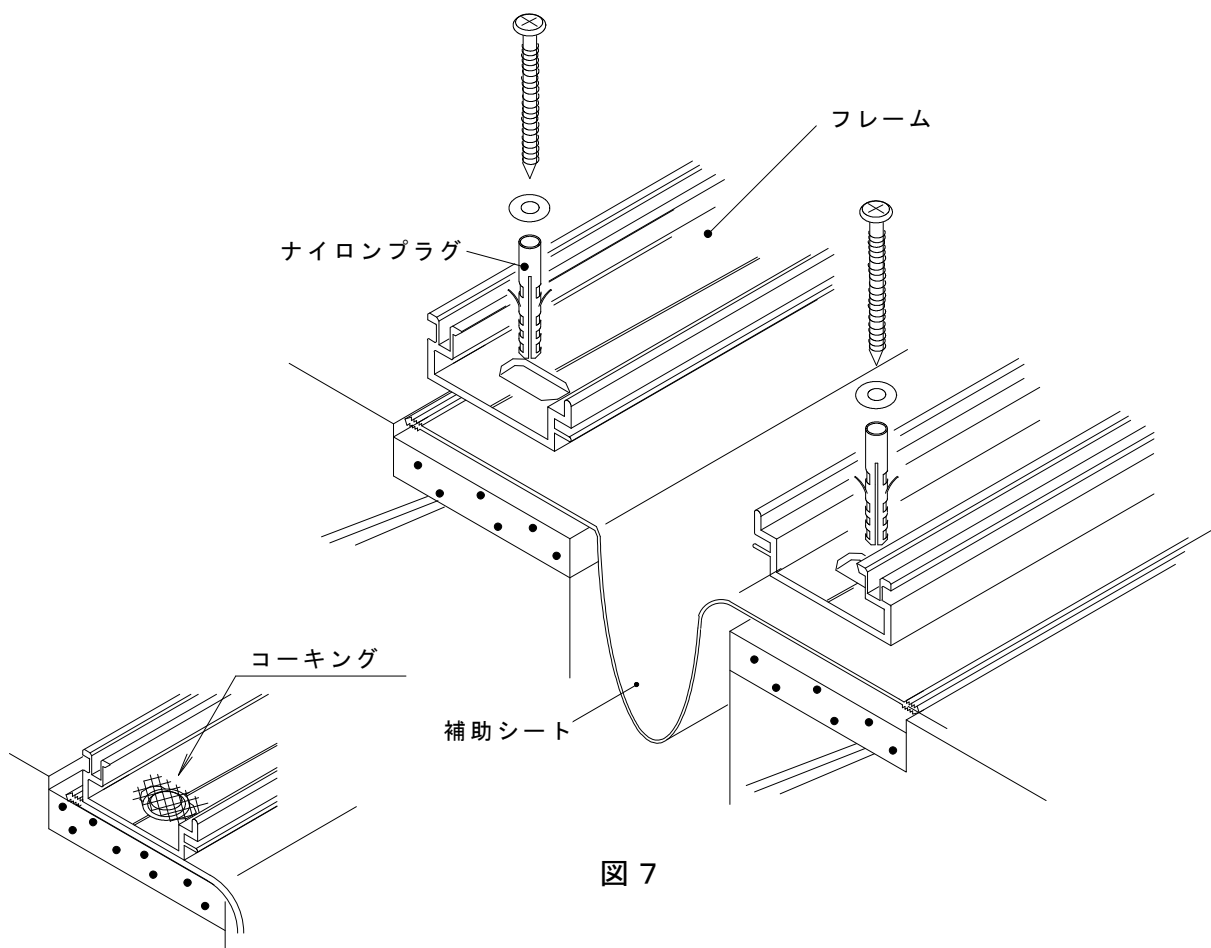


図 7

4-1. カバーの取付

スライドプレートをフレームにのせ、カバーの穴に従い皿頭ドリルねじで固定します。（※下穴不要）

注）300Gタイプについては、カバー穴を基準にフレームにφ3.6の下穴をあけ、皿頭ドリルねじで固定して下さい。

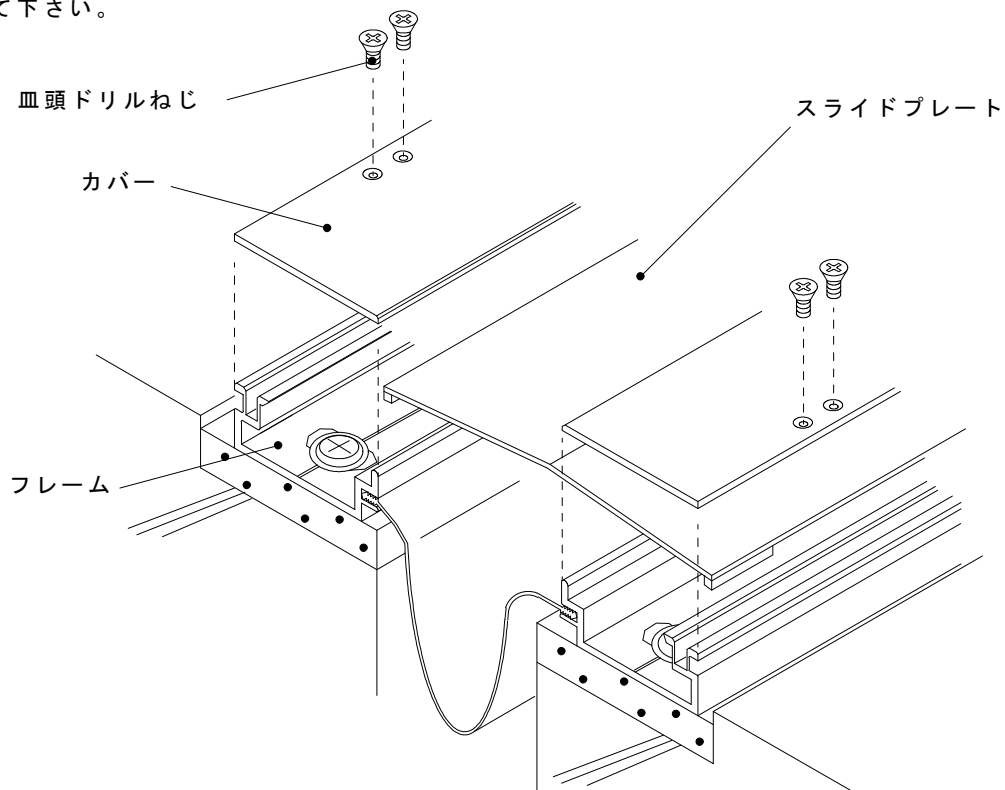


図 8

※カバービス止め時の注意事項

カバーをビス止めするとき両端からネジ止めしていくと真中（中央部）にしわあよせがきてしまうため図9に示すように端から順にネジ止めを行います。

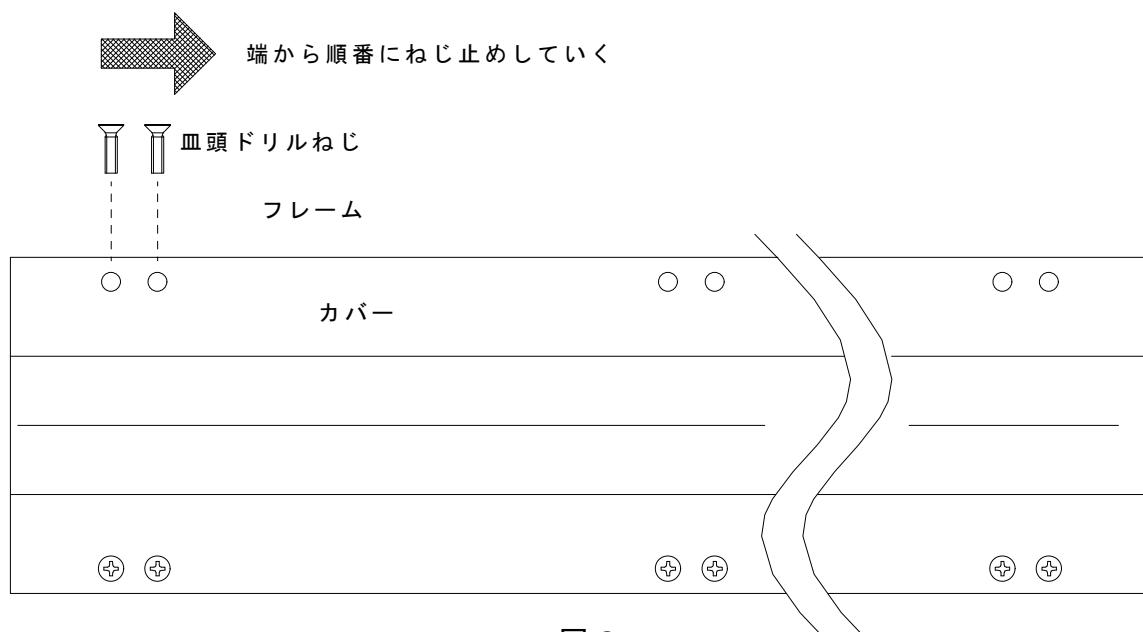


図 9

スライドプレート、カバーの取付（追加：ジョイントが発生する場合）

スライドプレートをフレームの上にのせます。スライドプレートのジョイント部分についてはジョイント金具とスピードナットでスライドプレートを固定してください。（S Xタイプのみ）次に、カバー穴に従い、カバーを皿頭ドリルねじで固定します。（※下穴不要）外部及び直射日光が当たり温度差が大きくなるような場所などに取り付ける場合、必ずカバーとカバーの隙間を3000mmに対してジョイント目地3mmを必ず確保してください。（図10）

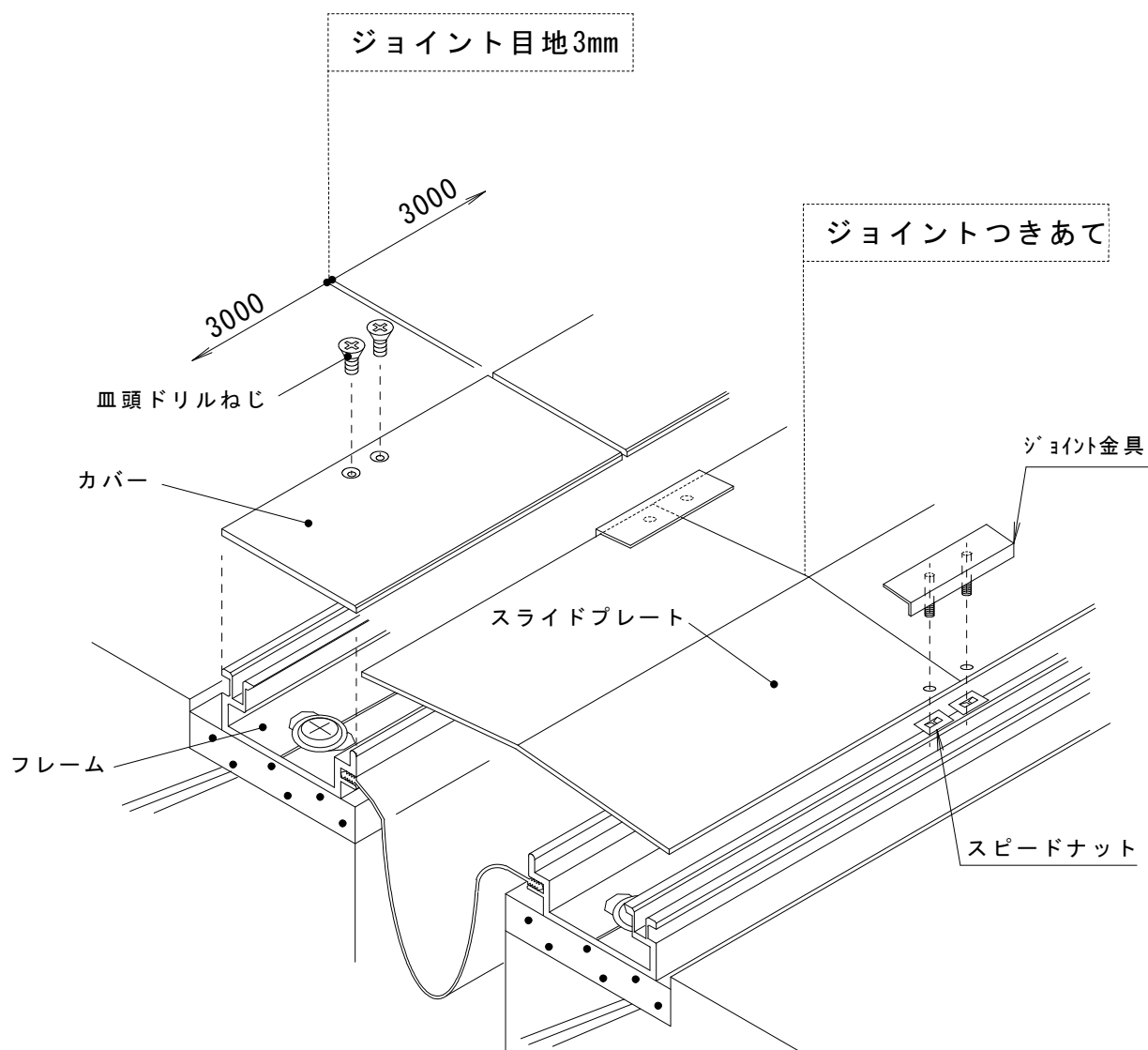


図10

床－内壁 S X (A X) 5 6 A

下地仕上

1. 建物のクリアランスは、図 1、表 1 のように仕上げてください。それぞれの規定値よりも狭い場合には変形性能が確保できなくなる場合があります。
2. フレーム取付面の凹凸は極力避けて下さい。

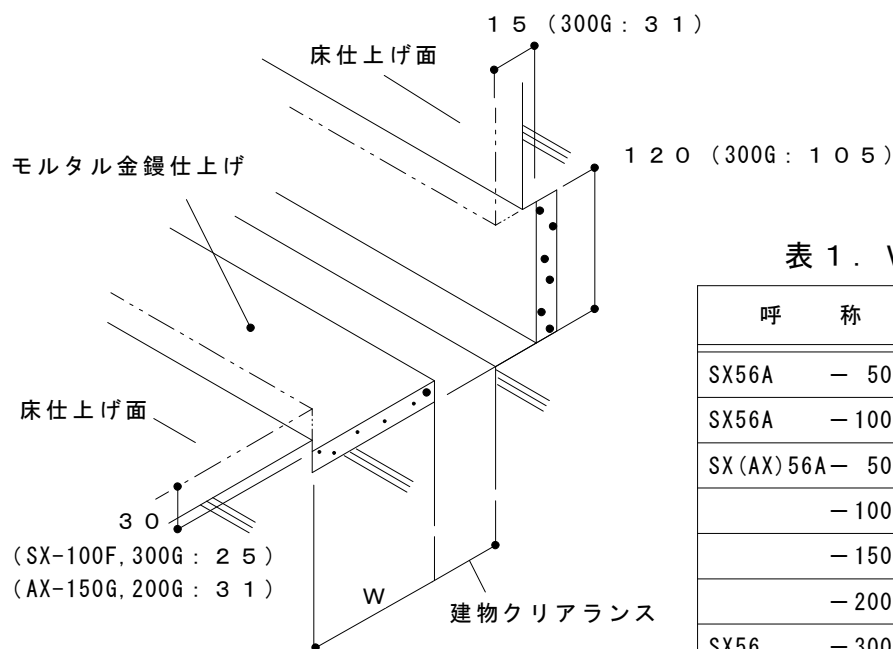


表 1 . W 寸法表

呼 称	W 寸法
SX56A — 50F	110
SX56A — 100F	180
SX (AX) 56A — 50G	60
— 100G	100
— 150G	120
— 200G	150
SX56 — 300G	150

図 1

取付準備

製品は使用場所別に手配書の部番に合わせて梱包出荷されます。取付前に部品ユニットがすべて揃っていることを確認してください。

取付は次の順序で行ってください。

1. 墨打ち

壁仕上げより 1 0 0 0 mm 逃げた位置、床仕上げより 1 0 0 0 mm 上がった位置に図 2 のように逃げ墨を打ってください。

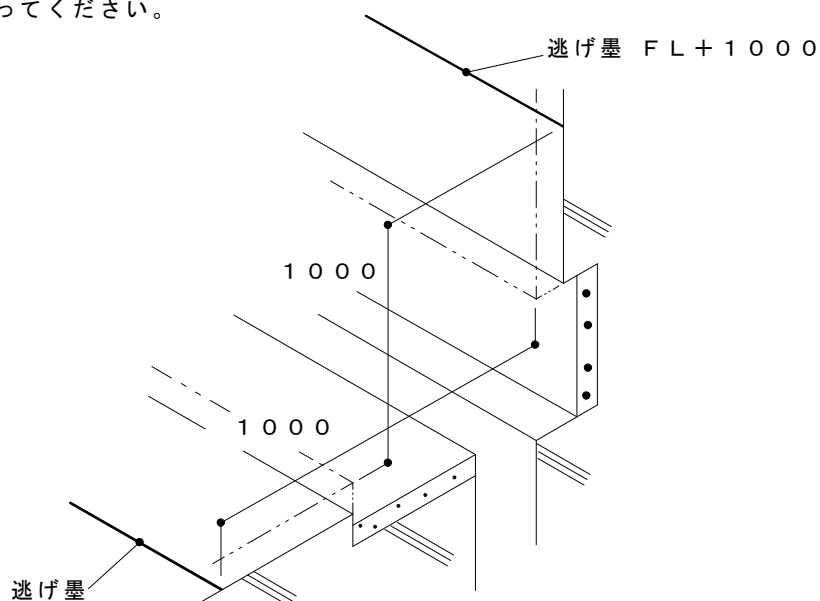
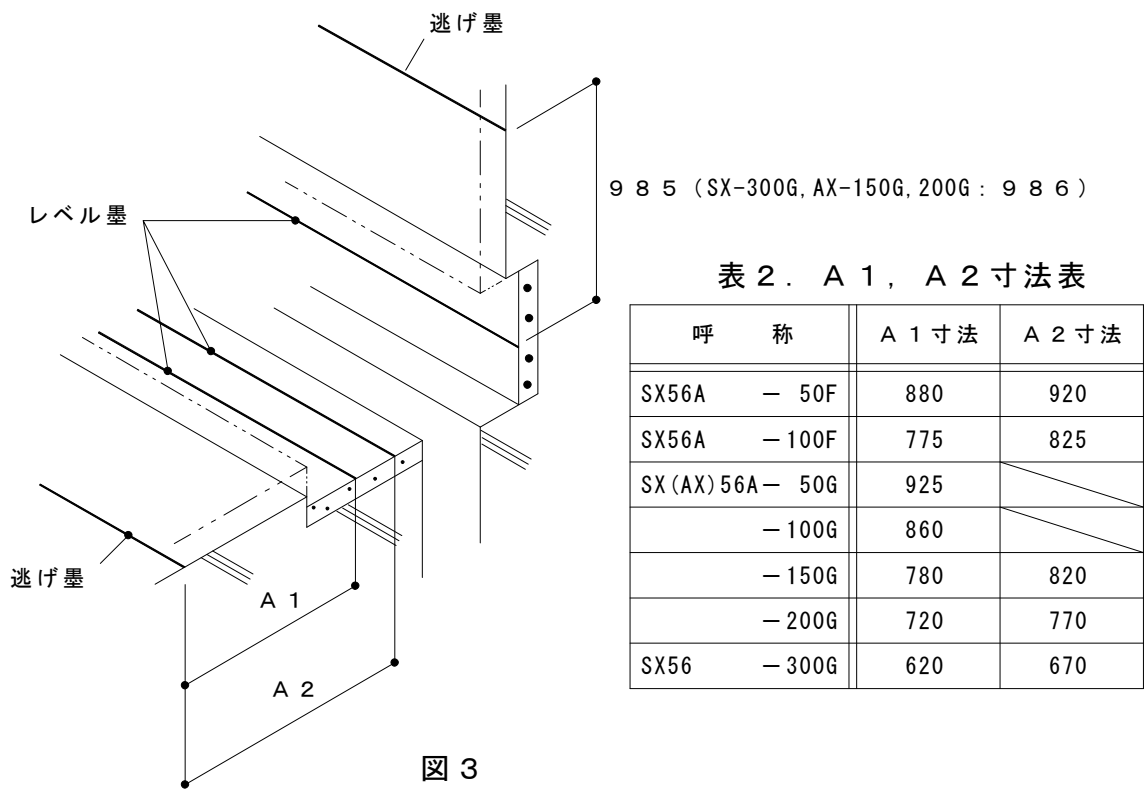


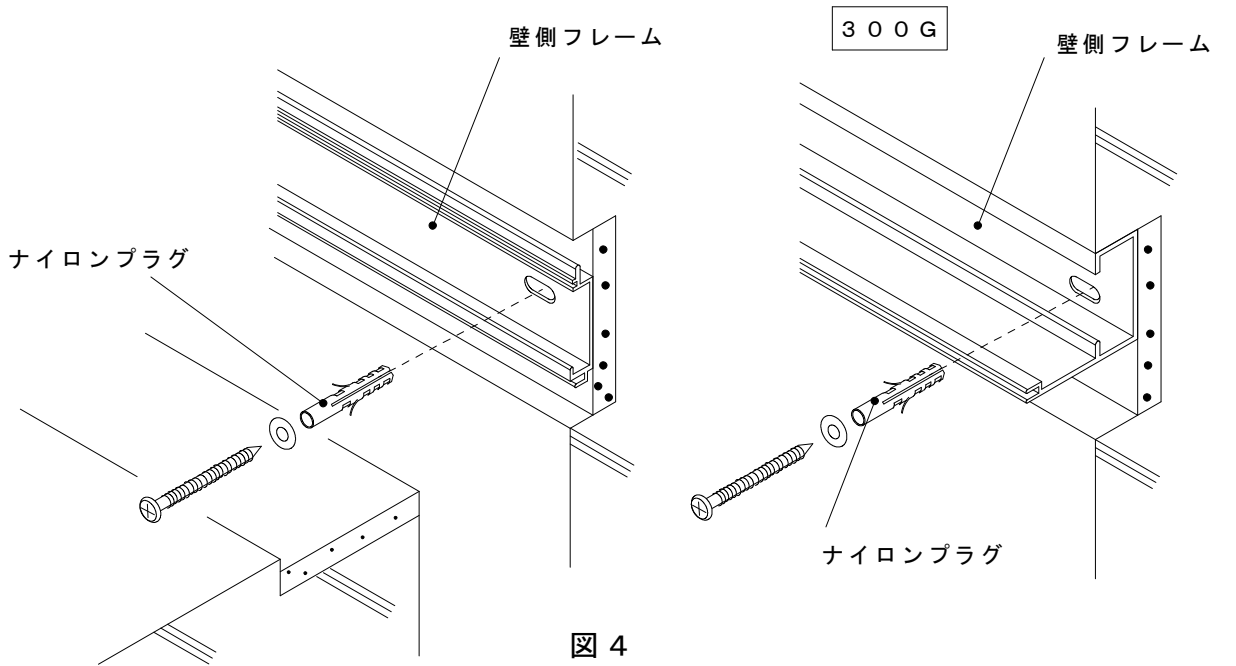
図 2

逃げ墨を基準にフレームを取付るためのレベル墨を打ちます。レベル墨の位置（A 1， A 2 寸法）は図 3 及び表 2 を参照して下さい。



2. 壁側フレームの取付

フレームに穴けられた穴をレベル墨に合わせφ 8、深さ 6 0 mmの下穴をあけます。付属のナイロンプラグを下穴に挿入し、固定ネジでフレームを固定します。（図 4）



3. 床用フレームの取付

フレームに穴あけられた穴をレベル墨に合わせφ8、深さ60mmの下穴をあけます。付属のナイロンプラグを下穴に挿入し、固定ねじでフレームを固定します。(図5)

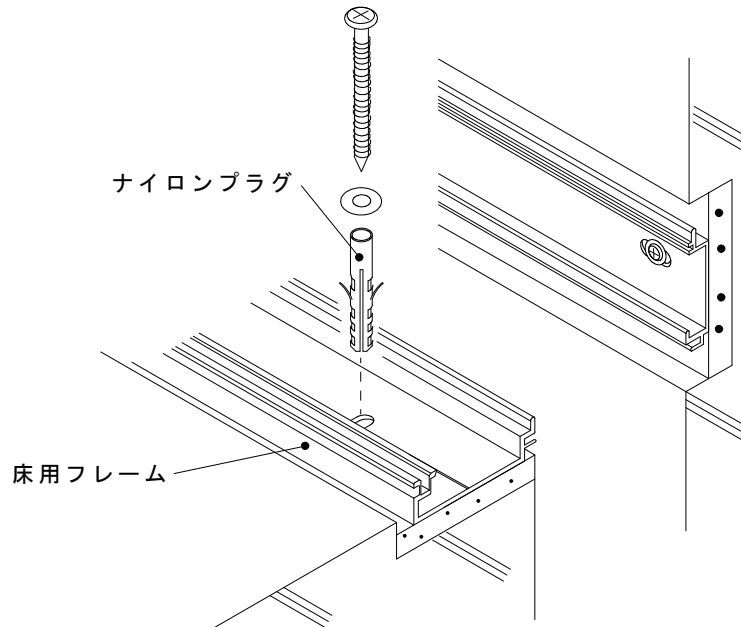


図 5

4-1. 補助シートの取付

壁側フレーム、床用フレームのA部に補助シートを差し込みます。(図6)

注) 直線距離が長い場合、先に補助シートを垂らしてからA部に差し込むとよじれの原因となり、施工後外れてしまう場合があります。補助シートはロールのまま上から順に左右対象に差し込んで下さい。

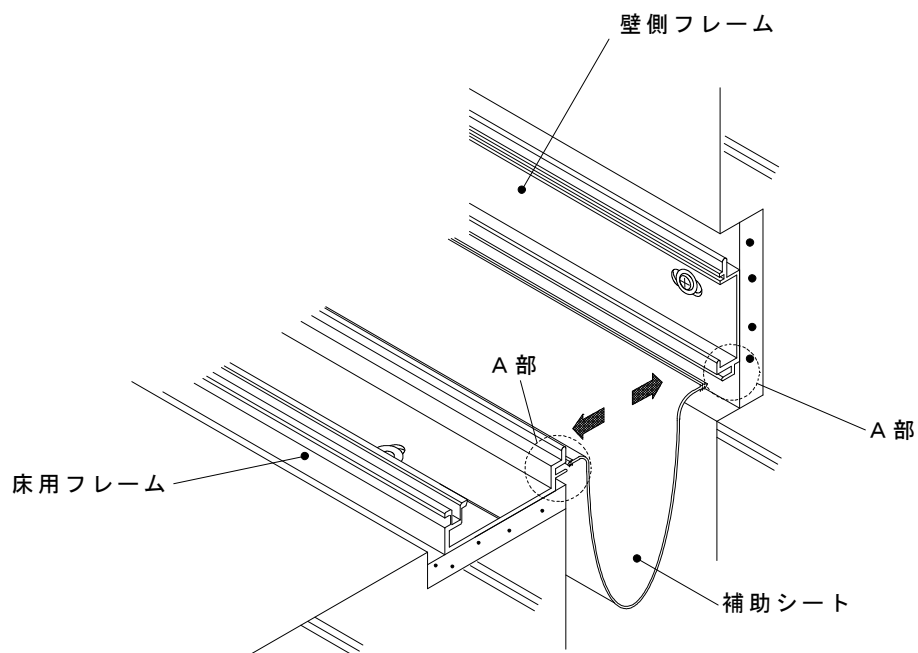


図 6

4-2. 外廊下の場合補助シートの取付

補助シートを床用フレーム・壁用フレームの下にはさみ込み、ナイロンプラグと固定を用いてフレームを固定します。

注) フレーム固定後、固定ネジ頭部のコーキングを行います。(コーキング材は、別途です。)

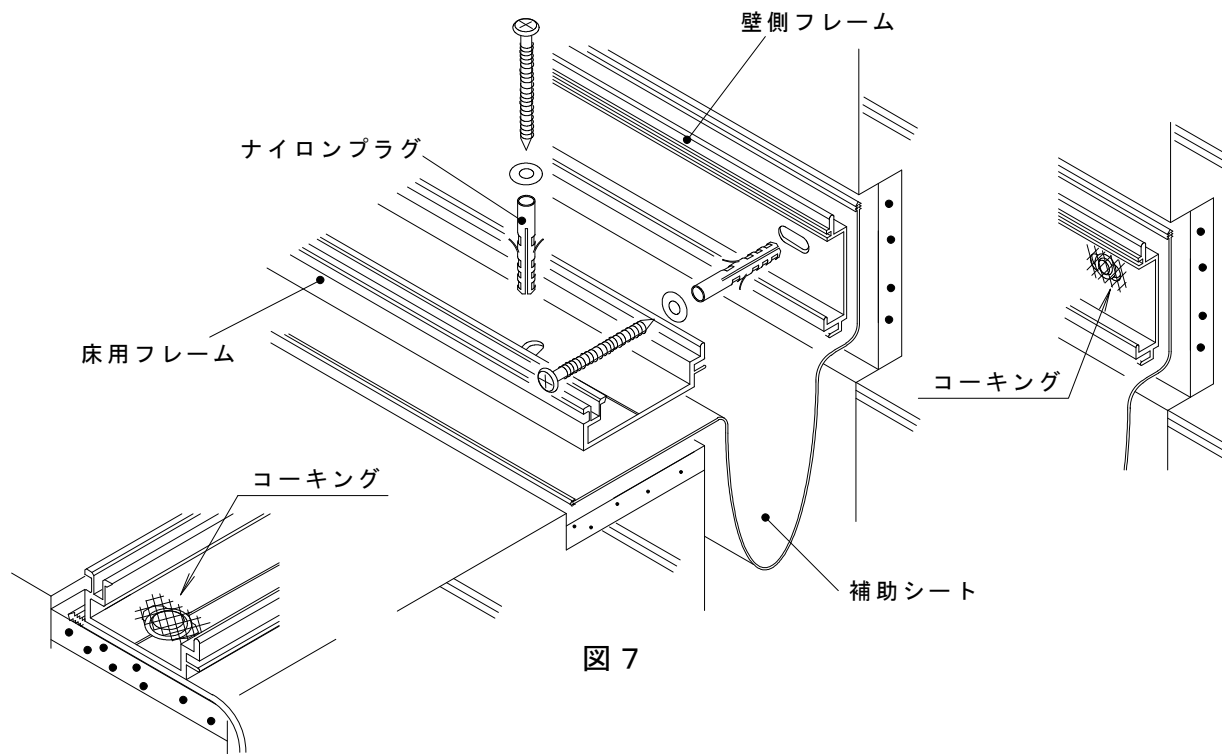


図 7

5. カバーの取付

スライドプレートをフレームにのせ、カバーAの穴に従いの皿頭ドリルねじで固定します。(※下穴不要)

カバーBの穴を基準にフレームにφ3.6の下穴をあけ、皿小ねじで固定して下さい。(図8)

A Xタイプには、壁側フレームにクリップが付いておりカバーBを嵌合させるだけで固定できます。

注) 100F, 300Gタイプについては、カバーAの穴を基準にフレームにφ3.6の下穴を開け、皿頭ドリルねじで固定して下さい。

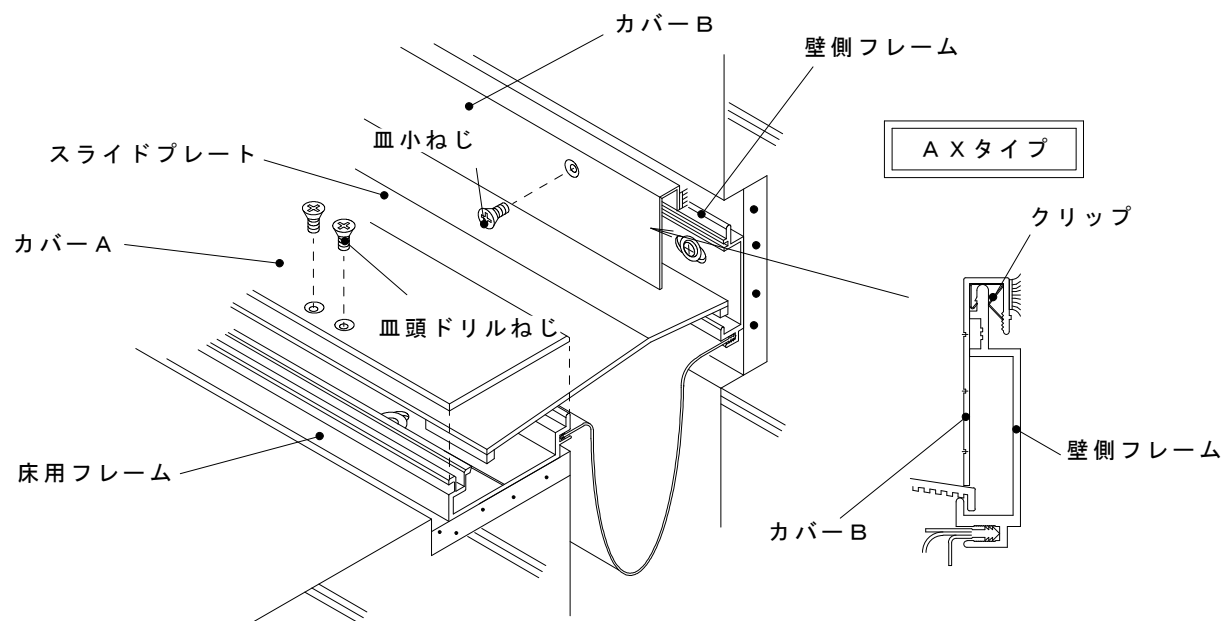


図 8

※カバーねじ止め時の注意事項

カバー A、B をネジ止めするとき両端からねじ止めしていくと真中（中央部）にしわあよせがきてしまうため図 9 に示すように端から順にねじ止めを行います。

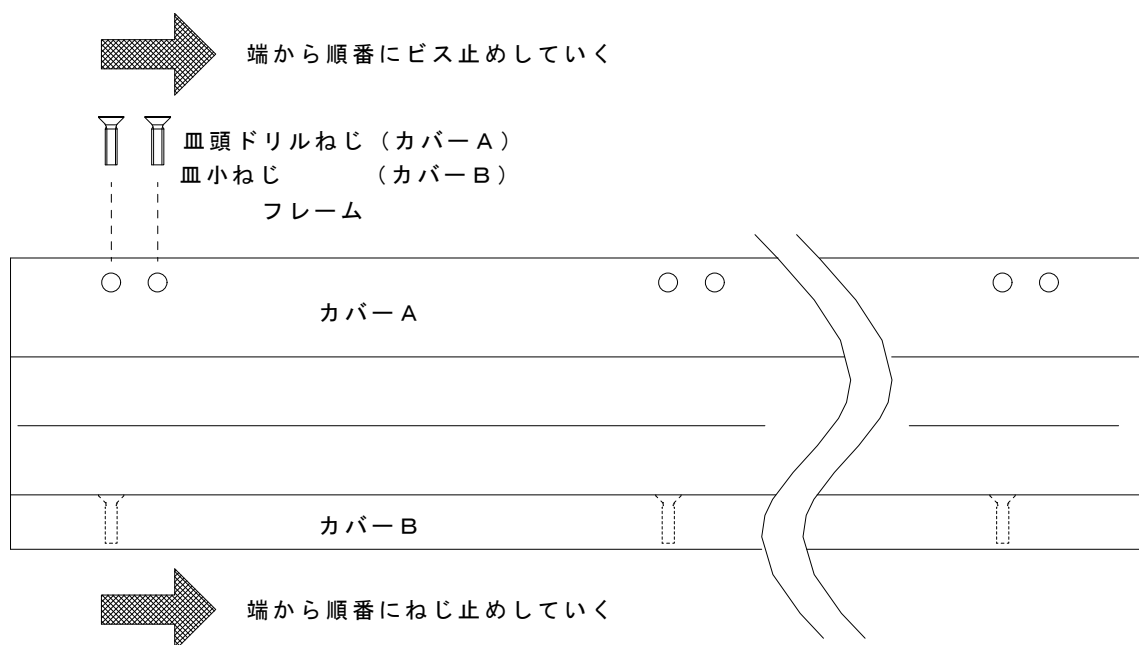


図 9

6. コーキング

壁面とカバーの隙間にコーキングを行います。（図10）

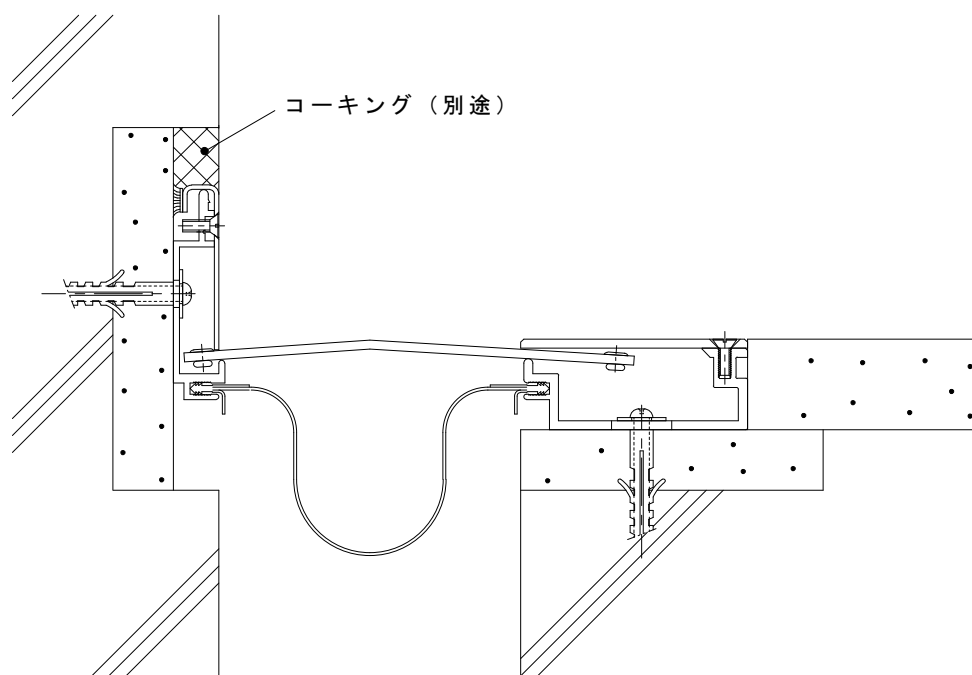


図10